

ある。次の数字はこの過程を数量的に説明してゐる。即ち、一九二八—一九三二—一九三三年に至る五ヶ年間に、工業輸出額は一五八パーセント増加し（一九二八—一九二九年の三億九千二百萬ルーブルから一九三二—一九三三年の十億千四百萬ルーブルへ）、一方、農業輸出額は同期間中一七〇パーセント（三億八千二百萬ルーブルから十億三千三百萬ルーブル）増加するであらう。斯くして農業輸出額は實額に於て現在に比較して偉大なる増加を示すのみならず、總輸出額中より大なる重要性を占むるに至るであらう。

この最後に指摘した點は、穀物輸出額發展に關する状態によつて説明することが出来る。事實穀物を含めぬ場合の農業及び工業輸出額の相對的重要性の變動は、次の表に見る如く全く異つて現はれるであらう。（表は輸出總額に對する百分比）

	穀物を含む		穀物を含まず	
	一九二一—二三年	一九三二—三三年	一九二一—二三年	一九三二—三三年
農業輸出額	四九・四	五〇・五	四五・四	三六・九
工業輸出額	五〇・六	四九・五	五四・六	六三・一

最近の二年間、サヴェートの輸出額から穀物が消えたため、總農業輸出額の相對的重要性は、工業輸出額の増大のみによるよりも遙かに多く減退した。然しこの状態は五ヶ年の時期の終りまでには匡正されるであらう。即ちその結果は、穀物をも含む農業輸出額の相對的重要性が幾分か増大し、同時に

穀物を含まざる全輸出額中の工業生産物輸出額も引續き増大するであらう。

サヴェート同盟は、一九三二—三三年迄には最近の數ヶ年の状態とは反對に實質的な穀物輸出國となるであらう。それは、五ヶ年計畫が農業、特に穀物經營のために設けた目的並に該計畫の豫定する社會的、經濟的進歩と完全に一致するものである。耕地面積の擴大に伴つて増加する穀物收穫は、必ずや穀物輸出額の増加を可能ならしめ、同時に國內市場の需要を満たし且つ必要な貯藏をもなさしむるであらう。肥料、家畜、及びトラクターの供給を擴大することは、穀物生産増大のための最も重要な要因である。

これらの諸要因と共に、國營及び協同經營農場の發展は輸出貿易に對するその影響から見て特に重要なものとなるであらう。即ち、社會化部分の擴大は、農産物の市場販賣部分を相對的に増加せしめ而もこのことは、單に社會化部分より供給される穀物の増加部分を輸出するといふ便益を與へることになるのみではなく、輸出計畫實現のために、より鞏固な、より確實な基礎を與へ、且つ輸出穀物の品質と條件とをより有効に統制し得しめるであらう。もとより斯かる結果を得るためには、國營農場組織に於て、國內市場向穀物生産地方と輸出向生産地方とにそれらを正しく分布させるため、地理的條件に就て適當な考慮が拂はねばならぬことは言ふまでもない。

けれども、穀物輸出は五ヶ年間に絶對的にも相對的にも増加を示し、又従つて總輸出額中に占むるその割合が今日よりも大となるであらうと云ふ事實にも拘らず、尙ほそれは戦前よりは著しく少なく

一九三二—三三年には、一九〇九年より一九一三年に至る数年間の平均五三・二パーセントに對して總輸出額の二四・七パーセントを占むるに過ぎないであらう。穀物輸出額は、一方廣い範圍に亘つて集約的經營の生産物に道を譲ると共に、他方工業生産物に道を譲るであらう。次表は五ヶ年の時期の終りに於けるサヴェート輸出額を一般的な商品種別によつて分類したものである。

輸出額の分配	一九三二—三三年		一九〇九年に對する一九三—三年の比率(百分比)
	百萬ルーア	百分比	
農業輸出額	九五・三	二六・六	五七〇・三
主要耕作物	一三五・二	一五・六	二三六・三
動物及家禽類産物	一三二・二	六・三	九八・三
狩獵及漁獲物	一九・六	二・〇	二〇四・一
其他の農産物	三三二・三	五〇・五	二七〇・二
工業輸出額	二二〇・五	三三・一	二九四・三
林産及鑛産物	六七八・四	—	—
合計	一、〇三三・〇	—	—

總計	一九三二—三三年		一九〇九年に對する一九三—三年の比率(百分比)
	百萬ルーア	百分比	
食料及類似品	四八・七	四・九	二〇四・五
其他の工産物	一一二・四	一一・五	二一〇・四
合計	二九一・六	四九・五	二五九・一
總計	七七三・九	一〇〇・〇	二六四・六

所謂「第二流輸出額」の増進について特に指摘する必要がある、蓋しそれは、五ヶ年間にサヴェート同盟の輸出の基礎を著しく擴張することを意味するからである。斯くて從來輸出貿易に對して關與すること少なかつた多くの工業と農業活動とは、五ヶ年間にサヴェート輸出の源泉としての重要性を漸次増大するであらう。

輸出貿易の規則的にして堅實な發展を確實ならしめ、輸出市場へ出すための必要な技術的設備を設けるため、エレベーターの建設、倉庫、農産物の最初の處理のための經營、冷蔵庫、擇り分け施設等のために膨大な資本が投下されるであらう。又、巨大な資本が、シベリアや極東に於ける輸出向工業の發展のために充當されるであらう。

外國貿易に於ける資本投下の問題は、輸出品産地の地域的分布の問題と密接に結びついてゐる。資本投下は輸出向生産の適當な地理的分布と一致せしめられねばならぬであらう、そしてそれは輸出品の品質の改良と結びつけられねばならない。若干の主要商品に就いてそれらの要素を吟味するのが都

合よいであらう。

穀物類に關する限りに於ては、主要輸出地域は黒海の沿岸港に近いといふ點でウクライナ、クリミア、及び北コーカサスでなければならぬであらう。國內市場へ供給される穀物は、第一にサヴェー同盟の東部地方から來るべきである。

木材輸出地として割當てられる地方は、地理的位置の好適な、例へば白海の諸港、カレリア及びレニングラード地方、極東地方、トランスコーカサス等に密集してゐる森林地帯でなければならぬ。

石油類にあつては、近き將來の主要目的の一つは五ヶ年の期間の終りまでに新しい産地の開發が準備できるやうにより徹底的な踏査をすることである。同時に石油産業には、主要産地間の機能の分配の問題、即ちエムバ地方には國內の供給を振當て、グロズニイ及びアゼルバイジャン地方の産出品は主として輸出に當てるといふ問題があるが、これは未だ考究中であつて、現在の所結論には達してゐないが、外國貿易にとつて非常に意義のある問題であらう。

滿庵に關しては、チャツリの生産品を主要輸出資源とするのが適當と考へられる、蓋し該産地の鑛石は質が良く、そして港に對する地位が有利であるといふ二つの便益を有つてゐるからである。ニコポール地方は、主として內國市場のため經營せられ、剩餘のみが陸境を越えて輸出されるであらう。

所謂「第二流」輸出品を含めての、其他の多數の貨物に對しても、輸出の要求に従つて適當に地域的分配をなすことは、五ヶ年の期間の事業成功のための一要件である。

これと同じく重要な問題は、輸出品の生産に於て、一定の工業經營の専門化を計ることである。斯かる専門化は言ふまでもなく、地域的分配と密接に結びついて居るのであるが、貨物の品質の大改善を可能ならしめ、且つサヴェート産物の海外輸出のために非常に重大な、品種の高度の標準化と規格化とを達成せしむるであらう。然しそれは非常に重大であり、且つ錯雜した任務である。蓋し、輸出貿易によつて達成さるべき量が非常に多く、且つその性質に及ぼされる變化が著しいこと、そして又凡ゆる適當なる制限の下に五ヶ年の時期に對する最重要貨物の世界市場に於ける一般的狀況が今日已に豫想せられるからである。

五ヶ年計畫の輸出貿易計畫プログラムの分析は更に輸出組織の一層の改善の問題に導いて行く。この改善を達成すべき若干の方策に就いては略述した所であるが、その中より重要な方策の二三に就いて述べるであらう。先づ第一に、各種の獲得組織(註)の活動をもつと有効な基礎の上に置き、又合理的な方法で種々な地域と機能がそれらの間に分配されねばならない。それと同時に、それらの組織と機關との安定が確立されねばならない。更に、各商品の一手販賣機關の組織に取りかゝることは一層必要であらう。蓋し今日斯かる組織は存しないが、その組織は可能だからである。廣く在外サヴェート通商代表に活動の領域と特殊の任務が適當に割當てられねばならぬであらう、そしてそれらは諸計畫を充分に一致させるため、通商人民委員會の計畫事業ともつと密接に結びつかねばならぬであらう。又、外國會社及び特に協同組合的組織との取引關係も亦強化されねばならぬであらう。

要するに政府によつて採用された五ヶ年經濟計畫は、輸出計畫の實行に就いては充分の保證を有つて居り、且つそれは巨大な商品貯藏の蓄積のために必要な諸條件を作るものと云ひ得やう。斯様にして、國民經濟の要求を満たすべき輸入計畫の樹立のために必要な基礎が準備されてゐるのである。

〔註〕「獲得組織」とは、生産し又は國內生産者より買上げる組織の意。

二、輸入

この國の輸入要求を満たすと云ふ問題は、最近の數年間サヴェート同盟が當面した最も重要な經濟問題の一つであつた。經濟活動の全分野に於ける最も強度の努力を意味するこの國の工業化は、工業の急激に増大しつゝある要求を充足すべき重大な任務を提起する。

現在に於けるサヴェート輸入貿易の構成は、その性質上たゞに戦前のそれと異つてゐる許りではなく、サヴェート制度下に於ける改造の初期のそれとも異つてゐる。著しい特徴は、贅澤品輸入の完全な消滅、消費資料の輸入に關する非常な經濟、及び生産を目的とする貨物の輸入が相應じて増加したこと等である。一九二七—二八年の輸入總額九億四千五百萬ルーブル中、生産手段は七億九千六百萬ルーブル、即ち總額の八四・三パーセントを占めた。工業用生産品の輸入は七億千八百萬ルーブル、即ち全輸入額の七六・パーセントに昇つた。

一九二三年より一九二八年に至る五ヶ年の期間のサヴェート同盟の輸入額總計三十五億七千百萬ルーブル中、二十八億四千六百萬ルーブル、即ち總額の七九・七パーセントが次表によつて知られる如く生産手段の輸入であつた。

一九二四—二五年度が凶作であつたため、小麥粉の輸入が過去の五ヶ年の期間の消費資料輸入額に含まれてゐるにも拘らず、生産手段の輸入額は、一九〇九—一三年の六三・五パーセントに對し全輸入額の七九・七パーセントを占めたのであつた。特に工業設備の輸入額は巨額に昇り、總輸入額に對する割合は遙かに戦前のそれを凌駕してゐる。

五ヶ年間の輸入額 (一九二三—二四年より一九二七—二八年に至る)

類別	百萬ルーブル	總額に對する百分比
一、設備	六四一・六	一八・〇
二、原料	一、四五一・四	四〇・六
三、半製品	五四六・八	一五・三
四、農業用輸入品	一八九・三	五・三
五、燃料	一七・一	〇・五
生産手段合計	二、八四六・二	七九・七
消費資料合計	六八五・一	一九・二
其他輸入額	四〇・〇	一・一
輸入額總計	三、五七一・三	一〇〇・〇

輸入総額は或る一定の制限を受けてゐるとは云へ、國民經濟の基礎部門のために必要な輸入貨物の供給を確保することは可能であり、且つ輸入は若干の工業の發展に實質的に協力するといふ重要な役割を演じてゐる。若干の最重要商品の消費総額に對する輸入品の割合は凡そ次の如くである。棉花、四〇パーセント以上、精毛、九〇パーセント以上、銅、約五〇パーセント、亜鉛、約九〇パーセント、アルミニウム及びニッケル、一〇〇パーセント。尙ほ必要なトラクターの大部分は目下輸入中である。一九二七—二八年に工業に於ける資本創設のために要する全設備のうち、二七パーセントは輸入された。これらの數字は、工業全體のためにも亦若干の主なる個々の産業のためにも、輸入品が現在重要であるといふことを示してゐる。

五ヶ年計畫に定められた偉大なる輸出額の増加は、一九三二—三三年の輸入計畫を一九二七—二八年の八〇パーセントの増加を示す十七億五百万ルーブルと定めることを可能にしてゐる。この發展の割合は戦前の記録よりも著しく大きい(一九〇九—一三年の五ヶ年間は五〇・六パーセント)。

五ヶ年輸入計畫

一、工業及運輸設備	一九二七—二八年(A)		一九三二—三三年(B)		(B)の(A)に對する百分比	自一九二七—二八年、至一九三二—三三年の五ヶ年間合計	
	百萬ルーブル	百分比	百萬ルーブル	百分比		百萬ルーブル	百分比
二、原料	三、八四	四〇・七	五、三三	三〇・八	一三六・二	二、〇四七	三三・一
一、工業及運輸設備	二、五六	二七・一	五、三五	三〇・八	二〇五・一	一、七八四	二六・八

三、半製品	一九二七—二八年(A)		一九三二—三三年(B)		(B)の(A)に對する百分比	自一九二七—二八年、至一九三二—三三年の五ヶ年間合計	
	百萬ルーブル	百分比	百萬ルーブル	百分比		百萬ルーブル	百分比
四、農業必需品	三、九	四・二	一、六五	九・六	四三・一	六三・二	一〇・一
生産手段合計	七、六	八四・三	一、二七三	七、七	一五九・九	四、八三三	七六・〇
一、一般消費品	一、三〇	一三・七	二、五〇	一四・六	二〇八・三	八二四	一三・二
二、醫療藥品	一〇・五	一・一	一、二	〇・七	一一四・三	四五	〇・七
三、文化的必需品	一、二・五	一・三	二、〇	一・二	一六〇・〇	六六	一・一
消費資料合計	一四・三	一五・一	三、八二	一六・五	一九七・二	九二五	一五・〇
其他の輸入額	六	〇・六	一、五〇	八・八	—	四三二	七・〇
輸入總額	九、四五	一〇〇・〇	一、七、七五	一〇〇・〇	一八〇・〇	六、一八〇	一〇〇・〇

生産手段は引續き輸入總額の殆んど大部分を占めるであらう。そしてこの點に於て状態は實質上變化なく續くであらう。消費資料の輸入額が、實額に於ても亦總輸入額に對する割合に於ても、共に増加が可能となるのは、輸入状態の緊張が和けられる五ヶ年の期間の終り頃に限るであらう。

生産手段の部類に在つては、五ヶ年の期間に於て、工業及び農業用機械の輸入額は堅實に増加し、又それに應じて原料及び半製品の輸入額の重要性は減退し、漸次それらは國內産地から供給されるに至るであらう。

輸入品に依存することが次第に少くなつて行く傾向は、半製品類の輸入額の變動に就いて最もよく窺ふことができやう。既に過去數年間に於ても、工業が擴大したにも拘らず、この種輸入額を減少せしめることができた、そしてより以上の減少が五ヶ年計畫の下に豫定されてゐるのである。内國生産の發達の結果、綿絲・紙等の多數の半製品は五ヶ年の終りまでには輸入表の上から姿を失ふであらう。化學及び其他の工業が創設されるため、染料・化學製品・製革材料・及び其他の半製品の輸入の必要は五ヶ年計畫の進行と共に急激に減退するであらう。

一般的には農業の、特殊的には工業用作物の生産の、五ヶ年計畫の下に定められた速度に於ける發展と改造は、當然、右の半製品の場合と同程度ではないにせよ輸入原料への依存を次第に少からしむると考へることが出來やう。

次の數字から窺はれる如く、鐵以外の金屬に就いて、國內原料資源の發展の道に於ける實際的な成功が期待されてゐる。

金屬工業の急激な發達の結果は、鐵以外の金屬の消費總額に對する輸入額の割合が相對的に減少するであらう。一九三二—三三年に於ける精銅所の產出額は、一九二七—二八年のその三倍以上に達すべく、鉛の生産は十倍、亞鉛は二十倍以上に増加するであらう。

サウエート同盟に於ける鐵以外の金屬の消費額中國産品及び輸入品の占むる割合

—消費總額に對する百分比—

	國産品	輸入品	總額
銅	一九二七—二八年 五〇・一	四九・九	一〇〇・〇
	一九三二—三三年 五九・〇	四一・〇	一〇〇・〇
亞鉛	一九二七—二八年 九・八	九〇・二	一〇〇・〇
	一九三二—三三年 七九・五	二〇・五	一〇〇・〇
鉛	一九二七—二八年 五・九	九四・一	一〇〇・〇
	一九三二—三三年 三八・九	六一・一	一〇〇・〇
アルミニウム	一九二七—二八年 —	一〇〇・〇	一〇〇・〇
	一九三二—三三年 四六・七	五三・三	一〇〇・〇
ニッケル	一九二七—二八年 —	一〇〇・〇	一〇〇・〇
	一九三二—三三年 五五・六	四四・四	一〇〇・〇

農業原料に關しては、五ヶ年計畫は棉花栽培の擴張のために著しい注意を拂つてゐる。現在、棉花は輸入原料品中最も重要な商品であり、而も棉製品工業の現在の生産額は人口の要求を満たすには足りない。故に、サウエート綿製品工業が國內原料に基いて發達するのを保證するために急速な棉花の増収が企てられてゐる。この點に關する五ヶ年計畫の規定は、一九三二—三三年の棉花産額は一九二七—二八年のその二倍半に達するであらうといふ國家計畫委員會の農業部の推計に基いてゐる。國

内棉花生産の斯くの如き擴大の結果、一九二七—二八年には工業消費額合計の四二・五パーセントであつた輸入棉花は五ヶ年の期間の終りまでには僅か一〇パーセントを占むるに過ぎぬであらう。この綿工業の發展は、灌漑に對する巨額の資本投下の計畫と結びついてゐるのである。

皮革に關する状態はこれと異つてゐる。總供給額中に占むる輸入額の割合は、たゞに減少せざるのみか幾分か増加さへするであらう。五ヶ年計畫に定められた皮革類の自給の發展も、擴大しつゝある製革業の要求を満たすには不充分である。故に皮革輸入の要求は五ヶ年の期間の終りに至るも依然として存在するであらう。

向ふ五ヶ年間の毛織工業の大擴張の企畫によつて、羅紗類の産額は一九三二—三三年には一九二七—二八年の二八〇パーセントに達するとは云へ、羊毛輸入額の相對的減少は大して望まれぬであらう。五ヶ年の期間に計畫されてゐる精毛綿羊飼養の擴張も精毛の不足を満たすには不充分であらう、而もこの擴張の結果は實際には五ヶ年の期間の終了後に始めて現はれるのであるから、一九二八—二九年より一九三二—三三年に至る間、羊毛の輸入は引續き著しく行はれるであらう。

五ヶ年の期間中、原料品輸入額を大いに節減することの必要は、工業及び運輸業に於ける發展事業と歩調を保つやうに、充分な規模で設備を供給することにおいて輸入貿易が當面してゐる極めて困難な問題の見地から特に重大である。工業設備の總輸入額は、五ヶ年間に約十八億ルーブルに達するであらう。

五ヶ年計畫は、工業設備の輸入額の大増加と並んで農業必要品輸入の著しい増加を豫定してゐる。農作物の増收、國營及び協同經營農場の大規模組織、農業原料生産の増進等を包含する農業の擴張と改造とは、農業用機械・トラクター等の適當なる供給を保證するための非常な努力を必要とするであらう。然るにトラクター及び附屬品の國內生産の著しい増加が企てられてゐるとは云へ、五ヶ年の期間にその要求を充たすには足りないであらう。

トラクター生産に關して該計畫は、一九三二—三三年中に五萬臺、五ヶ年間に八萬五千二百臺の産出を豫定してゐる。假令、トラクター供給の最小限計畫が遂行されたとしても、國內トラクター使用臺数は、現在の三萬八千臺に對し一九三二—三三年の終りまでには十六萬臺に昇る筈であるから、より多くのトラクターが是非とも輸入されねばならぬであらう。而してトラクター及び附屬品輸入額は五ヶ年間に數億ルーブルに及ぶであらう。

内國生産の著しい増大にも拘らず、肥料も亦同様五ヶ年間に引續き輸入せられねばならぬであらう。農業必要品輸入總額は、該期間中六億ルーブル以上に及ぶであらう。この數字は、農業の改造と發達の要因として輸入品が演ずる重要な役割を示すに充分である。豫定の輸入總額は、五ヶ年の農業發展計畫遂行のため必要な最小限度を表はしてゐる。それらの輸入品利用の効果は、全く、輸入トラクター運用の技術的基礎を適切に準備すること、それらの地域に應ずる肥料種類を徹底的に研究すること、それらの適當な分配等々のことに依存するであらう。然し乍ら内國肥料工業の加速度的發展は、

生産計畫が定められた期間中に完全に遂行された時に於てのみ、五ヶ年の期間の終りまでにて肥料輸入額を漸次減少せしめることができるであらう。

消費資料の輸入額の増大は、主として極東諸國よりの輸入に關するもので、それは又それら諸國に對するサヴェート輸出の増大によつて促進されるであらう。東方よりの消費資料輸入額は、五ヶ年の時期の終りまでには現在の額の一倍半に達する見込みである。茶——現在その消費は戦前よりも稍少い——、珈琲・コ、ア・オレンヂ・レモン等々の輸入額は、一般生活水準の向上のため著しく増加する見込みである。

この國の輸入品に對する要求が、今日に比較して五ヶ年の期間の終りには殆んど完全に満たされるやうになると同時に、該計畫は更らに貿易收支を有利ならしむる豫定を立てゝゐる、これは外國貿易の圓滑な發達を保證し、海外に於ける貿易活動のための條件を改善するために緊切なことである。一九二八—一九二九年より一九三二—三三年に至る五ヶ年の貿易の受取超過額は約八億ルーブルに達するであらう。

以上が五ヶ年間に亘つて計畫された輸入發展の主要な輪廓である。その著しい特徴は、世界市場との關係の擴大（それと共にサヴェート經濟の基礎部門は漸次それに依存することが少くなつてゐる）、消費者への輸入貨物の供給の一般的改善、又貯藏品及び外國爲替準備金の増加である。

それらの諸結果は五ヶ年の期間の終りに初めて見られるに過ぎないが、直ぐこの二三年間にも輸出

額の増加は、現在の輸入貿易の緊張と、輸入の可能性に對する一般的な狭い制限から來た困難とを漸次除去するであらう。國民經濟の基礎部門の輸入要求を満たすために、引續き數ヶ年の間、輸出の發展を促進し、短時日に輸入品の代用品を供給すべき國內の生産諸部門を擴張し、又輸入貨物の消費を節約するために凡ゆる努力が費されねばならぬであらう。

該計畫に隨つて輸入さるべき夥しい數の機械を有効に利用し得るか否かは、大部分輸入計畫が適當であるか否かに依存するであらう。工業は、特定の期限内に、建設計畫並びに輸入さるべき機械の技術的性質に應じて、輸入機械の引渡し及び利用の計畫を立てる任務を果たさねばならない。

五ヶ年計畫を一層よく完成せしむるための仕事は、該計畫によつてこの期間中輸入額決済の爲め外國に支拂はるべき六十餘億ルーブルを、最も有効に且つ合理的に利用するために必要な條件を取扱はねばならぬであらう。

附録第一

サヴェエート同盟における
經濟計畫制度

ソヴェート同盟に於ける經濟計畫制度

〔この項は五ヶ年計畫の英譯書編輯者によつて加へられたものである〕

ソヴェート同盟に於ける國家計畫制度は、國民經濟の全分野を網羅してゐるのであるが、然しその全分野が今日凡て同程度に社會化されてゐるのではない。社會化された分野とは、國家經濟團體或ひは協同組合組織の統制と指導の下にある分野である。故に、例へば鐵道及水上運輸・大製造工業・電化制度・及び外國貿易等は殆んど完全に國家機關によつて統制管理されてゐる。例へば農業や内國商業の如き其他の經濟部門は、一部は國家と協同組合の統制下にあるが殘部は依然として私的所有の下にある。けれどもソヴェート同盟の全經濟政策を貫く一般的傾向は、社會化の堅實な擴大の方向に向ひつゝある。

ソヴェート同盟の國民經濟の社會化部分に對する計畫の指導原理は、經濟的・文化的發展の最高の段階に到達し、且つ需要と利用し得べき供給との豫算に基いて國民經濟のこの部分の收穫を適當に利用し得るやうに合理的意志を適用することである。

未だ私的統制下にある國民經濟の他の部分に於ける計畫に關して云へば、それは過去に於ける經濟發展の經驗並に私經濟に恐らく及ぼさるべき社會化部分の影響をもち含めて將來可能な傾向を基礎とし

て可能なる見透しを立てることに歸するのである。換言すれば、私的部分に於ける計畫事業は、資本主義經濟に於て見られる總てこれらの全要素を、社會化部門より受ける影響と共に取扱ふことである。計畫によつて成就される結果とは何であるか？ 驚くべき程度にまで、鋼鐵・銅・石油等の一定の生産物の生産と分配とを統制してゐる、高度の工業國の大コオポレーションがこの問ひに對して解答を與へるであらう。斯かるコオポレーションは、或る點まで市場の需要を見越し、その生産をこれらの需要と相依存せしめ、且つ大規模生産の最大の利益を得ることが出来る。生産の集中と一般計畫化は、管理費を低め、生産過程を低廉・迅速・且つ單純化すべき大設備の實施を可能にする。又分配にあつては、集積と集中とは、より迅速に、より強度に、そしてより經費少くして商品を運轉せしめ、且つ販賣費・廣告費を節減する。

然し乍ら資本主義經濟に於ては、それ／＼の會社が獨特の方法で自らの事業を計畫するのであるから、それら多數の計畫間に固有な矛盾の結果、總ての企業は市場の本質的な力のまゝに左右せられるのである。だがサヴェート經濟の社會化部分には斯かる計畫間の矛盾といふ要素は存しない。サヴェート經濟體制は、個人の或るグループを富ますために設計されてゐるのではなく、經濟各部門間の發展に適當な比例を保たしむると共に、國全體を堅實に發展せしめ富裕ならしむることを目的とする國家經濟の體制である。このことは、個々のサヴェート組織のために偉大なる可能性を啓示するものであり、且つそれら諸組織に對して個人的・私的資本主義に引較べ著大なる利益を與へるものである。

蓋し、それは個々の企業間の矛盾のために一般計畫化の原理そのものを覆すことを意味する競争に基いて事業を営む代りに、總ての他のサヴェート經濟計畫と一致して立案された合理的計畫に従つて事業を営み得るやうにするからである。

サヴェート經濟の社會化・集中化・生産並びに通商の單一制度による計畫化・經濟諸活動に對する集中的融資——これらは生産及び分配を最高度に經濟的ならしむるためサヴェート同盟に於て用ひられた手段である。このことは、國家トラスト、コンビネーション、シンヂケートの創設と大企業の建設を通じ、又一般的計畫によつて指導される集中的管理、並にそれ／＼の地域に於て利用し得る原料と燃料とに従つて漸次經濟的地域別に諸産業を分配して行く系統的な政策とを通じて達成せられるものである。

サヴェート同盟が統一的・適應的・計畫的な經濟を有ち、政府が一經濟部門から他の部門へと資源を変更せしめ得る以上、如何なる特定部分に於ても失敗の可能性は失はれる。事實諸外國との商業關係の過程に於て、サヴェートの諸組織は唯だの一度もその責任を果し得なかつたと云ふ實例を残さなかつたのは蓋しこれが爲めである。

サヴェート同盟に於ける經濟の組織的管理は、單一の政府機關即ち國家計畫委員會（ゴスプラン）に集中された計畫に隨つて遂行されてゐる。現在サヴェート同盟經濟體制に於て實施されてゐる計畫は異つた長さの期間を包括してゐる。即ち國民經濟の全體を包括してゐる一般計畫は、五ヶ年の期間

並に一ヶ年に亘つて立てられてゐるものである。

五ヶ年計畫は、全國民經濟及び經濟活動の諸分野——生産・分配・財政等——の方針を概括してゐる。そして、當該期間中に於ける經濟的・文化的發展の全局面を斟酌し、最も經濟的な方法で最も急速度の發展を期し得るやう生産・分配・財政の額並に性質を決定してゐる。更らに又それは、經濟活動の諸分野間の均衡を亂しがちな凡ゆる要因を除くことによつてその最も調和した均衡を保つことに努めてゐる。

この國の全國民經濟に關する各年度の計畫は、前述したと同じ方法でまた同じ目的を以て準備されてゐるが、その性質はより具體的且つ特殊である。加ふるに、經濟活動の各分野に對しては年度毎・四半年毎に、又個々の企業に對しては毎月、更らに一層詳細な性質の計畫が夫れ々定められるのである。

サヴェート同盟國家計畫委員會の發した一般的指令に基いて計畫の準備が遂行される。各經濟分野及び個々の企業に關する特殊の基準は、直ちに、各省・地方・自治領・及び同盟各共和國の經濟機關によつて、經濟的職能を有つてゐる政府各部によつて、最後に個々の企業自身によつて遂行される。凡てそれらの特殊の基準は、國家計畫委員會によつて結びつけられ、單一の經濟管理の一般計畫に適應せしめられる。上級官廳の承認を経た後、國民經濟各年度計畫若くは五ヶ年計畫は、この國の全經濟活動の指導的規定として法律的效果を有つに至るのである。

該計畫は、サヴェート同盟及び同盟各共和國の經濟活動の各分野に於ける各政府部門（最高國民經濟會議・通商人民委員會・農業人民委員會等）の指導と監督の下に、國家トラスト並にシンヂケート、地方的經濟及び管理機關、及び人民大衆を包括する公民組織の積極的參加によつて施行されるのである。一度は壊滅と荒廢に瀕した國が、より一層強力な發達の可能な牢固たる經濟機構となつたのは、サヴェート同盟の勞働者大衆が、革命以來經濟的改造を促進するために示した鋭い關心と熱心、及びその驚くべき努力に負ふものである。このことは、將來に於ても亦國民的建設事業は、勞働者大衆の支持によつて、又勞働組合・工場會議・俱樂部等の組織や、又この國の當面する大問題の討議や、更らに又、管理・及び監督團體への直接の勞働者の代表を通じての彼等のこの事業への參加によつて初めて成功裡に完成され得ることを示すものである。

サヴェートの諸計畫はどの程度に實際の發展によつて確められるであらうか、といふ質問が起るかも知れない。云ふまでもなく、如何なる經濟計畫と雖も、絶對的正確さを有ち、又如何なる方向への偏向もなく、百パーセントの完全さを以て成就されることを期待することは出来ぬであらう、殊にその計畫が將來の長い期間に跨り、サヴェート同盟の如き宏大な國の全經濟生活を包含し、最も多様な經濟的要因の複雑な交互作用を伴ふ時、特に然りである。該計畫の目的は、詳細な見積りにより、絶對的正確さを以つて、凡ゆる細目に對して經濟的發展の進路を規定することにあるのではなく、むしろ、當該期間中つくさるべき經濟上の努力の基礎的な指導方針と一般的範圍とを決定するにあるので

ある。

一九二六—二七年より一九三〇—三一年に跨る期間に對して國家計畫委員會によつて立てられた、サヴェート同盟國民經濟五ヶ年計畫は次の如く工業及び農業總生産額を見積つた(戦前價格にて)(註)

一九二六—二七年	一八・八 (十億ルーブル)
一九二七—二八年	二〇・二
一九二八—二九年	二一・六
一九二九—三〇年	二二・九
一九三〇—三一年	二四・三

〔註〕「一九二六—二七年より一九三〇—三一年に至るサヴェート同盟國民經濟發展の展望」(サヴェート同盟國家計畫委員會刊、一九二七年)第二表及び第三表による。

經濟的發展を促進するために傾けられた異常な努力によつて、最初の二年間にそれらの見積りを非常に超過した。一九二六—二七年には、工業及び農業總生産額は(戦前價格にて)二百一十億ルーブル、即ち見積りを越えること二十三億ルーブル、又一九二七—二八年には、二百二十三億ルーブル、見積りを越えること二十一億ルーブルに達した。續く年度に於ても、經濟發展の可能性は前計畫の見積りを著しく凌駕する模様である。一九二八—二九年より一九三二—三三年に至る期間の現五ヶ年計畫は、出来る丈け完全且つ確實に、工業化と社會主義的發展の道を指して進むサヴェート同盟の増大

せる經濟的進歩のこれらの可能性を斟酌してゐる。

問題の期間中の新建設事業・生産・及び商業の財源に就ては、現計畫は殆ど大部分國內に蓄積された財源に基いてゐる。特許事業に投ぜられた(發展及び生産計畫の財政上)外國資本部分は全く些少であつて、五ヶ年間に新しく投下された基礎資本の殆ど一パーセントにも達しない。外國貿易に就ては、輸入の財源は殆んど大部分サヴェート輸出の受取額を以つて當てられ、國外信用は極めて小さな役割を演ずるに過ぎぬであらう。該計畫の下に於ては、輸出額は五ヶ年間全體として遙かに輸入額を凌駕するであらう(輸入額六十億ルーブルに對し輸出額は七十億ルーブル)。

サヴェート同盟の國民經濟は、最近數年間外國資本の援助なしに急速な速度で再建され發展した。將來も亦同様にして、この強度の發展の過程は、五ヶ年計畫の豫定する急速な歩調で引續き行はれ得るであらう。然し乍ら、サヴェート企業に對する公債乃至投資の形で、外國資本がサヴェート同盟へ夥しく流れ込むならば、その結果として經濟發展の割合は、該計畫の豫定するよりも一層急速となり、又それに應じて外國貿易額、特に輸入額は、五ヶ年間に上述の見積りを越えて増加するであらう。

サヴェート同盟の夥しき自然的富源、實施中の合理的な經濟政策、及び多くの大規模建設企業を含む工業化を目指して貫かれてゐる努力——これらの全要素は結合して、サヴェート同盟をして現在恐らく工業設備のための世界最大の潜在的市場たらしめ、且つ外國資本充用のための最も宏大な分野たらしめる。一九二七—二八年、サヴェート同盟への工業及び運輸設備輸入額は二億五千六百萬ルーブル

ルに達したが、該計畫に含まれてゐる五ヶ年間の合計額は十八億ルーブル以上に及ぶ見込みである。加ふるに農業用機械・器具の輸入額は約六億ルーブルに達すべく、そしてそれらの輸入額は、サヴェエートの輸入が巨額の長期外國公債の助力によつて擴張するならば、より大なる額に達するであらう。工業及び農業に於て改造と新發展の計畫が實施されるや、合衆國はサヴェエート輸入品の産地として諸外國中最も重要な國であることを充分に立證するであらう。蓋しその理由は、サヴェエート同盟に於ける工業生産は、大企業に集積され、且つ標準化された大量生産の原則に基いてゐるので、アメリカの機械及び器具は、その型と大きさに於て、その構造と設計とが大經營並に標準化された生産に適合してゐる最も適當してゐるからである。其上に又、アメリカの機械は多くの點でヨーロッパの生産品に比して技術的に卓越してゐる。合衆國は又、種々なる種類の改良された農業用機械の最大の生産國として、サヴェエート農業の機械化に於て重要な役割を演ずるであらう。

サヴェエート同盟の經濟的發展は、工業及び農業の技術的改造を包含する限り、生産手段の輸入額の激増を迫るであらうといふことは明らかである。原料品（棉花・鐵以外の金屬・樹脂等）の輸入も引續き行はれるであらう。

アメリカの技術的影響が、アメリカの機械の輸入以外の他の方法でサヴェエート同盟の國民經濟に浸透するであらう、即ち、アメリカの大商會との技術的援助契約によりアメリカの技術的訓練と經驗とをサヴェエート諸産業に攝取させること、アメリカの専門家を雇傭してサヴェエート同盟に於て働かしめ、

或ひはアメリカの生産方法を學ぶためにサヴェエートの特別委員と個人的専門家を直ちに合衆國に派遣すること、又サヴェエート同盟へ送られたアメリカの機械の實證、最後に又、サヴェエート同盟内に特許に基くアメリカ企業を創設すること等の方法によつて。

附錄第二

關係諸統計表

- 第一表 五ヶ年計畫におけるサヴェート同盟經濟發展の基礎的統計
- 第二表 五ヶ年計畫におけるサヴェート同盟國民經濟の構成
- 第三表 一九一三年(戰前)及び五ヶ年計畫直前の五ヶ年間に對する國民經濟五ヶ年計畫の基礎的比較表
- 第四表 社會化の過程
- 第五表 協同組合組織の發展
- 第六表 サヴェート同盟國民經濟基礎資本に對する資本投下
- 第七表 サヴェート同盟國民經濟基礎資本及び資本投下
- 第八表 サヴェート同盟國民所得
- 第九表 サヴェート同盟國民經濟財政計畫
- 第十表 五ヶ年計畫累年發展表

第一表 五ヶ年計畫に於けるサヴェート同盟
經濟發展の基礎的統計

第一、人口 (百萬人)		一九三一年	一九三三年	五年間合計	一九三一年に對する比率 (百分比)
(一) 總人口 (四月一日現在)		一五七・一	一九三・一	—	—
内、都	市	一五・三	一六九・二	—	一一・八
農	村	二七・九	三四・二	—	一二・六
(二) 勞働年齡人口 (十六才より五十九才まで)		一三三・四	一三五・〇	—	一〇九・四
内、都	市	八二・四	九一・五	—	一一一・〇
農	村	一七・七	二二・九	—	一二三・七
(三) 賃銀勞働者數 (農業及山林勞働者を含む、年平均)		六四・七	六九・六	—	一〇七・六
(イ) 1、都		一一・三五	一五・七六	—	一三八・九
2、農	村	七・〇	九・七	—	一三八・六
(ロ) 1、工		三・五	六・〇	—	一七三・五
2、業		—	四・六	—	一三三・四

2、建築業
3、運輸業
4、社會的厚生及び文化團體

第二、年度末に於ける資本化状態(十億ルーブル)

(一) 基礎資本	六九・八	一二六・九	一八二・〇
(二) 運轉資本	一五・〇	三四・五	二二〇・〇
(イ) 一九二六—二七年度價格	一五・二	二八・九	一九〇・〇
(ロ) 當該年度價格			

第三、資本投下(十億ルーブル)

合計	八・二	二七・七	六二・七
(イ) 一九二六—二七年度價格	八・〇	一九・六	七四・二
(ロ) 當該年度價格			
内、1、基礎資本	七・三	二三・四	七七・七
イ、一九二六—二七年度價格	七・一	一七・一	六四・六
ロ、當該年度價格			

2、運轉資本

イ、一九二六—二七年度價格	〇・九三	四・二七	一五・〇	四九・〇
ロ、當該年度價格	〇・九四	三・五六	一三・八	三八〇・〇

第四、國民所得(正味生産高—十億ルーブル)

(イ) 一九二六—二七年度價格	二四・四	四九・七	一八六・六	二〇三・〇
(ロ) 當該年度價格	二四・七	四三・三	一七五・一	一七五・〇

第五、電化

(一) 年度末に於ける基礎資本(一九二六—二七年度價格にて、工場附屬發電所を除く—十億ルーブル)	〇・九三	四・八七	—	五二四・〇
内、地方の中央發電所	〇・七二	三・六六	—	五六六・〇
(二) 資本投下(工場附屬發電所を除く—十億ルーブル)	〇・三二	一・四四	四・四七	四六五・〇
(イ) 一九二六—二七年度價格	〇・二八	〇・八六一	三・〇五九	三〇三・〇
(ロ) 當該年度價格				
内、地方の中央發電所	〇・二五	一・〇二	三・三六	四〇八・〇
(イ) 一九二六—二七年度價格	〇・二〇	〇・六〇五	二・三〇二	二六三・〇
(ロ) 當該年度價格				

(三) 發電力合計(千キロワット)	1,700.0	5,500.0	—	3,800.0
(イ) 工場附屬發電所を除く	880.0	3,750.0	—	2,870.0
(ロ) 地方の中央發電所	520.0	3,100.0	—	2,580.0
(四) 電力供給(十億キロワット時)	5.1	23.0	65.0	31.0
(イ) 工場附屬發電所を除く	2.4	15.5	—	13.1
(ロ) 地方の中央發電所	1.9	14.0	—	17.9

第六、工業

(一) 基礎資本(年度末現在、一九二六—二七年度價格に て、工場建物を含まず—十億ルーブル)	9.6	30.7	—	21.1
同、地方及都市發電所を除く	8.6	25.8	—	17.2
内、最高國民經濟會議計畫工業	6.8	20.7	—	13.9

(二) 資本投下(工場建物を含まず—十億ルーブル)	—	—	—	—
(イ) 一九二六—二七年度價格	1.9	7.4	24.9	34.0
同、地方及都市發電所を除く	1.6	6.0	20.4	31.0
内、計畫工業	1.3	4.9	16.4	27.7
(ロ) 當該年度價格	1.8	4.6	18.0	25.6

同、地方及都市發電所を除く	1.5	3.8	14.9	20.2
内、計畫工業	1.2	3.0	12.1	16.3
(三) 國勢調査工業労働者數(註)(俸給被備者を 含まず—千人)	2,750.0	3,631.0	—	2,330.0
内、計畫工業	2,103.0	2,806.0	—	1,830.0
(四) 總生産額(十億ルーブル)	—	—	—	—
(甲) 全工業	—	—	—	—
(イ) 一九二六—二七年度價格	18.3	43.2	154.6	136.0
(ロ) 當該年度價格	18.0	33.7	132.8	122.0
内、A 群(生産手段)	—	—	—	—
(イ) 一九二六—二七年度價格	6.0	18.1	60.1	50.0
(ロ) 當該年度價格	5.8	12.4	47.0	39.0
B 群(消費資料)	—	—	—	—
(イ) 一九二六—二七年度價格	12.3	25.1	94.5	86.0
(ロ) 當該年度價格	12.2	20.3	84.8	83.0
(乙) 國勢調査工業	—	—	—	—
合計	—	—	—	—

(イ) 一九二六—二七年度價格
(ロ) 當該年度價格

A 群

(イ) 一九二六—二七年度價格
(ロ) 當該年度價格

B 群

(イ) 一九二六—二七年度價格
(ロ) 當該年度價格

(丙) 最高國民經濟會議計畫工業

合計

(イ) 一九二六—二七年度價格
(ロ) 當該年度價格

A 群

(イ) 一九二六—二七年度價格
(ロ) 當該年度價格

B 群

139.9	36.6	136.6	263.0
135.5	27.1	105.8	201.0
5.6	17.4	57.3	311.0
5.4	11.8	44.6	299.0
8.3	19.2	69.3	231.0
8.1	15.3	61.2	189.0
10.9	30.4	103.8	279.0
10.4	23.0	85.0	221.0
4.4	14.5	47.2	330.0
4.2	9.8	36.4	233.0

(イ) 一九二六—二七年度價格
(ロ) 當該年度價格
(丁) 小工業 (製粉所を含む)

合計

(イ) 一九二六—二七年度價格
(ロ) 當該年度價格

A 群

(イ) 一九二六—二七年度價格
(ロ) 當該年度價格

B 群

(イ) 一九二六—二七年度價格
(ロ) 當該年度價格
(五) 正味生産額 (十億ルーブル)
(イ) 一九二六—二七年度價格
(ロ) 當該年度價格

同、内國消費税を含む

6.5	15.9	56.6	245.0
6.2	12.2	48.6	197.0
4.4	6.6	28.0	150.0
4.5	5.6	26.0	124.0
0.4	0.7	2.8	175.0
0.4	0.6	2.4	150.0
4.0	5.9	25.2	148.0
4.1	5.0	23.6	133.0
6.6	16.3	57.7	248.0
6.4	12.7	49.7	197.0
7.8	14.8	59.0	190.0

(六) 總生産額中市場化部分(十億ルーブル)

合計

(イ) 一九二六—二七年度價格	一五・八	三八・二	二三五・一	二四三・〇
(ロ) 當該年度價格	一五・五	二九・〇	一一五・三	一八七・〇
内、計 畫 工 業	八・四	一八・八	七〇・八	三三四・〇
A 群				
(イ) 一九二六—二七年度價格	五・二	一六・五	五三・六	三二七・〇
(ロ) 當該年度價格	五・〇	一一・三	四二・九	三三六・〇
内、計 畫 工 業	三・五	八・八	三二・八	三五一・〇
B 群				
(イ) 一九二六—二七年度價格	一〇・六	二二・七	八三・五	二〇五・〇
(ロ) 當該年度價格	一〇・五	一七・七	七三・四	一六九・〇
内、計 畫 工 業	四・九	一〇・〇	三九・〇	二〇四・〇
業(十億ルーブル)				
(一) 基礎 資本 (年度末現在、漁業・狩獵・林業を 含む純農業に投資せられたるもの)	二八・七	三八・九	—	一三六・〇
一九二六—二七年度價格				
内、機械及び器具	三・三	六・四	—	一九四・〇

(二) 資本 投 下 (純農業に對する)

(イ) 一九二六—二七年度價格

同、建物を除く

(ロ) 當該年度價格

同、建物を除く

(三) 總 生 産 額 (農業年度)

(イ) 一九二六—二七年度價格

(ロ) 當該年度價格

内、純 農 産 物 (家畜を含む)

(イ) 一九二六—二七年度價格

同、家畜を含まざるもの

1、農 産 物 總 額

内、穀 類

内、工業用作物

2、畜 産 品

同、家畜を含まざるもの

三・一	四・九	三〇・六	一五八・〇
一・七	三・三	一一・九	一九四・〇
三・〇	四・三	一九・〇	一四三・〇
一・七	三・〇	一一・三	一七七・〇
一六・七	二五・八	一〇五・七	一五五・〇
一七・四	二六・一	一一一・一	一五〇・〇
一四・五	三三・六	九二・〇	一五六・〇
一四・〇	二二・六	八七・九	一五四・〇
九・二	一四・五	五八・七	一五八・〇
三・七	五・六	三三・三	一五一・〇
〇・九	一八・五	六・九	二〇一・〇
五・三	八・一	三三・三	一五三・〇
四・八	七・一	二九・二	一五〇・〇

(ロ) 當該年度價格	一五・四	二二・二	九一・一	一五・〇
同、家畜を含まざるもの	一四・九	二二・二	九五・〇	一四九・〇
1、農産物總額	一〇・〇	一五・三	六五・六	一五三・〇
内、穀類	四・〇	六・一	二六・九	一五三・〇
内、工業用作物	〇・九七	一・八一	七・四	一八七・〇
2、畜産品	五・四	七・九	三三・五	一四六・〇
同、家畜を含まざるもの	四・九	六・九	二九・四	一四一・〇
(四) 正味生産額(農業年度)				
(イ) 一九二六—二七年度價格	一〇・八	一六・七	六八・四	一五五・〇
(ロ) 當該年度價格	一一・三	一六・七	七二・八	一四八・〇
内、純農産物				
(イ) 一九二六—二七年度價格	八・九	一三・八	五六・一	一五六・〇
(ロ) 當該年度價格	九・五	一四・二	六〇・六	一五〇・〇
(五) 總生産額中市場化部分(農業年度)				
(甲) 農民購入額を含まざるもの				
(イ) 一九二六—二七年度價格	三・八	七・九	二六・五	二〇八・〇

(ロ) 當該年度價格	三・九	七・五	二六・六	一五・〇
内、純農産物				
(イ) 一九二六—二七年度價格	二・九	六・四	三三・〇	三二・〇
1、農産物總額	一・三	三・四七	一一・七	二四三・〇
内、穀類	〇・四五	一・二四	三・七	二五三・〇
内、工業用作物	〇・六〇	一・五六	五・三	二六〇・〇
2、畜産品	一・四七	二・八九	一〇・三	一九七・〇
(ロ) 當該年度價格	三・〇	六・二	三三・八	二〇七・〇
1、農産物總額	一・五五	三・五四	一一・七	三三八・〇
内、穀類	〇・四八	一・二三	四・二	二五六・〇
内、工業原料品	〇・六四	一・四九	五・六	二三三・〇
2、畜産品	一・四七	二・六九	一〇・一	一八三・〇
(乙) 農民購入額を加へたるもの				
(イ) 一九二六—二七年度價格	二・八	四・五	一七・八	一六一・〇
(ロ) 當該年度價格	二・九	四・四	一八・五	一五二・〇
(丙) 農産物市場化部分總額				

第八、運輸

(イ) 一九二六—二七年度價格 六・六 二二・四 四六・三 一八八・〇

(ロ) 當該年度價格 六・八 一一・九 四七・一 一七五・〇

(一) 基礎資本(一九二六—二七年度價格—十億ルーブル)
内、鐵道 一二・三 二二・三 一三・六 一八九・〇

(二) 資本投下(十億ルーブル) 一〇・八 一八・二 | 一六九・〇

(イ) 一九二六—二七年度價格 〇・九五 四・六五 一三・六四 四八九・〇

(ロ) 當該年度價格 〇・九〇 三・一一 一〇・〇〇 三三六・〇

(三) 内、鐵道投資 〇・七六 三・〇八 九・五三 四〇五・〇

(イ) 一九二六—二七年度價格 〇・七一 一・九〇 六・七二 二六六・〇

(ロ) 當該年度價格 〇・七一 一・九〇 六・七二 二六六・〇

(四) 鐵道貨物運送高(十億トン—キロメートル) 八八・一 一六二・七 | 一八五・〇

(五) 鐵道收益總額(十億ルーブル) 一・六 三・一 一二・一 一九四・〇

第九、建築

(一) ビルデンケ及び建物(農場建設物を除く) 二・六 一一・五 三六・七 四八一・〇

(イ) 一九二六—二七年度價格

(ロ) 當該年度價格 二・五 七・四 二六・五 二九六・〇

(二) 同(農場建設物を含む)

(イ) 一九二六—二七年度價格 三・九 一三・七 四五・〇 三五一・〇

(ロ) 當該年度價格 三・八 八・六 三三・七 二二六・〇

第十、豫算及び貨幣流通額(十億ルーブル)

(一) 中央豫算、總額 六・八 一四・一 五三・九 二〇七・〇

(二) 中央豫算、正味額 四・二 九・六 三五・九 二二〇・〇

(三) 地方豫算 一・七 四・一 一五・一 二四一・〇

(四) 正味額合計 五・九 一三・七 五一・〇 二三三・〇

(五) 貨幣流通額(年度末現在) 一・九七 三・三 | 一六三・〇

第十一、サヴェエト同盟財政機關による國民經濟・社會厚生及び文化團體への支出額(十億ルーブル)

合計 九・四六 二三・〇七 八六・〇一 二四四・〇

内 譯 (イ) 一般行政及び國防 一・六四 二・三二 九・九八 一四一・〇

(ロ) 社會厚生及び文化團體 二・四〇 五・八八 二一・四〇 二四五・〇

(ハ) 國民經濟 五・四二 一四・八八 五四・六三 二七・〇

内、工業

農業

運輸

二二四

第十二、物價指數

(一) 生産者物價指數 (一九二六—二七年=1,000)

(イ) 一般工業品物價指數 (國營工業販賣價格)

A 群 (生産手段)

B 群 (消費資料)

(ロ) 一般農業品物價指數 (國家買入機關の購入價格)

穀類

工業用作物

畜産品

(二) 中央統計部卸賣物價指數 (一九三=1,000)

(イ) 農業價格

(ロ) 工業價格

(三) 中央統計部小賣物價指數 (一九三=1,000)

1.91	4.47	17.83	23.00
0.70	1.87	6.75	26.80
0.86	2.79	9.47	32.00

661.0	731.0	761.1
966.0	677.0	701.1
957.0	782.0	811.7
1,047.0	991.0	941.0
1,041.0	1,133.0	1,041.8
1,070.0	967.0	901.4
1,024.0	937.0	931.4
1,721.0	1,469.0	821.4
1,565.0	1,502.0	961.0
1,877.0	1,445.0	771.0
2,070.0	1,610.0	771.8

(イ) 農業價格

(ロ) 工業價格

(四) 勞働統計局生活費指數 (一九一三年=1,000)

全商

購買又は賃借價格

(五) 建築費指數 (合理化を考量せる) (一九二六—二七年=1,000)

全建設費

(イ) 工業建築費

(ロ) 鐵道建設費

(ハ) 住宅建築費

2,090.0	1,600.0	71.4
2,000.0	1,580.0	71.1
2,000.0	1,760.0	85.9
2,173.0	1,782.0	82.0
661.0	564.0	58.7
957.0	506.0	52.9
972.0	641.0	65.9
943.0	536.0	56.8

第二表 五ヶ年計畫に於けるサヴェエト同盟 國民經濟の構成

第一、動力

(甲) 労働力

	一九三一年	一九三三年	一九三一年—三三年の 一九三一年に 對する比率 (百分比)
(一) 労働年齢人口 (人口百人に對する)	五四・二	五四・一	九九・八
(二) 賃銀労働者數 (労働年齢人口百人に對する)	一三・八	一七・二	一三四・六
(三) 同 (内、都市住民)	三八・七	五三・三	一〇九・三
(四) 非就業者數 (都市労働年齢人口二〇〇人に對する)	六・四	二・四	三七・五
(五) 各領域に於ける就業者數 (賃銀労働者總數二〇〇人に對する、但し農業労働者を除く)			
(イ) 工業	三七・七	三五・七	九四・七
内、大規模工業	三三・三	三一・六	九四・九
(ロ) 運輸	一五・三	一二・〇	七八・四
内、鐵道運輸	一〇・八	七・八	七三・二

(ハ) 建築

(ニ) 社會厚生及び文化活動

(六) 最高國民經濟會議計畫工業従業労働者數 (百分比)

(イ) 熟練労働者

(ロ) 技手

(ハ) 技師

(七) 労働時間指數 (戦前に對する百分率)

(八) 地方農業技手 (農村人口十萬に對する)

(乙) 機械及び電氣動力設備 (一人時労働當りキロワット時)

(九) 工業

(十) 運輸

(丙) 動力及び燃料消費高 (動力及び燃料の性質による百分比)

(十一) 消費動力の種類別

(イ) 機械動力 (電力を含む)

内、電氣

(ロ) 家畜

(ハ) 建築	六・八	一四・六	二一四・七
(ニ) 社會厚生及び文化活動	二二・一	二二・〇	九九・二
(六) 最高國民經濟會議計畫工業従業労働者數 (百分比)			
(イ) 熟練労働者	四一・三	六三・〇	一五〇・一
(ロ) 技手	〇・六	一・六	二六六・七
(ハ) 技師	〇・六	一・三	二一六・七
(七) 労働時間指數 (戦前に對する百分率)	七七・〇	七〇・五	九一・六
(八) 地方農業技手 (農村人口十萬に對する)	四・五	九・三	二〇六・七
(乙) 機械及び電氣動力設備 (一人時労働當りキロワット時)			
(九) 工業	一・三四	二・六一	三二〇・五
(十) 運輸	二・〇五	三・一一	一五一・七
(丙) 動力及び燃料消費高 (動力及び燃料の性質による百分比)			
(十一) 消費動力の種類別			
(イ) 機械動力 (電力を含む)	四二・〇	六一・九	一四七・四
内、電氣	一五・四	三七・四	二四二・八
(ロ) 家畜	五八・〇	三八・一	六五・七

(十二) 消費燃料の種類別 (標準燃料單位による概算)

(イ) 硬質礦物性燃料	五九・四	六五・三	一〇九・九
(ロ) 石油類	一八・二	一六・二	八九・〇
(ハ) 泥炭	四・八	七・一	一四七・九
(ニ) 薪	一七・六	一一・四	六四・八
(十三) 燃料消費總額に對する電力の割合 (百分比)	九・五	二二・〇	三三・〇

第二 國民の厚生及び文化狀態

(甲) 實質所得 (一人一年當り) (價格變動を考量せるもの—ルーブル)

(一) 非農業人口

(イ) 合計

(ロ) 賃銀勞働者

(二) 農業人口

(イ) 合計

(ロ) 個人經營人口

(ハ) 集團經營人口

(三) 工業勞働者實質賃銀指數 (一九一三=100)

(イ) 合計	三三三・八	五七・八	一七一・四
(ロ) 賃銀勞働者	三六六・四	六四七・七	一七六・八
(二) 農業人口			
(イ) 合計	一一六・八	一九五・五	二六七・四
(ロ) 個人經營人口	一一六・六	一八八・七	一六一・八
(ハ) 集團經營人口	一一三・七	二四三・二	一八三・二
(三) 工業勞働者實質賃銀指數 (一九一三=100)	一一三・五	二〇八・九	一七〇・五

(乙) 文化狀態と一般生活狀態

(一) 教育程度

A、読み書きなし得る者 (八才以上—人口百人に對し)

(イ) 都市

(ロ) 農村

(ハ) 平均

B、就學兒童數 (學齡兒童百人に對し)

(イ) 都市

(ロ) 農村

(二) 保健狀態—病院寢臺數 (人口一萬人に對し)

(イ) 都市

(ロ) 農村

(三) 都市住民居住狀態 (一人當住居占有面積—平方米)

(イ) 最高國民經濟會議計畫工業勞働者

(ロ) 國民經濟社會化部分全勞働者

(ハ) 國民經濟私營部分勞働者

(イ) 都市	七八・五	八六・七	一一〇・四
(ロ) 農村	四八・三	七四・六	一五四・五
(ハ) 平均	五三・九	七七・〇	一四三・九
B、就學兒童數 (學齡兒童百人に對し)			
(イ) 都市	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
(ロ) 農村	七九・三	九二・四	一二六・五
(二) 保健狀態—病院寢臺數 (人口一萬人に對し)			
(イ) 都市	四九・〇	五一・〇	一〇三・一
(ロ) 農村	五・〇	六・〇	一一〇・〇
(三) 都市住民居住狀態 (一人當住居占有面積—平方米)			
(イ) 最高國民經濟會議計畫工業勞働者	五・六〇	七・三〇	一三〇・四
(ロ) 國民經濟社會化部分全勞働者	五・九〇	七・〇〇	一一八・六
(ハ) 國民經濟私營部分勞働者	五・五五	五・七〇	一〇二・七

(三) 全都市人口

五・七〇

六・三〇

一一〇・五

(四) 食料品消費高

A、都市人口一人當り年消費高

(イ) 麵 麩 (ツェントネル)

一・七九

一・七九

一〇〇・〇

(ロ) 肉 (キログラム)

四九・一

六二・七

一二七・七

(ハ) 卵 (個 數)

九〇・七

一五五・〇

一七〇・九

(ニ) 牛乳製品 (キログラム)

二八・〇

三三九・三

一五五・六

B、農村人口一人當り年消費高

(イ) 麵 麩 (ツェントネル)

二・二二

二・三四

一〇五・九

(ロ) 肉 (キログラム)

三二・六

二六・四

一一六・八

(ハ) 卵 (個 數)

四九・六

七二・〇

一四五・二

(三) 牛乳製品 (キログラム)

一八三・〇

二三八・〇

一二四・六

(五) 労働者家族生活費 (費用の配分—總額の百分比)

(イ) 工産品

三四・二

三二・五

九五・〇

(ロ) 農産品

四三・二

三九・〇

九〇・三

(ハ) 住宅費

八・七

九・五

一〇九・二

一一三〇

- (ニ) 社會及文化費
- (ホ) 其他の費用
- (ヘ) 貯蓄

五・三
三・六
五・〇

八・二
四・八
六・〇

一五四・七
一三三・三
一〇〇・〇

第三 社會化及び協同組合化

(一) 社會化部分總生産高 (工業及農業生産高合計—恒常價格—百分比)

四五・九

六六・五

一四四・九

(二) 社會化部分穀物總生産高 穀物總生産高に對する百分比

二・一

一五・八

七五二・四

内、集團經營部分

一・〇

一一・三

一三〇・〇

(三) 小規模産業協同組合企業生産高 (小産業總生産高に對する百分比)

一九・四

五三・八

二七七・三

(四) 協同組合化小賣業取引高 (全小賣高に對する百分比)

六〇・二

七八・九

一三一・一

(五) 國民經濟社會化部分投下基礎資本額 (恒常價格—百分比)

五二・七

六八・九

一三〇・七

(六) 國民經濟社會化部分資本投下額 (同右)

五七・七

八三・七

一四五・一

(七) 協同組合團體所屬總戸數 (全農業戸數に對する百分比)

三七・五

八五・〇

三三六・七

(八) 消費組合員數 (人口に對する百分比)

(イ) 都市

四五・三

七〇・〇

一五四・四

(ロ) 農村

一九・一

四〇・〇

二〇九・四

一一三一

第四工 業 化

(一) 國民所得の源泉別割合(所得百分比—各年度價格にて)

(イ) 工 業	三二・六	三四・二	一〇八・二
(ロ) 建 築	六・四	九・五	一四八・四
(ハ) 農 業	四五・八	三八・七	八四・五
(ニ) 運輸及通信	五・一	六・一	一一九・六
(ホ) 商 業	一一・一	一一・五	一〇三・六

(二) 年度末に於ける基礎資本の割合

(イ) 工 業 (家屋を含む)	一四・〇	二二・九	一六三・六
(ロ) 農 業	四一・〇	三〇・四	七四・一
(ハ) 電 化	一・五	四・五	三〇七・一
(ニ) 運 輪	一六・六	一七・二	一〇三・六
(ホ) 家 屋 (工業家屋を除く)	一七・二	一一・九	六九・二
(ヘ) 其 他	九・八	一三・三	一三五・七

(三) 資本投下の割合(總計に對する百分比)

(イ) 工 業 (家屋を含む)	二二・七	二六・二	一一〇・五
-----------------	------	------	-------

(ロ) 農 業	四三・四	三三・二	七四・二
(ハ) 電 化	四・〇	五・四	一三六・〇
(ニ) 運 輪	二二・七	一九・四	一五三・八
(ホ) 家 屋 (但都市工業家屋を除く)	七・二	六・七	九三・一
(ヘ) 其 他	九〇・〇	一・一	一一二・二

(四) 最高國民經濟會議計畫工業總生産高の割合(總額に對する百分比)

A、生産手段の生産			
内、(イ) 燃 料			
(ロ) 金 屬	四〇・三	四七・八	一一八・六
(ハ) 化學製品	八・五	六・九	八一・二
(ニ) 織 物	一七・一	一九・〇	一一一・一
(ホ) 消費資料の生産	二・三	四・三	一八七・〇
(ヘ) 化學製品	五九・七	五三・二	八七・四
(ニ) 織 物	三三・三	二五・七	七九・六

(五) 國民生産市場化部分の割合(百分比)

(イ) 工 業	六九・五	七〇・八	一〇一・九
(ロ) 農 業	三〇・五	二九・二	九五・七

第五 技術的改造と合理化

(1) H 業

A、燃料消費高(噸)

(イ) 石炭産業 (産額百噸に對し)	七・八	六・六	八四・六
(ロ) 石油産業 (同右)	七・五	五・六	七四・七
(ハ) 金屬産業 (標準燃料單位にて生産額千單位に對し)	六・二	四・四	七一・〇
(ニ) 紡績産業 (千に對し)	一〇・六九	七・六六	七四・五

B、設備能率

(イ) 銑鐵生産高 (鼓風爐一基に對し—千噸)	八五・〇	一一三・〇	一四四・七
(ロ) 鋼鐵生産高 (普通爐一基に對し—千噸)	二五・七	三一・四	一一三・二
(ハ) 纖維産業織物生産高			

(1) 木綿

綿絲 (八作業時千紡錘に對し—キログラム)	二、四〇〇・〇	二、五七六・〇	一一三・〇
生木綿 (八作業時一織機に對し—メートル)	一三六・六	一三九・〇	一〇九・九

(2) 亞麻

亞麻絲 (八作業時千紡錘に對し—キログラム)	五、七四〇・〇	七、四五〇・〇	二一九・八
亞麻布 (八作業時一織機に對し—平方メートル)	三五・九	三八・〇	一〇五・八

C、一般指數

(イ) 消費高比率			
(1) 工業原料	一〇〇・〇	七二・〇	七二・〇
(2) 農業原料	一〇〇・〇	八三・〇	八二・〇
(3) 燃料	一〇〇・〇	七〇・〇	七〇・〇
(ロ) 勞働生産性指數	一〇〇・〇	二二〇・〇	二二〇・〇
(ハ) 生産原價	一〇〇・〇	六五・〇	六五・〇

(II) 農

A、耕地面積(百分比)

- (イ) 五ヶ年末耕地整理完成面積
- (ロ) 五ヶ年末化學肥料施肥面積

内、穀類耕地

主要工業原料品耕地

(ハ) 精撰種子播種面積

(イ) 五ヶ年末耕地整理完成面積	八〇・六		
(ロ) 五ヶ年末化學肥料施肥面積	一〇・三		
内、穀類耕地	六・五		
主要工業原料品耕地	八九・〇		
(ハ) 精撰種子播種面積	三七・六		

B、收 穫 高（ヘクター當リ—ツェントネル）

(イ) 穀類	七・六	九・五	一二五・〇
(ロ) 棉	九・三	一二・五	一三四・四
(ハ) 亞麻	二・三	三・六	一五六・五

(三) 鐵道運輸

(イ) 勞働生産性（從業員一人當リ—千トン・キロメーター）	一一五・二	二〇一・一	一七四・六
-------------------------------	-------	-------	-------

(ロ) 機關車運搬力（積荷百萬トン・キロメーター當リ）	四、二〇〇・〇	三、二九二・〇	七八・四
-----------------------------	---------	---------	------

(ハ) 運送原價（トン・キロメーター當リ—コベツク）	一・二二	〇・九六	七九・三
----------------------------	------	------	------

第六分 配

(二) 國民所得の配分（總額に對する百分比）

(イ) 非農業人口	四二・七	四二・七	一〇〇・〇
内、プロレタリアート	三二・一	三七・〇	一一五・三
(ロ) 農業人口	四九・八	四二・五	八五・三
内、協同經營	〇・五	五・三	一、〇六〇・〇
(ハ) 國民經濟社會化部分	七・五	一四・八	一九七・三

(二) 中央及び地方正味豫算總額（一般歳出入の分配—當該年度價格にて、百分比）

A、歳入（總額に對する百分比）	五九・〇	五三・四	九〇・五
-----------------	------	------	------

(イ) 租 稅	三〇・〇	三一・五	一〇五・〇
---------	------	------	-------

内、直接 稅	二九・〇	二二・九	七五・五
--------	------	------	------

(ロ) 租稅外收入	一五・七	一七・四	一一〇・八
-----------	------	------	-------

(ハ) 公 債	一一・八	一二・四	一〇五・一
---------	------	------	-------

(ニ) 其 他	一三・五	一六・八	一二四・四
---------	------	------	-------

B、歳出（總額に對する百分比）

(イ) 社會厚生及文化施設	二二・一	二二・九	一〇三・八
---------------	------	------	-------

(ロ) 國民經濟支出	四一・一	四二・一	一二四・三
------------	------	------	-------

(ハ) 其 他	三七・八	二七・〇	七一・四
---------	------	------	------

(三) 一般財政計畫（一般歳出入の分配—總額の百分比）

A、歳入	五五・九	五〇・六	九〇・五
------	------	------	------

(イ) 政府豫算	三七・一	三二・七	八八・一
----------	------	------	------

 内、中央豫算

(ロ) 信用制度	九・一	七・九	八六・八
(ハ) 社會保險	一一・〇	一〇・九	九九・二
(ニ) 經濟團體財源	一七・八	三三・五	一三六・四
(ホ) 其他の財源	六・二	八・一	一三〇・六
B、歳出			
(イ) 經濟活動	五七・三	六四・五	一一三・六
内、農	七・四	八・一	一〇九・五
工	二〇・二	一九・四	九六・〇
電	二・九	三・六	一一四・一
運	九・一	一一・一	一三三・〇
家屋建築	四・二	五・二	一三三・八
其他	一三・五	一六・一	一一九・三
(ロ) 社會厚生及文化活動	二五・四	二五・五	一〇〇・四
(ハ) 一般行政及國防	一七・三	一〇・〇	五七・八

二三八

第三表 一九一三年(戰前)及び五ヶ年計畫直前の五年間に對する國民經濟五ヶ年計畫の基礎的比較表

第一人口	(イ) 總人口(百萬人)	一九一三年	一九三一年	一九三七一年	一九三三年	五ヶ年間合計	一九一三年に對する比率
		一九三一年	一九三七一年	一九三三年	一九三一年より 一九三七一年迄	一九三一年より 一九三三年迄	一九三一年 一九三七一年 一九三三年
内、都市	農村	一九一三年	一九三一年	一九三七一年	一九三三年	五ヶ年間合計	一九一三年に對する比率
		一九三一年	一九三七一年	一九三三年	一九三一年より 一九三七一年迄	一九三一年より 一九三三年迄	一九三一年 一九三七一年 一九三三年
(ロ) 貸銀労働者總數(千人)		一九一三年	一九三一年	一九三七一年	一九三三年	五ヶ年間合計	一九一三年に對する比率
内、調査工業労働者		一九一三年	一九三一年	一九三七一年	一九三三年	五ヶ年間合計	一九一三年に對する比率
第二電化		一九一三年	一九三一年	一九三七一年	一九三三年	五ヶ年間合計	一九一三年に對する比率
一、工場第一原動力 (千キロワット)		一九一三年	一九三一年	一九三七一年	一九三三年	五ヶ年間合計	一九一三年に對する比率

二三九

二、一般用發電所第

一、原動力(同)

九六・〇

八八〇・〇

三、七五〇・〇

—

—

—

九六・七

三、九〇六・三

三、電力生産額

(百萬キロワット)

一、九四五・〇

一、〇五〇・〇

五、〇五〇・〇

三、〇〇〇・〇

一、六〇〇・〇

六、五〇〇・〇

五、六・三

二、五九・六

一、一三二・一

第三 農 業

一、作付面積

(百萬ヘクタール)

二、六七

八〇・〇

二、五・六

一、四三〇・〇

一、〇五〇・〇

二、九〇・〇

七〇・四

一、〇一・七

一、二四・九

内、穀類耕地

一〇、二七

七〇・〇

九七・二

一、二一〇・〇

八四・〇

一、〇四・〇

六八・二

九四・八

一、〇九・二

内、工業用原料品耕地

五・五

四・〇

七・〇

一、二一〇・〇

六・〇

一〇・〇

七二・七

一、三二・七

二、二八・一

二、家畜—牛又は同種のもの(百萬頭)

八五・〇

六五・〇

八五・〇

一、一四〇・〇

七七・〇

—

七六・八

一〇〇・〇

一、三四・一

内、(イ)牽引用家畜

(百萬頭)

三六・〇

三二・〇

三三・〇

四八・〇

二七・〇

—

六一・八

八六・一

一、三三・三

(ロ)飼育用家畜

(百萬頭)

四九・〇

四三・〇

五四・〇

六六・〇

五〇・〇

—

八七・八

一、一〇・二

一、三四・七

三、生産 高(容量)

(イ)穀類(百萬噸)

八一・二

六一・〇

七三・七

一〇六・〇

三三五・〇

四四五・〇

七五・一

八九・五

一、三〇・五

(ロ)棉花(千 噸)

七四・〇

二八・〇

七九・〇

一、九〇七・〇

二、三六九・〇

六、八五七・〇

三・七

九六・六

二、五五・四

(ハ)亞麻纖維(千噸)

四五四・〇

三〇六・〇

二九二・〇

六二二・〇

一、五〇一・〇

二、二一〇・〇

六七・四

六三・八

一、三六・八

(ニ)甜菜糖(百萬噸)

一〇・九

二・〇

一〇・一

一〇・〇

三二・〇

七五・〇

一八・三

九二・七

一八二・五

(ホ)製油用種子

(千 噸)

二、五四・〇

二、〇六・〇

三、四〇一・〇

六、七二二・〇

一、四、二五七・〇

二、五、二七五・〇

八二・一

一、三三・二

二、六三・二

四、戦前價格による生産額(百萬ルーブル)

一〇・五

七・八

一一・〇

一七・〇

四九・六

—

七四・三

一〇四・八

一六二・九

五、穀類生産額中市場販賣部分(百萬噸)

二〇・四

—

八・〇

一九・六

四四・〇

六五・〇

—

三九・二

九六・一

第四 工 業

一、生産 高(容量)

A、生産手段

(イ)石 炭

(百萬噸)

二八・九

一一・〇

三五・四

七五・〇

一、二五〇・〇

二、七九〇・〇

三八・一

一、二三・五

二、五九・五

(ロ)石 油

(百萬噸)

九・三

五・〇

一一・六

三三・〇

四四・〇

八六・〇

五三・八

一、二四・七

二、三六・六

(ハ)泥 炭

(百萬噸)

一・六

三・〇

六・九

一六・〇

二四・〇

五七・〇

一八七・五

四三・三

一、〇〇〇・〇

(ニ)鐵 鑛

(百 萬 噸)	九・三	—	五・七	一・九・〇	一・七・〇	六・四・〇	五・三	六・〇	二〇・六
(ホ) 銑 鐵	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(百 萬 噸)	四・二	—	三・三	一〇・〇	一〇・〇	三・〇	七・一	七・八・六	二二・八・一
(ハ) 鋼 鐵 塊	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(百 萬 噸)	四・二	—	四・〇	一〇・四	一三・〇	三・五・〇	二・九	九・五・二	二四・七・六
(ト) 條 鋼	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(百 萬 噸)	三・五	〇・五	三・二	八・〇	一〇・〇	二・七・〇	一・四・三	九・一・四	二八・六
(チ) 農 業 用 機 械	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(戰前價格にて 百萬ルーブル)	六七・〇	一四・〇	一二・〇	四九・〇	二八・六・〇	—	二〇・九	一八・六・六	七四・三・三
(リ) セメント	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(百 萬 樽)	一・三	一・〇	一・一・九	四一・〇	三・七・〇	一・三・五・〇	八・一	九・六・七	三三・三・三
(ヌ) 煉 瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(百 萬 個)	二・四・四・〇	二・三・〇	一・七・八・五・〇	九・三・〇・〇	五・一・七・八・〇	二・九・七・五・〇・〇	九・九	八・三・三	四三・三・八
(ル) 過 燐 酸 鹽	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(千 噸)	五・〇	五・〇	一・五・〇・〇	三・四・〇・〇	三・七・九・〇	七・二・九・一・〇	九・一	二七・二・七	六・一・八・一・八
(オ) 硫 酸 (千 噸)	一五〇・〇	三五・〇	二〇八・〇	一・四・五・〇・〇	六・七・四・〇	三・八・〇・一・〇	一三・三	一八・七	六六・七

二四二

B、消費資料

(イ) 綿 絲 (千 噸)	二七・〇	七・五・〇	三・八・〇	三・〇・〇	一・四・八・〇	二・三・七・〇	二・七・七	一・三・〇	三・八・八
(ロ) 毛 織 物	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(百 萬 米)	九・〇	二・〇	九・七・〇	二・七・〇	三・八・〇	八・四・九・〇	二・三・二	一・〇・一	二・八・四・八
(ハ) 麻 布	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(百 萬 平 方 米)	—	九・三・〇	一・六・五・〇	五・〇・〇	七・八・〇	一・五・七・〇	—	—	—
(ニ) 精 糖 (千 噸) *、二九〇・〇	—	二二・〇	一・三・四・〇・〇	二・六・〇・〇	四・一・四・〇	九・六・四・〇・〇	一・六・四	一・〇・三・九	一〇一・三
(ホ) 鹽 (千 噸)	一・七・八・〇	九・五・〇	二・三・〇・〇	三・二・五・〇・〇	八・二・九・〇	一・四・四・七・三・〇	四・八・〇	一・二・六・三	一・六・四・三
(ハ) ゴム靴 (百萬足)	二八・〇	一〇・〇	三・七・〇	七・五・〇	一・三・〇	二・七・四・〇	三・五・七	一・三・一	二・六・七・九
二、戰前價格による 調査工業生産額 (十億ルーブル)	六・四	二・〇	八・一	二二・〇	—	—	三・三	一・三・六	三・八・一
三、工業労働者實質 賃銀—家賃及び 其他の都市諸設 備費を含む (九三年に對す る百分比)	一〇〇・〇	五四・二	一三・五	二〇八・九	—	—	五四・二	一三・五	二〇八・九

第五 運 輸

二四三

一、運轉哩數

(千基米)

五九・〇

七二・〇

七七・〇

九〇・〇

七五・〇

八二・〇

一一〇・三

一三〇・五

一五二・五

二四四

二、運送貨物量

(百萬噸)

一三三・〇

五八・〇

一五二・〇

二八一・〇

一一一・〇

二二七・〇

四四・三

一一四・四

二二二・九

内、穀類

一八〇・〇

九〇・〇

一四〇・〇

二五〇・〇

一三〇・〇

一九〇・〇

五〇・〇

七・八

一三八・九

石炭

二六・〇

八〇・〇

三〇・〇

五八・〇

二二・〇

四五・〇

三〇・八

一一五・四

二二二・一

第六 國民所得(十億ルーブル)

戰前價格

一五・〇

七・〇

一五・〇

二〇・〇

六三・〇

一一五・〇

五〇・〇

一〇七・一

二二四・三

當該年度價格

—

七・〇

二五・〇

四三・〇

—

一七五・〇

—

—

—

*一九一四年度生産量

(備考)

人口、耕地面積、家畜類及び運輸に關する第六欄と第七欄の數字は五ヶ年間の平均を示す

第四表 社會化の過程

國民經濟に於ける社會化部分及び私營部分の割合(百分比)

	社會化部分		私營部分
	國營	協同組合	
一、有職業者數			
一九二七—二八	一五・一	三・二	一八・三
一九三二—三三	一六・三	一四・四	三〇・七
二、賃銀勞働者數			
一九二七—二八	七〇・五	九・四	七九・九
一九三二—三三	七〇・七	一三・二	八三・九
内、(イ)工業			
一九二七—二八	八五・七	五・七	九一・四
一九三二—三三	八六・九	六・五	九三・四
(ロ)農業			
一九二七—二八	二八・六	四・七	三三・三
一九三二—三三	三四・五	六・九	四一・四

二四五

三、資本投下

一九二七—二八 五五・九
一九三二—三三 七四・四

内、(イ)工業

一九二七—二八 九四・四
一九三二—三三 九六・二

(ロ)農業

一九二七—二八 二・六
一九三二—三三 七・〇

四、年度末に於ける資本

A、基礎資本

一九二七—二八 五二・〇
一九三二—三三 六三・六

内、(イ)工業

一九二七—二八 八九・二
一九三二—三三 九四・五

三・八 五七・七
九・三 八三・七
一・八 九六・二
二・五 九八・七
一・八 三・八

二・六 五・二
七・〇 二四・四
二・五 九八・七
一・三 三・八

二・六 七・八
七・〇 三一・四
七・八 六八・六

五・〇 一・七
五・三 六八・九
五・七 三二・一
四七・五

八九・二 三・〇
九四・五 二・五
九二・二 九六・八
七・八 三・二

(ロ)農業

一九二七—二八 二・七
一九三二—三三 四・九

B、運轉資本

一九二七—二八 四一・五
一九三二—三三 三九・五

内、(イ)工業

一九二七—二八 八七・三
一九三二—三三 七四・三

(ロ)農業

一九二七—二八 二・七
一九三二—三三 五・一

五、總生産高

一九二七—二八 三九・八
一九三二—三三 五二・七

A、(イ)調査工業

六・一 四五・九
一三・八 六六・五
四・二 二二・〇
九五・八 七九・〇
五四・一 三三・五

二・九 九九・二
二五・四 九九・七
二・九 〇・八
〇・三

一四・九 五六・四
二八・八 六六・三
四一・九 四三・六
三二・七

二・二 四・九
四・九 一四・三
四・九 八五・七
九五・一

一九二七—二八 九〇・九 七・四 九八・三 一・七
 一九三二—三三 九一・一 七・九 九九・〇 一・〇

(口) 小規模工業
 一九二七—二八 一・三 一九・四 二〇・七 七九・三
 一九三二—三三 一・八 五三・八 五五・六 四四・四

(ハ) 全工業
 一九二七—二八 六九・二 一〇・三 七九・五 二〇・五
 一九三二—三三 七七・五 一四・九 九二・四 七・六

B、農業
 一九二七—二八 一・二 〇・六 一・八 九八・二
 一九三二—三三 三・二 一一・五 一四・七 八五・三

六、生産額中市場販賣部分
 一九二七—二八 五六・四 九・七 六六・一 三三・九
 一九三二—三三 六五・八 一六・〇 八一・八 一八・二

A、工業
 (イ) 調査工業

一九二七—二八 八九・七 八・四 九八・一 一・九
 一九三二—三三 九〇・三 八・六 九八・九 一・一

(ロ) 小規模工業
 一九二七—二八 一・四 一九・三 二〇・七 七九・三
 一九三二—三三 一・八 五三・八 五五・六 四四・四

(ハ) 全工業
 一九二七—二八 六六・一 一一・三 七七・四 二二・六
 一九三二—三三 七五・八 一六・〇 九一・八 八・二

B、農業
 一九二七—二八 三・六 〇・八 四・四 九五・六
 一九三二—三三 八・六 一六・七 二五・三 七四・七

七、商業取引高
 一九二七—二八 三七・六 四八・五 八六・一 一三・九
 一九三二—三三 三六・九 五九・九 九六・八 三・二

内、小賣商業
 一九二七—二八 一四・八 六〇・二 七五・〇 二五・〇

八、國民所得

一九三二—三三	三・二	七八・九	九二・一	二五〇
一九二七—二八	四三・八	九〇・九	五二・七	四七・三
一九三二—三三	四八・四	一七・九	六六・三	三三・七
内、(イ)工業	七・七	八・四	八七・一	一一・九
一九二七—二八	八三・五	二・四	九四・九	五・一
一九三二—三三	一・三	〇・七	一・九	九八・一
(ロ)農業	三・一	二・八	一四・九	八五・一

第五表 協同組合組織の發展

一、加入者數

(イ) 農業協同組合*	一九二七—二八年	一九三二—三三年	一九三二—三三年の一九二七—二八年に對する百分比
内、集團經營*	九、五〇〇	二二、五八〇	二四八
(ロ) 手工業者協同組合	四〇〇	三、五八〇	八九五
(ハ) 消費組合	八七〇	三、六八六	四二四
都市	八、七〇五	一六、四五〇	一八九
農村	一三、八七六	三一、八〇〇	三九
(ニ) 住宅建築組合	二四七	八七五	三五四
(ホ) 借家人組合	九六三	—	—
(イ) 農業協同組合	三七・五	八五・〇	三七
(ロ) 手工業者協同組合	二・〇	五六・〇	二六七
(ハ) 消費組合—都市	四五・三	七〇・〇	一五五

二、協同組合組織の關係範圍**

三、持株資本総額（百萬ルーブル）

(三) 同	— 農村	一九・一	四〇・〇	二〇九
(イ) 農業協同組合		三三・六	五九〇・〇	七四
(ロ) 手工業者協同組合		六五・〇	五八三・〇	八九七
(ハ) 消費組合		四三・〇	三六六・〇	八五一

都市	九〇・六	六五八・〇	七六
農村	一〇三・〇	七九五・〇	七七三

(ニ) 住宅建築組合	三〇・〇	一八八・〇	六二七
(ホ) 借家協同組合	三・〇	三二・〇	一、〇三

四、持株平均額（ルーブル）

(イ) 農業協同組合	六・八五	二四・七〇	三六一
(ロ) 手工業者協同組合	四九・四〇	九九・一〇	二〇一
(ハ) 消費組合	一〇・四〇	四〇・〇〇	三八五

都市	一〇・四〇	四〇・〇〇	三八五
農村	七・四二	二五・〇〇	三三七
(ニ) 住宅建築組合	一一・〇〇	—	—

(ホ) 借家人組合

五・二〇

—

—

* 協同組合組織加入の世帯数（單位千戸）

** 協同組合組織の関係範囲は次のものを示す。即ち農業協同組合は世帯總数に對する百分比、消費組合は都市、農村それぞれの成人々口に對する百分比、手工業者協同組合は手工業者總数に對する百分比。

第六表 サヴェエト同盟國民經濟基礎資本に對する資本投下 (當該年度) (價格にて)

金額(百萬ルーブル)	一九三一年		一九三七—一九三九年		一九三七—一九三九年	
	一九三一年	一九三二年	五年間合計	對する百分	一九三一年	五年間合計
一、工業(工業用家屋を含む)	一、六七三	四、一七〇	一六、三五三	二四九・四	三三・七	二六・二
内、計畫工業	一、三三八	三、四六五	一三、五〇〇	二六二・九	一八・七	二二・七
A 群 (生産手段)	九三八	二、三九六	九、七八八	二五五・四	一三・三	一五・〇
B 群 (消費資料)	三六五	七三四	二、八六〇	二〇一・一	五・二	四・六
二、農業(耕地)	三、〇八四	五、五二六	二三、一五二	一七八・八	四三・四*	三三・二*
(イ)耕地整理及其他諸方策費を含む	三、〇三二	四、三四一	一八、九九八	一四三・六	四三・八	二七・二
(ロ)耕地整理及其他諸方策費を除く	五〇	一、一九六	四、五〇七	二七・五	七・八	七・五
内、農具	一一	六四	二九	五三・三	〇・二	〇・四
三、林業	二八四	八六一	三、〇九	三〇三・二	四・〇	五・四
四、電化						五・一
(イ)工場附屬發電所を除く						

(ロ)工場附屬發電所を含む	三九	一、〇六一	三、八四四	三〇四・〇	五・〇	六・六	六・四
内、地方の中央發電所	三三〇	六〇五	二、三〇二	二六三・〇	三・三	三・八	三・八
五、運輸	八九六	三、一〇五	一〇、〇〇二	三四六・五	一二・七	一九・四	一六・五
内、鐵道運輸	七二四	一、八九八	六、七三三	二六五・八	一〇・一	一一・九	一一・一
六、郵便・電信・電話・ラヂオ	三五	六五	三〇七	一八五・七	〇・五	〇・四	〇・五
七、商業及び倉庫業	一七六	六〇五	二、一六四	三四三・八	二・五	三・八	三・六
八、教育	一一四	六四五	二、〇一七	五五五・八	一・六	四・〇	三・三
九、保健	八九	二二七	七七八	二五五・一	一・三	一・四	一・三
十、一般行政	六七	九一	四一三	一三五・八	一・〇	〇・六	〇・七
十一、都市企業	一七四	七三五	二、二三三	四一六・七	二・五	四・五	三・七
十二、都市住宅建築							

(イ)工業・運輸・電化に用ひられる家屋を含む	七二	一、六四七	五、八八五	二三一・六	一〇・一	一〇・三	九・七
(ロ)工業・運輸・電化に用ひられる家屋を除く	五〇九	一、〇六八	三、八九五	二〇九・八	七・二	六・七	六・四
合計	七、一一三	一七、四一三	六五、六〇一	二四一・〇	—	—	—

(イ)農業に於ける耕地整理及其他諸方策費に對する投資高を含む

(ロ) 農業に於ける諸方策費を除く	七、〇五〇	一五、九六七	六〇、四四七	二六・五	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
經營別							
國營	三、六三三	一〇、四七二	三七、四六三	二八・九・八	五二・二	六五・六	六二・〇
協同組合	三、八五	二、〇九七	六、七二五	五四・七	五五・一	一三・一	一一・一
私營	三、〇五二	三、三九八	一六、二五九	一一・三	四三・三	二二・三	二六・九
* 耕地整理及其他諸方策費合計 (イ) に對する百分比							

二五六

第七表 サヴェート同盟國民經濟基礎資本及び資本投下

業種	一九三三—三六年度價格による (百萬ルーブル)		基礎資本の配分 (總額に對する百分比)	
	一九三三年 一月一日現在 基礎資本	一九三六年 十月一日現在 基礎資本	一九三三年 十月一日現在	一九三六年 十月一日現在
一、工業 (工業用住宅を含む)	九、八三三	三、四四四	二九、一五	二九・七
内、工業	七、四〇〇	二、七六二	一八、八〇八	三〇・二
A 群 (生産手段)	四、五五〇	一、七四五	一三、五八九	二六・三九四
B 群 (消費資料)	三、二九八	九九二	三、九六六	六、二九二
二、農業一般	二六、七四一	一〇、五七一	二〇、七七	三八、八八七
内、農具類	三、二八〇	一、九三三	五、〇六	六、四〇七
三、電化 (工場附屬發電所を除く)	一、〇一一	五七六	四、八七四	五、三〇九
内、地方の中央發電所	七六九	四四六	三、六六七	三、九九〇
四、運輸	一一、六五三	二、五四六	一三、六〇五	二三、〇二二
			一八・九	一六・六
			一七・二	
			二五・七	

内、鐵道運輸	10,131	2,066	8,899	16,664	167.4	14.4	13.3
五、郵便・電信・電話・ラヂオ	286	101	416	601	20.1	0.4	0.5
六、商業及び倉庫業	701	379	3,195	3,517	50.7	1.0	2.7
七、教 育	1,974	224	3,184	4,944	250.5	2.8	3.9
八、保 健	1,074	114	1,271	2,331	207.7	1.5	1.7
九、一般行政	656	116	657	1,197	182.5	0.9	0.9
十、都市企業	2,274	606	3,047	4,715	207.3	3.2	3.7
十一、都市中心地に於ける住宅建築							
工業住宅を含む	13,136	2,301	7,684	18,519	142.0	18.7	14.5
工業住宅を除く	11,971	2,062	5,342	15,251	127.4	17.2	11.9
合 計	70,154	20,779	78,354	127,779	1,822	100.0	100.0
經營別							
國 營	35,786	8,933	54,347	81,221	236.9	51.0	63.6
協同組合	1,198	869	6,449	6,778	565.8	1.7	5.3
私 營	33,170	10,977	17,558	39,780	219.0	47.3	31.1
經濟的機能別							

生 産	27,567	21,734	41,068	56,901	206.4	39.3	44.5
分 配	11,640	3,025	26,516	26,131	206.7	18.0	20.5
消 費	29,947	5,969	20,769	44,747	149.4	42.7	35.0

〔備考〕 其礎資本に關する右表の數字は、前數年間と比較し得るやうに凡て一九二五—二六年度價格で計算してゐる。此の對照によつて農業及び運輸に於ける基礎資本にはより正確な數字が現はれてゐる。

第十表 五ヶ年計畫累年發展表

百		萬		留	
一九二六年	一九二七年	一九二六年	一九二七年	一九二六年	一九二七年
一九七〇	一九六〇	一九五〇	一九三一	一九三三	一九三三
一六〇	一五〇	一三二	一三一	一三三	一三三
五年間計					
一九二六年	一九二六年	一九二六年	一九二六年	一九二六年	一九二六年
一九二七年	一九二七年	一九二七年	一九二七年	一九二七年	一九二七年
一九二八年	一九二八年	一九二八年	一九二八年	一九二八年	一九二八年
一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年	一九二九年
一九三〇年	一九三〇年	一九三〇年	一九三〇年	一九三〇年	一九三〇年

一、工業總生産額 (一九二六年—二七年度價格)

内、最高國民經濟會議計畫工業

二、農業總生産額 (一九二六年—二七年度價格)

内、農業一般

三、國民所得 (正味生産額)

イ、一九二六年—

一八、三二二	二一、二六四	二五、〇〇九	二九、六四三	三五、五八四	四三、一九六	一五四、五九六	二五、六一八	二一、八二五	二〇、〇〇〇	二二、四三六	〇
一〇、九一九	一三、二四七	一六、〇九〇	一九、六四九	二四、三三〇	三〇、四四七	一〇三、七五三	二二、四二二	二一、五一一	二一、三三八	二一、五二〇	二七、九〇〇
一六、六五九	一七、三六七	一八、八四五	二〇、八〇四	二二、八九七	二五、八〇六	一〇五、七一九	二〇、八二五	二〇、四一一	二〇、一三三	二〇、一三七	二五、五〇〇
一四、五五六	一五、〇三八	一六、三〇四	一八、〇五四	一九、九三三	二二、六三〇	九一、九六一	二〇、三二五	二〇、八二四	二〇、七一一	二〇、四一三	二五、五〇〇

七年度價格

口、當該年度價格

四、資本投下

(當該年度價格)

イ、基礎資本

1、工業(工業用住宅を含む)

内、最高國民經濟會議にて規定されし工業

2、電化(工場發電設備を除く)

3、農業

4、運輸

口、運轉資本

五、政府豫算(中央及び地方純歳出)

二四、四二九	二七、四九九	三一、二八九	三六、二九四	四二、一五四	四九、六九〇	一八六、五七六	二一、一五二	二一、六〇〇	二一、七九〇	二二、〇三〇
二七、二八五	三〇、八八四	三四、八三九	三八、七四九	四三、二七〇	四九、一七五	二一七、一一〇	二二、八二二	二二、八二二	二二、八二二	二二、八二二
一〇、一五二	一三、〇八〇	一六、〇六一	一八、三五四	二〇、七七七	二二、七二二	七、四〇四	一六、六一六	一六、六一六	一六、六一六	一六、六一六
七、二二二	八、六二二	一〇、八三六	一三、一五二	一四、八六六	一七、一四二	六、四〇一	一一、二二一	一一、二二一	一一、二二一	一一、二二一
二、〇九二	二、八四五	三、四五二	三、七六六	四、一七〇	四、一七〇	一、六三三	一一、二二一	一一、二二一	一一、二二一	一一、二二一
一、六五九	二、三三二	二、八八〇	三、一六五	三、四六五	三、四六五	一、三、五〇〇	一一、二二一	一一、二二一	一一、二二一	一一、二二一
二八四	三三二	四三三	六五五	七五七	八六一	三、〇五九	二六、九一三	二六、九一三	二六、九一三	二六、九一三
三、〇八四	三、六六四	四、一七三	四、七〇〇	五、〇七九	五、五一六	二、一五二	二八、八一三	二八、八一三	二八、八一三	二八、八一三
八九六	一、二二八	一、四九七	一、八七八	二、三九四	三、一〇五	一〇、〇〇二	二五、九一三	二五、九一三	二五、九一三	二五、九一三
九四〇	一、五八〇	二、二四四	二、九四八	三、四三八	三、五七五	一三、八〇三	二六、八一三	二六、八一三	二六、八一三	二六、八一三
七、二二三	八、六三三	一〇、二二〇	一二、一八〇	一三、六六九	一五、三三三	一一、三三二	二一、七二二	二一、七二二	二一、七二二	二一、七二二

補註

重量及び容積

キログラム	二・二〇四六封度	二六六・六七匁
セントナリ	二二〇・四六封度	二六貫六六七匁
メートル・トン (佛トン)	二、二〇四・六封度	二六六貫六六七匁
メートル	三九・三七吋	三・三三三三尺
キロメートル	〇・六二一哩	九町十間
平方メートル	一〇・七六四平方呎	一〇・八九平方尺
ヘクタール	二・四七一エーカー	一・〇〇八三町歩
ループル (留)	五一・五セント	

國民經濟最高會議 (S・C・N・E)

國家産業を統轄してゐる中央政府機關。

國勢調査工業

十五人以上の勞働者を雇傭し動力機械を使用するか、或ひは動力機械を使用せざるも三十人以上

の労働者を雇傭する工場。

サヴェート財政年度

自十月一日至九月三十日（一九三一年度より一月一日—十二月三十一日に改正され、一九三〇年

十月一日—十二月三十一日は特別年度とされた——譯者。）

サヴェート農業年度

自七月一日至六月三十日。

附録第四

サヴェート—アメリカ貿易

サヴェイトIIアメリカ貿易

サヴェイトIIアメリカ貿易は、一九二九年にその第六年目に這入つたのであるが、同年七月三十一日を以つて終る期間にはその額五億ドル以上に達した。それはサヴェイトの一九二四年以來の全貿易額の約十五パーセントを占めるもので、サヴェイト同盟に於ける主なる工業及び貿易團體を代表するアムトルグ貿易會社、並びにサヴェイト纖維産業のために棉花の買付をなす全露纖維シンチケート、サヴェイト消費組合及び農業協同組合をそれ々々代表するセントロサユースとセルスコサユース、サヴェイトや其他のサヴェイト映畫製作團體のフィルムを配給するアムキノ會社等の輸出入取引額が含まれてゐる。これらの會社は凡てニューヨーク州法によつて法人組織となつてゐる。右の貿易總額中には、合衆國へのサヴェイト滿俺の輸出額も、サヴェイトの諸團體と特約を結んでゐるアメリカ商館の毛皮の輸入額も含まれてゐる。この取引額中、アムトルグ貿易會社の分だけで約二億一千五百萬ドルに達した。アムトルグは一般輸入品の大部分と、事實上、工業・農業及び運輸用の機械輸出全部、並びに非鐵金屬、ゴム、化學製品の如き或種の原料及び其他多數の製品の輸出を取扱つてゐる。

一九二四年以來のサヴェイトIIアメリカ貿易額五億四千萬ドルのうち、合衆國よりの買付額は四億三千萬ドル、サヴェイト生産品の販賣額は一億一千萬弗であつた。毎年巨額の輸入超過が報告されて

るが、全期間のサヴェート同盟に對する入超額は三億二千萬弗に達した。サヴェート同盟は、其他の取引諸國の大部分に對しては受取勘定になつてゐる。

サヴェートの合衆國に於ける買付額は、サヴェート同盟に於ける凶作のため二千萬ドル以上の麥粉の非常買付を必要としたため異常の巨額に上つた一九二四—二五年は例外として、確實な割合で増加してゐる。然し、その年以後はこのやうな買付は行はれなかつた。合衆國に於けるサヴェートの買付額は、八千六百九十三萬八千ドルに達した一九二四—二五年度を除き次の如くであつた。

一九二三—二四	四三、九一六、〇〇〇ドル
一九二五—二六	四八、五六〇、〇〇〇
一九二六—二七	七一、六八九、〇〇〇
一九二七—二八	九一、二三二、〇〇〇
一九二八—二九(十ヶ月)	八四、〇〇〇、〇〇〇

一九二八年十月一日以降の十ヶ月に於て、前年度一ヶ年間の三千三百萬ドルに對し、五千百萬ドルに達する注文がアムトルグ貿易會社だけによつてこの國へ向けられた。この年には、サヴェートIIアメリカ貿易の新記録が豫想されてゐる。

この國に於ける過去數年間の買付額の大部分は棉花であつた。一九二三年十二月に買付を開始してより一九二九年七月に至る纖維シンデケートによる買付額は二億四千五百萬ドルに達した。多數の船

舶が、米棉を北極地方沿岸のムルマンスク港や、北海及び黒海のサヴェート諸港へ輸送するために備船された。

サヴェート同盟が合衆國で買付ける諸種の商品中特に最も急速な増加を示してゐるのは、工業用機械、農業用器具、自動車用品、運輸・電氣機械等の機械及び設備である。アムトルグ貿易會社だけの工業用機械の買付額は、一九二六—二七年度には二百五十萬ドルに及んだが、一九二七—二八年には一千百萬ドルを超え、一九二九年七月三十一日を以て終る十ヶ月間には二千三百二十萬ドルに達した。多くのサヴェート工業が、毎年、機械を購入するためにアメリカの市場へ赴くのである。

農業用設備、就中トラクターの輸入額は、サヴェート同盟に於ける大規模經營の擴張に伴つて激増した。一九二九年七月三十一日までの十ヶ月間の農業用設備の買付額は二千百萬弗に達した。これは前年度購入額よりも三分の一以上多く、前二ヶ年間のその三倍に當るものである。

サヴェートIIアメリカ間の經濟關係の重要な要因は、サヴェート同盟の新工業建設に對する廣汎な技術的援助の契約であつて、それは過去二ヶ年間に主なるアメリカの工業會社及び製造會社との間に締結されてゐる。その契約表は次に示す如くである。

合衆國に於いて現在行はれつゝあるサヴェートの巨額の買付には信用貸付が含まれてゐる。五ヶ年の期間に亘つて大規模の信用が益々多くのコンツェルンによつて與へられつゝある。その中には、インタナショナル・ゼネラル・エレクトリック・カムバニー、ウエスチングハウス・エレクトリック・イ

ンタナシヨナル・カムパニー、インタナシヨナル・カンパツシヨナル・エンヂニアリング・コオボレーシヨン、インタナシヨナル・ハーヴェスタター・カムパニー、ジョン・ディーア・カムパニー、アリス・チャルマース・カムパニー、インヂヤール・ソル・ランド・カムパニー、リンク・ベルト・カムパニー、キヤタビラー・トラクター・カムパニー、ハーキュルズ・モーター・カムパニーその他が含まれてゐる。

合衆國に於けるサヴェート生産品の販賣額は、買付額に較べて増加を示してはゐない。過去三ヶ年（一九二六、一九二七、一九二八）に於いて、販賣額はそれ〴〵二千四百萬ドル、一千百萬ドル、二千二百萬ドルを算した。この國に於けるサヴェート生産品の市場は、大體次の種目に限られてゐる。即ち、剛毛、包装箱、毛皮、家禽、蠶類、種子、菓子類、亞麻、藥品原料、滿俺鑛、貴金屬、手工品及び少額の木材と石炭である。

なほ、サヴェート・ナフタ・シンヂケートが、ニューヨークのスタンダード・オイル・カムパニー及びヴァキウム・オイル・カムパニーとの間に結んだ、毎年一千萬ドルまでのサヴェート石油製品をそれらの會社の極東及び近東市場へ引渡すと云ふ契約に注目すべきである。

サヴェート諸國體とアメリカ商會並びに個人との間に締結せられたる技術的援助契約

(一九二九年八月十五日現在)

Hugh L. Cooper and Company——ウクライナのドニエール水力發電所の建設に關する顧問技師。

Stuart, James and Cooke——ドヌゴオル石炭トラスト、南部鋼鐵トラスト（炭坑）、モスコイ石炭トラスト及びキゼル石炭トラストのための顧問技師。新坑の開坑、舊坑の再興及び近代設備の設置のための設計。

Freyn Engineering Company——この國の各地に建設せらるべき製鋼所の設計に關する顧問技師。Radio Corporation of America——サヴェート弱流電氣トラストの特許權及び技術に關する報道の交換。サヴェート同盟に於けるラヂオ装置の製作に關する技術的援助。

International General Electric Company——サヴェート電氣産業への技術的援助、並びにサヴェート國家電氣技術トラストの特許權及び其他の技術上報道の交換。

Sperry Gyroscope Company——航海用具の製作に關する技術的援助。

Nitrogen Engineering Company——一千萬ドルのアムモニア肥料工場の建設と經營に關する技術的援助。

Du Pont de Nemours and Company——肥料工場の建築に關する技術的援助。

Longacre Engineering and Construction Company——モスコイに於けるアパートメント及び公益造物の建築に關する技術上の援助と監督。

Arthur P. Davis, Lyman Bishop——サヴェート中央アジアの「スレドヴォドコース」(中央アジア水利經濟)の灌漑計畫に關する顧問技師。

The McCormick Company——モスコリーに於ける最大のサヴェート製麵麩所の設計。
 Albert Kahn, Inc.——一年四千臺のトラクターを生産する、スターリンググランド・トラクター工場
 のための建築の設計。

Harry D. Gibbs——サヴェートのフニリン工場に於ける技術的協力。

Frank D. Chase, Inc.——鑄物工業に於ける技術的援助。

Ford Motor Company——毎年十萬臺を生産する自動車工場の建築並に經營に關する技術的援助。

Taft Pierce Co.——鑄物工業に於ける技術的援助。

Archer E. Wheeler——サヴェート鋼工業に於ける顧問技師。

C. F. Seabrook Co.——モスコリー州に於ける道路建設に關する技術顧問。

Foster-Wheeler Corp.——サヴェート精油業に於ける技術的援助。

Lockwood Greene & Company——現存の纖維工場の再組織と改造に於ける技術的援助並びに新經營の設計と建設。

Roberts and Schaefer Company——ドネツ石炭トラストに對する技術的援助。

Arthur J. Brandt——一交代で年々二萬五千臺の生産が出来るやうにモスコリー・アモ自動車工場を改造する事。

Hercules Motor Company——ヤロスラフル工場の重量トラック用エンジンの生産への援助。

Newport News Shipbuilding and Drydock Company——タービンの建造に於ける技術的援助。

Seiberling Rubber Company——ヤロスラフル工場に於けるゴム・タイヤ工場の建設の設計と援助。

第二篇

五ヶ年計畫の遂行

—サヴェード同盟××黨第十六回
大會に於けるクイビシエフの報告

第十五回大會より第十六回大會迄

同志諸君

第十五回黨大會が開かれたのは、わが社會主義的工業が略々その復興期を終へて、大規模の改造の途に入つた歴史的な年に於てであつた。

第十六回黨大會は、わが革命の發展に於ける偉大なる轉向の年に開かれてゐる。本大會こそは、社會主義的工業の仕事に於て獲得された巨大な成果の證人である。

新經濟政策に移行すべきことを決定した第十回大會と第十五回大會とは六年を距てゝゐる。實際我々の社會主義的工業が混沌の状態から脱して戦前の生産水準に達するには六年は必要であつたのだ。

第十五回大會から第十六回大會までには、わづかに二年半を距てゝゐるに過ぎなかつた。だがこの短かい経過期間は、わが社會主義的工業が戦前の生産水準（それは既に第十五回大會の時達せられてゐた）を倍加するに充分であつた。そしてあと僅か一ケ年（一九三〇—三一年度）に、我々は戦前の工業生産水準が三倍になると云ふ、素晴しく尖鋭化されたテンポを約束されてゐるのである。

ツアールの工業が数十年かゝつて爲し得た事を、プロレタリア××の國は、吾々の制度の特殊性と幾百萬の労働者の工業的建設への積極的参加とのお蔭で、たつた一年で爲し遂げようとしてゐる。

だが、この五箇年計畫に對しては、たゞにブルジョア經濟學者のみならず、わが黨の右翼的偏向者

さへもが、如何なる態度を示したかを想起せよ。

ドイツ經濟「ロシア」委員會々長クレーメルは、五箇年計畫に關する演說の中で次のやうに宣言してゐる。曰く「この五ヶ年計畫はこれを五十年かゝつてやれと云はれたのであつたとしても、それでもなほ仲々大きすぎる話である」と。(笑聲)

それほど無造作にはないが、併し根本に於てはクレーメルの演說と餘りちがはぬ態度を以て、我國の若干の技術家もまた五ヶ年計畫を批評してゐる。例へば、教授ボゴリエボフは吾々の制度の包容する特殊性をも可能性も充分に理解せずしてこんな事を云ふ。「最高國民經濟會議の數字は、可能性の限度を超えてゐる」と。

もう一人の専門家カリニコフ教授は尙一層明確にかう云つた。「最高國民經濟會議は五ヶ年計畫を多分八年乃至十年に計畫したのでらうと私は想像する。」云ひかへれば、我々が五ヶ年間に遂行せんとする計畫を、カリニコフは我々が八年乃至十年かゝつて始めて遂行し得るだらうと考へた。

五ヶ年計畫の豫見の空想的特質を確認するについては諸説は驚くべき一致を示してゐるが、それらの經濟學者と、外國の經濟學者との間の相違は何處にあるかと云ふに、外國に於てはこの五ヶ年計畫の遂行の蓋然性は五十年と見積られたに對して、國內の専門家に於ては十年と見積られた事にあるだけだ。

五ヶ年計畫の遂行の可能性に對する懷疑主義は、明らかに右翼反對派の舊幹部等に依つてなされた

提案、即ちわが國を工業化せんとする五ヶ年計畫の代りに、これを農業化せんとする二ヶ年計畫を以てせんとする提案の歸結だ。

今日に於ては、既に相當長い時間が経過してゐるので、我々は、五ヶ年計畫遂行の綱要とその若干の成果を審査することが出来るであらう。

そこで、我々が五ヶ年計畫の最初の二ヶ年に到達した諸成果を見ようではないか。

工業生産の領域に於ては五ヶ年計畫は一九二八年に於ける生産の増大は二一・四パーセントに達すると云ふ基礎の上に立つてゐた、ところが實際は我々は二三七パーセントの生産の増大に達した。一九二九—一九三〇年度に於ては二一・五パーセントの増大率が豫定されたが、我々は恐らく三二パーセントに達し得るであらう。一九三〇—三一年度に於ては五ヶ年計畫は二二パーセントを豫定した、ところが今日は既に四七パーセントの發展が豫想されて居る。そして恐らくこの増大は更に一層著しいであらうと思はれる。かくて五ヶ年計畫最初の三ヶ年に於て工業生産の増大は五ヶ年計畫の最初の豫定たる一八一パーセントに對し二五〇パーセントに到達した。云ひ換えれば我々は一九二七年—二八年度に對し五ヶ年計畫の推定の如く十八倍ではなく、正に二十五倍の生産を持つ事になるのだ。

基本的工業の一聯の諸部門に於ては、既にスターリンが指摘せる如く、五ヶ年計畫は三ヶ年間に、否、若干の部門に於ては更に短い期間に遂行されるであらう。基礎資本の投資に關しては、五ヶ年計畫は一九二七—二八年に於ける十六億五千萬ルーブルより一九二八年—二九年に於ける二十三億三千

百萬ルーブルに、而して一九三〇年—三一年度に於ける二十八億七千九百萬に達する分量の仕事の上に立てられた。實際に於ては一九二八—二九年度に於て我々は一九二九—三〇年度に於けると同じ數字即ち二十九億六千萬を持つに至つた。そして一九三〇年—三一年度に於ては三十五億を持つであらう。他の言葉を以てすれば計畫遂行の最初の三ヶ年の過程に於て、工業的大建設は五ヶ年計畫が豫定した六十八億六千萬の代りに百十億八千七百萬に達した。五ヶ年計畫によれば、百三十五億ルーブルが工業に對して五ヶ年間に投資さるべきであつた。然るに實際に於ては既に三ヶ年にして我々は百十億ルーブルを投資した。

今日尙我々の五ヶ年計畫が空想的だなど、敢て主張し得るものは誰か？ 右翼反對派の幹部は遂に五ヶ年計畫に對する彼等の批評の不明さを認めざるを得なくなつたではないか。

事實は彼等に打ち克つた。所謂「ボルシェヴィズムの幻想」に關する資本家の新聞のひやかし屋共が、明らかな不安と焦燥に驅られて如何なる手段を問はず、否、軍事干渉に訴へても五ヶ年計畫の遂行を挫折せしめんとしたのも決して偶然ではない。

下に掲げるのは我々の古いおなじみのレスリイウルクハルトがアメリカの一評論に書いたものだ。

「我々はすべて、斯く信ずる、若しサヴェート政府がその工業改造の五ヶ年計畫を成就するに到るならば、それはサヴェート政府が我々の文明に極端に深刻な打撃を齎すところの一の大きな力を引き出す源となるであらう。」

我々は何もウルクハルト氏を慰めるために心を痛める必要はない。

サヴェート國家は五ヶ年計畫の完成を以て到達しつゝある、この紳士は恐らく彼の文明、ウルクハルトの文明、資本家的文明、搾取と掠奪の文明が、我が國に於て成功を以て建設されつゝあるところの社會主義に依り徹底的に破壊されるであらうと云ふ確信を持つたのであらう。五ヶ年計畫の勝利は資本主義の死滅を意味する。

ドイツの大金融家ゾルムセンは或る演説に於て次の様に聲明した、「ボルシェヴィズムの攻勢は遅かれ早かれ歐洲諸國民をして單一戦線を形成して武器をとることを餘儀なくせしむるであらう。」其處には最早何等の隠蔽も存在しない。フランス、ポーランド、ドイツ等々の印刷物の論調は次第に明らかになり且つ絶對的になりつゝある。

改造の方法

五ヶ年計畫が、國民經濟の全體を社會主義的に改造するといふ宏大な事業の計畫であるとの理由で資本家共の粗暴な憎惡を捲起すに値したと云ふことは疑ひのないところだ。又他方、五ヶ年計畫の遂行の困難は甚大なものと云ふことも亦疑ひのないところである。國民經濟の社會主義的改造と云ふ偉大なる諸問題、サヴェート同盟の經濟的獨立の確保さるべき保障、その防衛能力の強化は、國民經濟全般の技術的基礎の根本的改造、就中工業の根本的改造を必要ならしめた。

工業の社會主義的改造の方法とは何を意味したであらうか？、それは左の事を意味した。

一、工業的改造の廣大な計畫の遂行、蓋し工業の發展の水準が低い場合には社會主義は問題になり得ないであらうから。

二、廣大なる電化計畫の遂行。蓋しこの基礎に立つてのみ工業及び國民經濟の發展に必要な水準に到達し得るであらうから。

三、就中重工業（社會主義の基礎）の發展の可能性。

四、機械工業の發展を強度化し、國民經濟の全部門の工業的發展と資本家的從屬よりの我國の解放に必要なテンポをこの（機械工業の發展の強度化）基礎の上にのみ確保するに到らしめること。

五、新しい諸工業及び新しい諸工業部門の發展の強調。

六、科學的研究及び地質學的調査の廣大な發展。

七、工業の最も合理的な地理的な地理學的配置。

八、隠れたる資源の發見の爲の鬭争、工業に於ける浪費に對する鬭争の發展、及び工業の合理化。勝利的なる社會主義的改造の必要諸條件とは何か？、それは、黨が社會主義建設に於てレーニンの方針を受入れることであり、労働者大衆の創意及び政治的活動力を無限に發展せしむることであり、プロレタリア幹部を工業へ形成することであり、又、外國の技術を残りなく我國工業に移入することである。

工業の社會主義的改造のこの過程は如何なる仕方にて決定され、又如何に實行されたか？

先づ最初に改造の計畫を考察しよう。黨が五ヶ年計畫を承認した際使用した建設のプログラムの遂行の遣方は如何なるものであつたか？、工業的大建設の全綱領は五ヶ年計畫によつて恒常價格百十六億ルーブル、若くは、當該年度の價格に於ては元價の低下に基いた計算として百三十五億ルーブルと決定されてゐた。この總額中、七八・八パーセントは重工業に歸した。此の大事業計畫は工業の基礎資本の量及構成の著しい變更を豫見してゐた。A諸部門即ち重工業諸部門の工業の基礎資本に於て占むる相對的部分は（一九二八年十月一日に於ける五七パーセントに對し）、五ヶ年計畫の終りに於ては七五パーセントに増大さるべきである。實數に於ては、重工業の資本は、三倍半も増大すべきであつた。生産の總體の三〇パーセント以上は、世界的技術が新らしく獲得されるに従つて建設される新しい工場により生産さるべきだ、然るにこの偉大なる仕事の計畫及びその實現が無限の困難を伴ふことは疑ひないところである。

この計畫、それは如何に遂行されたか？

一九二八年—二九年に於て投資額は大體五ヶ年計畫の豫定に一致してゐた。一九二八年—三〇年に於て、それは既に著しく豫定より高くなつてゐた（二十三億三千百萬の代りに三十九億六千萬）。一九三〇年—三一年度に於て、二十八億七千九百萬の代りに、五ヶ年計畫は五十五億ルーブルに達する投資、即ち三ヶ年に六十八億ルーブルに對する百十億ルーブルを豫見してゐる。全體として、大建設五

ケ年計畫は五ケ年間に於てではなく、三ケ年乃至四ケ年に遂行されるであらう。否、諸部門に就ては三ケ年に遂行されるであらう。蓋し、五ケ年計畫は重工業に對して五ケ年間に總計百億の投資を豫定してゐたのだが、我々は既にこの三ケ年間に九十七億を投資してしまつたのである。工業開拓資本は次のやうに増加した、即ち一九二九年十月一日には六十七億、一九三〇年十月一日には百億、而して次年度の十月一日には殆んど百三十乃至百四十億ルーブルに増大するであらう。

三ケ年間に基礎資本は倍加した。工業資本が三ケ年間に倍加したような國が他に何處にあらうか？同時に運轉資本の中重工業に屬する諸部門の相對的割合は、この時期の間に、五七・五パーセントより七二・八パーセントに倍加した。これは五ケ年計畫が五ケ年かゝつて到達する筈であつた割合と略々同じである。

今日は最早、我々の有する大企業はその技術的水準に於て西歐及びアメリカ工業の最良の企業と競争し始めてゐる、例へばスターリンググラードのトラクター工場（この工場は大會中に世に知られた）、「赤ブチロフ」の鍛鋼場（それはアメリカの良い鍛鋼場に少しもひけをとらぬ）、ロストフの農具工場（これは農具製造の領域に於て今日までに存在した凡ゆる工場より優つてゐる）、新中央發電所（これは未だ装置は完成してないが、西歐の最良の發電所に匹敵すべきもの）、モスコウの電氣工場、マリオボールの新しい鐵管工場（その生産能力は類似の一切の諸工場のを追ひ越してゐる）、バラクニンスク製紙工場、バクーの揮發油加工工場及びグロスナフト、諸工場、アルカンゲル・ド・ドゥブレヴァの製材

工場、クラスニーオクチアール、イフグレス、シヤトルキイの如き一系列の中央發電所など。要するに一九二七—二八年度に於ては新たな建設の單位は五十九、その總價格一億五千六百萬ルーブルが開拓されたに反し、今年は、二二一單位、即ち約四倍強、總額八十三億九千六百萬ルーブルが働かされるであらう、と云ふことを云つておけば充分だ。

いま一つ建設の宏大さを特質づける數字がある。現今建設されつゝある全事業の總費用は百二十億ルーブルに上る。他方、わが工業の基礎資本の總計は、一九三〇年十月一日現在で既に百億ルーブルに達するであらう。その事は、我々が若しマグニトゴルスク工場、クヅネーツク工場、ドニエブルのチエリアピンスク及びハルコフのトラクター工場、ニジニノフゴロフの自動車工場、モスコウ、ニジニノフゴロフ及びハルコフの機械工場、モスコウ、ベレスニア、ボブリキの化學製品工場、シベリア及びサラトフの鑛工場、その他ドン盆地、シベリア、ウラルに於て採掘されつゝある有力なる鑛山、建設中の有力なる諸發電所の如き巨大なる諸企業が建設されつゝあることを知つたならば、理解できるであらう。

五ケ年計畫

生産能力の増大は、我々の全經濟政策の中心問題の一である。しかし多くの場合、生産能率の水準は、労働者に對する電力設備の發展に正比例する。然るに、若しわが國の労働者の電力設備の程度をア

メリカ労働者のそれと比較するとき、結果はとりたてて、悦ぶほどではない。一九二五—二六年にアメリカの各労働者によつて使用されたエネルギーは一時間七、三〇〇キロワットであるに反し、我々はその三分の一、即ち二、三〇〇キロワットを有するにすぎぬ。一九二七—二八年にはアメリカ労働者による二時間八、八〇〇キロワットに對し、我々は三、二〇〇キロワットにすぎぬ。最近、電化の發展につれて情勢はいくらか良好となり、我國労働者の電力設備の程度は増大してゐる。一九二八—二九年には労働者一人につき一時間三、七〇〇キロワットに達した。一九二九—三〇年には水準は、四、四〇〇キロワットに達してゐた。而して、今開かれてゐる動力會議の宣言に基いての國家計畫委員會の計算によれば、我々は一九三〇—三一年に於て労働者一人當りの電力量五、二五〇キロワットをもつことになる。かくて我々の建設の巨大さと、我々が電化事業に投ずる巨大な資本とも拘らず、次年度には我々は未だ各労働者の使用電力量に於て到底アメリカに追いつかぬであらう。だが、我々はあらゆる困難を排して近年中には、ヨーロッパ並びにアメリカを追ひ越す見透しを持たねばならぬことは極めて明かである。またもし我々が電力化のこの水準に到達すれば、我々が採用した以上の大きな割合をもつて發展のテンポを速める事ができるのであらうことも亦明らかだ。何故なら、その時から生産能率はこの電力設備の増大によつて今までより遙かに著るしい割合を以て増大するであらうから。スターリンがこの計畫の豫定に就て語つた場合、彼がその問題を次のやうに提出したことは正しかつた。即ち我々にとつて計畫は如何なる條件事情の下に在つても永久、恒常、不動なものであり得な

い。却つて反對に我々はたえずその遂行の程度に應じてそれを矯正して行かなければならぬ。如何なることがあつてもなさねばならぬ第一の矯正は、電力生産の増加と、而して一般的に電力學とに關する。かくして黨中央委員會は電力的基礎の發展を促進せしむべきことを決定した。而して政府は、中央委員會の指導に従つて、電化事業豫算を年々増加してゐる。工場及び地方のあらゆる中心地帯に就いて見るに、我々は一九二八—二九年に一九二六—二七年の價値で三億二千ルーブルを投資した。一九二九—三〇年にはその投資は六億四千萬ルーブルに達するはづである。そして最後に、一九三〇—三一年の次年度に對する投資が十一億八千萬ルーブルに昇ることは豫想されてゐる。即ち、一九三〇—三一年には投資は今年度に比して倍加されるであらうし、又今年度は前年度に比して倍加するであらう。

この投資に應じて電力生産が發展する。我々は一九二八—二九年に六十億キロワットを産出したとすれば、今年度は八十億キロワットを産し、次年度に百三十億キロワットを出すであらう。

我々の動力基礎、殊に電化の發展を深めるためにどうしても電氣技術工業を打ち建てねばならぬ。この電氣技術工業の基礎に立つてのみ、我々は大なる發展のテンポを示すことができるであらう。さもなくば、我々は反對に輸入の問題に當面するだらう。諸君には輸入問題が我々の發展のテンポを緩める處の障礙となることが完全に了解されるであらう。こゝに電氣技術工業及びタービン製作を最大限度にまで發展せしめねばならぬ理由がある。

電氣技術工業について今までどうなつてゐたかを論じよう。この工業の總生産高は爾餘の諸産業部門に優り、あらゆる比較を超越して、大戦前の標準を突破し、一九二八―二九年に二億七千二百萬ルーブルを、而して今年度は五億三百萬ルーブルを突破するであらう。即ち、それは云はゞ戦前に倍加するであらう。そして一九三〇―三一年には百八億四千八百萬ルーブルに達して、二倍以上となるであらう。それは既に特に戦前の水準を超越して居るであるから、最早戦前の水準などは問題にならないことが明らかであらう。

だが一九二八―二九年、一九二九―三〇年、一九三〇―三一年は電氣技術工業の特に急速な發展の年である。我々は電氣技術工業の生産を年々倍加することができる。將來においてそれは十億ルーブルを越えるだらう。

タービン製作に關しては、大戦前には最高生産高五・九千キロワットであつたが、一九二六―二七年には戦前の標準を越えて三萬四千キロワットを作り出し、一九二九―三〇年には二十萬キロワット、一九三〇―三一年には總馬力六十六萬キロワット、即ち、本年度の三倍半のタービンの製造を豫想する。

動力の基礎たる燃料工業は比較的高いテンポで發展してゐる。石油探掘は一九二七―二八年に三千五百萬四千トンであつたが、一九三〇―三一年には七千二百乃至七千三百萬トンになる。五ヶ年計畫の終了期に達せらるべき目標は七千五百萬トンであるから、我々は一九三〇―三一年に於て謂はゞ五

ヶ年計畫を遂行してしまつたと云ひ得るだらう。

今年になつて我々は五千二百五十萬トンの計畫を遂行しなければならぬ。諸君の見られる通り、その歩調は極めて速かであつた。しかしこの方面でも五ヶ年計畫は謂はゞ三年間に行はれたとは云ふものゝ、我々は探掘の歩調を速め、將來の増加を得るやうな凡ゆる可能性の探求に着手せねばならぬ。揮發油工業では、相當な資本の投資によつて、我々は今年度千七百二十萬トンを生産した。一九三〇―三一年には二千三百萬トンを生産するだらう。諸君は、サヴェート會議で建てられた五ヶ年計畫

は一九三二―三三年に二千二百萬トンを豫定してゐたことを想起されるであらう。換言すれば次年度には既にこの豫定額を超えるのである。

泥炭に關して、その生産高は一九二七―二八年には六・九萬トンに上つた、一九二九―三〇年にはプログラムは著るしく増大し、豫想生産高は一千六百萬トンに及んだ、どの程度において、このプログラムの遂行されるであらうか？ このことは、一聯の地方にとつて極めて必要且つ貴重なこの生産物の獲得のために今日行はれる戦争の問題に懸つてゐる。しかし凡ゆる方法を以つて我々は一九三〇―三一年には五ヶ年計畫によつて與へられた數字に達するであらう。(一九三二―三三年には計畫は一千六百萬トンの數字を示す。)

あらゆる形態の燃料及び電化に關して次年度に到達さるべき目標は甚だ高い。だが、我々はこの豫定を更により一層増大せしめねばならぬといふ事實のあることをなほ考量に入れておかねばならぬ。

私は黨中央委員會が採用した所の、且つ國家經濟の全體に對すると同じく我々の工業に對しても絶大なる歴史的役割を演ずるであらう所の決議、即ち五ヶ年計畫満了の時期までに一千七百萬トンの限度で鑄鐵の生産を増加すべしとの決議について諸君に話したい。中央委員會のこの決定は最近採用されたので、我々はこの問題を研究し、鑄鐵生産の増加の齎らす結果が如何なるものであるかを検討する閉がなかつた。然し鑄鐵生産の増加はあらゆる工業部門に於て、そして主として國家經濟全體に強力に反響するだらう。かくして、鑄鐵生産増加の必要は明かとなつたので、我々は恐らくもう一度、來るべき一九三〇—三一年度に豫定された電化、石油等々に關するプログラムを見直すべきであらう。

重工業と輕工業

社會主義建設の、また、我が全國家經濟の技術的再組織の領域に於いて最も重要な問題は、重工業と輕工業との比重の問題である。一國の發展の根本的指數の一は、一方に燃料（石油、揮發油）の領域に於いて他方に金屬（鑄鐵、鋼鐵等）の領域に於いて、その工業が産した水準である。重工業と輕工業間の比重は一國の工業的水準を特色づける。最近の時期に於いて我國には如何なる情勢が展開されたか？ 年々重工業は、工業發達のための資本に於けると同様、工業全體の生産總額に於いて相對的にその重要性を増した。そこにこそ、我々は最も進歩した技術的な新たな基礎の上にわが國全體を再組織するための確固たる基礎を見いだすのである。

重工業の諸部門の生産と輕工業に屬する諸部門の生産との間の毎年の比重は次の様になつてゐる。即ち、重工業の總生産は、一九二七—二八年度に於て四三パーセントであつた。次年度には四六・八パーセント、一九二九—三〇年度に於ては四八パーセント。來年度は五二パーセントに達するだらう。換言すれば、それは我工業に於いて最も優越せる比重をもつであらう。重工業は生産總額の半分以上を供給するであらう。かやうにして、我々はその他の經濟的諸部門に對しても、又工業それ自體に對しても、基本的なる諸生産手段を供給し得るであらう。

我々は、基礎資本に關しても同様なる現象を見いだす。重工業の諸部門の基礎資本の比重は、一九二七—二八年度に於て五七パーセント、一九二八—二九年度に於て六〇パーセントであつた。今年のそれは六六パーセントである。思ふに、來年度重工業の基礎資本の相對的割合は七二パーセントに達し、工業基礎資本の總額の大約四分の三が重工業に費やされるであらう。

總ての重工業に於て、來年度から、五ヶ年計畫の全體が成就されるであらう。然るに、五ヶ年計畫の豫想せるところでは、重工業生産は、この計畫の最後の年度に於て百四十五億ルーブルに達する筈になつてゐる。故に我々は、生産手段に關しては、五ヶ年計畫に於て成就せらるべき豫定を凌駕するであらう。

鐵冶金工業は、熱力學によれば重工業に於ける最も重要な部門である。我々は、一九二九—三〇年度のみでかなり重大な割合を以つて戦前の冶金工業の水準を越える事が出來た。我々はこの年度に於

いて戦前の四百二十萬トンの生産に對し五百五十萬トンの鑄鐵を生産しなければならぬ。鑛業に就いて云へば、我々は今年度に於て、戦前の九百二十萬トンに對し千百三十萬トンを生産し、更に來年度に於ては、千四百七十萬トンの鑛物を探掘し、かくて戦前の水準を遙かに凌駕し得ると思ふ。

冶金工業の領域に於ては、我々は五ヶ年計畫に於て豫想された波動を越えて前進する。然し乍ら、多くの金屬を吸収する一系列の工業——機械製造、農具・自動車・船舶等の製造——は、鐵冶金生産の今後の高度化の問題に發展の基礎を置いてゐる。故に黨中央委員會が我國並びに我労働者階級の上に、一九三二—三三年度に鑄鐵千七百萬トンを生産し、即ち五ヶ年計畫の豫想を七〇パーセント超過すべき偉大なる歴史的任務を課したといふ事は絶対に正しかつたのである。

同志諸君、私は諸君が最高國民經濟會議に於て鑄鐵一千萬トンといふ數字が引用された時代、右の數字に對して六百萬トン、次いで七百萬トンといふ數字及び國家計畫委員會に於て決定された八百萬トンといふ數字がもち出された時代、鑄鐵一千三百萬トンの生産が不可能事と思はれた時代を想起せるや否やを知らない。その時代にあつては、一千萬トンの生産は絶對的に近づくことの出來ぬ目標と思はれた。然るに今日では、この同じ目標が七〇パーセントの割合だけ増大されてゐるのである。

ブルジョア經濟學者は、我々を罵倒し且つ我々の計畫を空想的なものと看做してゐるから、眞先にこの鑄鐵一千萬トンといふ數字に就いて考へる。然るに、この空想は七百萬トンも増大した。斯様に

して、この計畫は一千七百萬トンに達したので、全資本主義世界の激怒を買ふことであらう。同志諸君！我々は、このプログラムを實行する事によつて、ヨーロッパに於ける鑄鐵生産の第一等國となるであらう。(拍手)

五ヶ年計畫の最後の年度の水準、鑄鐵一千萬トンの豫想は一九三二—三三年度に於て達成せられるであらう。

これに關して、冶金工業の發展は他の産業の發展に比して一頭地を抜いてゐる事を注意せねばならぬ。一九三〇—三一年及び一九三一—三二年は主として舊冶金工場に於て生産がつゞけられるであらう。一九三二—三三年、即ち、新大工場の活動が開始され、ウクライナ及びウラル南部に多數の工場が建設される時初めて、マグニトゴルスクの工場が二百六十萬トン、ザボロジエの工場が百萬トン、クーズネツクの工場が百萬トンを生産するであらう。マリオポールの新工場は、五ヶ年計畫の満了期に於て五千トン、ノヴィイタギラの工場は三十萬トンを供給するであらう。一九三二—三三年には鑄鐵千七百萬トンが生産される豫想である。これらの新しい諸工場のみで六百二十萬トンを生産するであらう。即ち我全冶金工業が、活動中の三十九工場に於て現在生産するよりも七十萬トン多く生産するであらう。

現在建設中のクーズネツク、マグニトゴルスク及びザボロジエの三大工場に就いて云へば、これらの工場だけで、鑄鐵四百五十萬トン、即ち全冶金工業の生産總量の二六パーセントを供給するであ

らう。以上の事は、此等の工場建設が如何に重要であるか、マグネイトゴルスク、クーズネーツク及びザボロジエの諸工場の建設にいかなる注意が拂はねばならぬかを示すに充分である。それ故に、鐵冶金の發展は、たゞにその波動の促進されたこと、新建造物の大規模である事ばかりでなく、生産の集積程度や若干の主要大工場への生産の集中によつても特質づけられる。合衆國の最大の工場と雖も凡そ三百萬トンしか生産してはゐない。然るに、我々はマグネイトゴルスクの工場に於て二百六十萬トンを生産するであらうから、該工場は間もなく、アメリカ工場の次位に列するに到るであらう。

鐵金屬に關しては、五ヶ年計畫に豫想されたところは、單に資本主義諸國に追つかねばならぬばかりでなく、五ヶ年計畫の満了期にはアメリカに次ぐ第二國となる爲に、多くの資本主義諸國を超越さねばならない。

だが、假令五ヶ年計畫に於ては、サヴェート同盟に於ける重大な冶金工業の基礎が實現されたとは云へ、我々は五ヶ年計畫以上の注意を以て、建設の速度を促進するに必要な手段を講ぜねばならぬ事は言を俟たぬ。我々は國民經濟生活の五ヶ年といふ框内に閉ぢこもつてはならない。この五ヶ年間に上に急速な發展を遂げるであらう。金屬の需要は増加してやまないであらう。我々は我が冶金工業の發達に關する今後の運命を豫見しなければならぬ。

五ヶ年計畫通り、尙建設しなければならぬ工場は何であるか。私は既に云つた、既に述べた三大工場の外に、五ヶ年計畫中にニジニータギラの工場が活動に入るであらうといふ事を。他方、中央委

員會の決議に従つて、我々は百萬トンの生産能力をもち一九三三—三四年度から多分活動に入るバカルスクの冶金工場の建設をウラルに始めるのであらう。けれども情勢の如何によつては、我々はこの工場を急いで建設し、五ヶ年計畫の經過中に、該工場から若干の鑄鐵量を收得せねばならぬであらう。

だが、一九三三—三四年並にその後の年度に於ける國民經濟は、ヨリ一層急速度に發展し、鑄鐵の需要は著しく増加するであらう。我々は何を爲すべきか。明らかに、新冶金工場の建設を前もつて企畫しなければならぬ。これ、中央委員會が今から上述のウラルの諸工場の外に、五ヶ年計畫期間中にレーベツツの工場建設に着手すべきことを決定した所以である。我々は一九三一—三二年の豫想をなすに當つて、確かに、それ以外の若干數の冶金工場建設を企畫せねばならぬといふ事を附け加へる。冶金工場建設地として囑望されてゐる地方は不足してはゐない、ウラル—この地方が冶金工業の今後の發展に全利益を提供することは云はずがな—の外に、下ヴォルガや中部ヴォルガ地方並びにクリヴァイイルログ地方等々は、冶金工場建設の後補地である。

次に非鐵冶金工業に於ける若干の進歩を指摘しやう。一九三〇—三一年に於ては、一九二七年—二八年の二倍半の非鐵金屬が生産されるであらう。五ヶ年計畫では僅かに八三パーセントの増加が豫想されたのに、この生産は三ヶ年間に二倍半も増加してゐる。だが、かゝる急速な増加にも拘らず、非鐵冶金は依然として貧弱な地點にとゞまつてゐる。それ故にこそ全ての團體、全労働者階級はこの冶

金工業に向つて一大注意を拂はねばならないのである。

化學工業にあつては、我々は若干の懸念される指數を認める。假令この工業は、比較的に高度な發展をなしてゐるとは云へ、化學製品生産の領域、特に人造肥料の生産領域に於ては、五ヶ年計畫に於て豫想せるものよりも實行が後れてゐる。即ち酸性磷酸鹽の生産に就いていへば、案の實行は昨年（一九二九）に於ては七六パーセントにしか達しなかつた。一九二九—三〇年に於ては、既に確定せる生産は五ヶ年計畫が豫測せる生産と一致してゐる。この生産がその生産總額に達する様に取計らはねばならぬ。確かに、化學製品に關する限りでは、サヴェート第五回大會で必要と認められたその五ヶ年計畫は最も骨の折れるものであつた。主要な化學製品に對して、案は五倍の生産を豫定した。明らかにこゝで問題とされることは工業の發展といふことよりは新工業の創設といふことである。然し乍ら、化學製品工業は、我國防の基礎であり且つ我農業發展の主要なる基礎であるが故に、この目的は甚だ困難ではあるが、五ヶ年計畫に於ける他の諸目的より重要視されねばならない。

建築材料品工業に於ては、次の如き發展を示すであらう。この工業の總生産——森林業、木材業を含めて——は、五ヶ年計畫によれば、一九二七—二八年に八億ルーブル、一九二八年—二九年には更に十億ルーブルに、今年（一九二九）は、十四億六千三百萬ルーブルに、次年度一九三〇—三一年には、十九億二千萬ルーブルに増加するであらう。總額に於て、この増加は三ヶ年間に二三七パーセントに、一九二七—二八年に比較すれば一三七パーセントに達するであらう。然し乍ら、建築材料に關しては、確か

にそれヨリ一層急速な發展が必要である。假令五ヶ年計畫では建築材料に關して極めて大なる目標が定められ、且つ我々は此の範圍に於て案の豫測——建築材料品工業の總生産は、一九三〇—三一年に四十億ルーブル以上にのぼるであらう。——を凌駕すると雖も、尙依然として、ヨリ一層の努力を拂はねばならぬであらう。建築材料品工業は、如何なる故障にも拘らず建築に關する我が計畫に相應する發展を遂げねばならない。

五ヶ年計畫の二ヶ年間で、B群は次の如き増加をなすであらう。即ち、一九二八—二九年に於てはその前年度よりも一九パーセント増加し、次いで二一・九パーセント、而も同年度の通計七ヶ月の比較では二、二二パーセント増加するであらう。換言すれば、我々は、五ヶ年計畫の豫測にほぼ一致して進むのである。輕工業の若干の部門——例へば、鑛詰製造業、漁業、被服業の如き——では五ヶ年計畫の豫想を凌駕した。輕工業全般に於ける發展に關して云へば、五ヶ年計畫に於て決定した水準は獨特なものである。人若し都市の人口、特に、勞働者数が五ヶ年計畫の豫測よりもつと急速に増加することを考慮するならば、且つ輕工業の發展の速度が後れるとするならば、一系列の經濟現象の上に不都合を來たすことは明らかである。ところでこの遲滯は原料の基礎の不充分な發展に伴ふ諸困難によつてのみ説明され得るのであつて、決して、輕工業の基礎資本状態によつては説明され得ないであらう。

オルジヨニキツゼが正直に宣言した如く、我が棉工業に於ける生産は、現在、その現在の資本を

以て二倍の原料を加工し得る可能性を有してゐる。

原料の輸入を減少する必要を考へれば、B群をヨリ一層活動せしめる問題を如何にして解決するか且つ、續いて、この群を原料の輸入から如何にして完全に解放するか。この問題の解決は明らかに穀類問題の解決と同一手段によらねばならない。疑もなく原料供給の地方に於いて、共同經營農場や國營農場の建設を尙一層發展させ、それと同時に貧農や中農の私有耕作地を活氣づけねばならぬ。これらの戦術を採用する事によつて工業原料の問題の解決に成功するであらう。凡ゆる種類の工業用作物の栽培面積は、充分なる生産能率並びに充分に生産的な土地設備によつて我が諸企業に必要な原料を供給し得、これらの企業を完全なる能率を以つて活動せしめ得るであらう。現在我々は、百六十萬ヘクタールの棉花栽培地と百六十萬ヘクタールの亞麻の栽培地、及び九十萬ヘクタールの大麻の栽培地等を所有してゐる。然るにこれらの地面は、栽培能率が萬事都合に行つた際には、我が工業への原料供給を完全に保證するであらう。例へば棉花の例をとつて見ると、一九二八—二九年には戦前の面積の三〇パーセント超過せる播種地面を有してゐた。だが、栽培能率は戦前の收穫の七九パーセントしか達しなかつたが故に、棉の收穫は戦前の水準を二パーセントしか超えなかつた。亞麻については、尙一層適切な表を示す事が出来る。一九二八—二九年に於て、亞麻の播種面積は戦前に比して僅かながら増加した、だが栽培能率は以前に劣つてをり、同時に農民耕作地に於ける亞麻の栽培は著しく減じたから、その收穫は戦前に比して五二パーセントにしか達しなかつた。かゝる結果が、就中農村經

濟の著しく分散的なることに依るものであることも亦明らかなる事である。若し集合經濟が一層組織化されたなら、我々はこの播種面積を活用し得るのであらうが、この分散の故に、それを充分活用し得ないのである。一九二九年の農業年度中、農業生産能率に關する状態は改善されてゐない。棉花に關してもその栽培能率が増加しなかつたが故に、殆んど同じ表が描かれ、若干の能率減少さへも示された。黨中央委員會は、繰り返し農業原料品の問題を考査した。それが播種面積に關して大なる目標を定め且つ全經濟機關をこの問題に向つて方向づけた事は、全く正しかつた。輕工業の發展を速進し得る根據はこの領域に横はつてゐる。我々は單に播種面積を擴張し得るのみでなく、工業用作物の栽培能率の増加の問題を充分に研究しなければならぬ。然るにこの問題は、大耕作地の組織化の問題に密接に依存してゐる。何故なら、貧弱な小土地の上に成立し、舊式な生産手段によつて耕作されてゐる小農的耕作地は、必要な原料品を以つて工業問題を急速に解決する事が出来ないからである。共同經營農場と國營農場だけが亞麻や煙草の栽培に當つて、機械勞働を耕作に有効に應用し、且つ肥料を廣汎に用ひる事が出来るであらう。たゞ大耕作地のみが、輕工業原料品の問題を急速に解決する事が可能である。

私が簡単に指摘しようと思ふ第二の問題は——、私はこの問題を詳細に論ずる餘裕をもたない——輕工業の爲に新たなる原料種類の問題である。私は紡績工業に當てられる原料、ケンデル、キナル及び「ラミ」等々に就いて述べよう。これらの栽培は今試作状態に過ぎないが、將來は確に、一大役割

を演じて我が紡績工業の活動を支援するであらう。ケンデルの問題は最大の成功を収める問題である。この作物は増加するのに数年を要し、且つ、主としてカザクスタン地方に發生するものであり、それは我々に新生組織の奇麗な纖維を供給するであらう。同年に於て、ケンデルは十ヘクター、恐らくは十五ヘクターさへも播種されるであらう。來年度に於て我々は、紡績工業にとつて優れた原料たるケンデルから作られた纖維十萬乃至二十萬ポンドを獲得し得るであらう。コーカサスに産する作物たる「ラミ」はその性質からもつと大なる利益を供給する。この作物は棉花の纖維よりも一層上等な纖維を供給する。然るにこの作物は、その栽培が極めてふるはないのである。故に全問題はこの作物を盛に栽培することにかゝつてゐる。

原料品基礎の強度の發展に關しては、農生産物を大工業（機械、農業の爲の化學的肥料、國營農場や共同經營農場の爲の建築材料等に供給するのに主力をそゝがねばならぬ。

國營農場や、共同經營農場の必要なる支給品を特別に研究する任務を決定しなければならぬ。この國營農場や共同經營場は、紡績工業其の他の輕工業への原料品の基礎を發展させる爲に組織されねばならぬであらう。それ故に諸君が見らるゝ如く、紡績工業の問題は、結局トラクターや重工業や生産手段の製造工業によつて解決されるであらう。

斯く述べる上は、輕工業の發展も同様に、現在、實質賃銀を増加する爲めに必要だといふことを指摘しないであらう。若し輕工業が發展し、それが現在までよりもつと著しく消費の欲望を充足する

に至るならば、實質賃銀は、確かに一層容易に増加するだらう。然るに、この問題は今や、全面的に提出されてゐる、我々が重工業を手に入れる時、輕工業問題を、我が國固有の重工業によつて解決し得る時、（建築材料の製造品や、機械要具を工業用作物栽培に適用する強力な社會主義的耕作地の創設に關する限りに於て）その時我々は、我々が今日迄輕工業について拂つたより一層大なる注意をこれに拂ひ、又それにもつと大きな發展を保證し得るし、又保證し得ねばならぬのである。

輕工業については、私は手工業的工業について數言したいと思ふ。私は特に不足してゐない原料品の種類を取扱ふ、手工業的工業の部門について言ひたい。一つの數字を擧げるだけで、市場への供給に於ける手工業的工業の非常な重要性を示すに充分である。

今年、協同組合的な工業のみでこの國に於て主として主要消費に向けらるべき商品から成つてゐる二十五億ルーブルの商品を生産する筈である。二十五億ルーブル！だから我々は、手工業的工業をテンポの増大及び人口の大衆の欲求の充足のための大輕工業の重要な補助者と看做さねばならない。

機 械 建 造

我が巨大なる建設が莫大の量の機械を必要とすることは敢て云ふまでもない。こゝに數字を擧げよう。若し、一九二七—二八年に、工業機械の總消費高が約四億五千萬ルーブルで表はされるならば、今年、この消費高は既に十五億ルーブルに達して居り、即ち、それは五ヶ年計畫よりも以前の一九二

七一二八年度の消費を三倍以上も凌駕してゐる。最近二ヶ年間に、消費は三倍増大した。次の一九三〇—三一年度には新たな重要な躍進がなされ、機械に對する工業の消費の増大は二十三億若しくは二十五億ルーブルと云ふ數字に達するであらう。本年の十五億ルーブルに對する二十五億ルーブルの機械消費！

それは我々が機械に對するこれらの著しい需要を輸入によつて充たす必要がないと云ふ證據でさへある。この領域に於ける資本主義世界への依存は最も許容し難い。我々は、我々の建設及び技術的改装の全體の運命を我々の帝國主義的敵共の手中に委ねて置くことは出来ない。他方、純經濟的考察よりすれば我々は輸入への方向に向ふことが出来ないことは確かである。

我々の工業の發展の見透しは、次の年の中に我々はある種の機械類に關しては世界生産額の極めて大なる部分を占めるに相違ない程である。こゝに極めて特徴的な一例がある。三ヶ年に、我々はこの國に金屬展延機（ブリュミング）の連續的系統を十乃至十二も設備する必要がある。然るに現在世界中で四十ばかりしかないのである。一聯の他の機械類についても同様である。我々は、獨占者等——資本主義世界の機械製造家——が我々に向つて我々の國の技術的改装の政策を命ずる可能性を持つてあらうから、帝國主義諸國に依存することは出来ないし、依存してはならないし、そして依存することを欲しない。我々が近代社會の本質的な生産力——機械——を製造する大工業をこの國に創建するために全力を竭さねばならないのは明瞭である。

殊に金屬展延機のこれらの連續系統に關して云へば、我々は最後には、それらの工場の中にあるものをも少し技術的見地に立つて強めそして改装すれば、我々の工場でもこれらのものを製作し得るであらう。充分な技術的援助が得られ、又外國から金屬展延機の連續系統を二臺だけ買入れるだけに止まれば、私が思ふには、我々の工場はこの任務をなし遂げるものであり、又斯くして我が冶金工業の必要な發展を保證するであらう。

我々の當面する諸問題は廣大である。とは云へ、我々の機械建造の状態は未だこれらの問題に應ずるには到らない。

資本主義が我々に遺産として遺したものは、機械建造用工場の殆ど完全なる缺如と云ふことであつた。我々は謂はゞ空地に建設しなければならぬ。加之、近年猛烈な勢で發達した技術の進歩は、戦前のロシアが所有してゐた、機械建造工場の若干のものを役に立たなくして了ふのである。

我々は最新の技術に従つて、先進資本主義諸國の新しい技術的成果を基礎として、我々の國を改造するであらう。この故に、我々の國が機械建造の問題について有つてゐた經驗は既に最早技術に於て行はれてゐる變革に適應しない。我々はこの國の技術的改装の増大しつゝある要求を充たし得るであらう様な、機械の新しい型を造らなければならぬ。有資格労働者、技師及び技手の充分なる幹部の缺如してゐることは、機械建造の發展に關して巨大な困難をつくり出してゐる。然し乍ら、これらの困難は徹底的に克服され得るし、また克服されねばならない。

機械建造の發展を阻害してゐるのはたゞこれだけでないことは確かである。なほ現在我々がぶつからねばならない状態があるが、それは金屬に關する状態である。特種の鐵及び鋼を持つことの必要、非鐵並に輕金屬に對する重要な需要、この總てが、我々が來るべき數年間に採用しなければならぬ、機械建造の廣大なる尺度の上に増大されて、非常な大困難をなしてゐる。

これらの困難に照らして、黨中央委員會が千七百萬トンの限度に於ける鑄鐵の生産の増加及びウラルそしてザボロジエに於ける良質金屬生産根據地の創設に關して採つた決定が如何に正しいものであるかを理解することが出来る。

如何に機械建造は發展したか？ 現存の諸困難にも拘らず、我が機械工業の名譽のために、發展の速度は極めて大きかつたことを認めなければならぬ。戦前、機械工業は相對價值で（一九二六—二七年の價值に換算して）三億七百萬ルーブルの生産があつた。この餘り高くない數字に對して、我々のサヴェートの結果を較ぶれば次の如くである。一九二八—二九年には、七億ルーブル、一九二九—三〇年には十三億ルーブル、そして一九三〇—三一年には、この生産は二十五億ルーブルに達するであらう。

戦前の時期に較ぶれば、これは八一四パーセントの増加である。今年、我々の生産は戦前の生産に對して四倍も優り、將來は八倍も優るであらう！

斯くして、我々はこの領域に於て極めて明瞭な、著しい結果を收めたのである。我々は新機械の建

造を組織することに關してこれに劣らず著しい結果を收めたのである。

我々は單に大量の機械を製造し得るに到つただけではなく、又單に機械のある新しい型を造ると云ふだけではなく、多くの場合に於て我々はそれらの機械を非常に立派に、而も比較的廉價に製造出来るのである。諸君も知る如く我々は農業用機械を戦前價格で（戦前の流通價格による）賣つてゐる。所で、農業用機械の製造は補足的信用なしに繼續、發展することが出来る。我々は外國よりも若干廉價でディーゼル・モーターを製造する。

だが我々は未だ限られた割合でしか機械を廉價に、良質に製造出来ないことを云ふ必要がある。大多數の場合、我々が造る機械は品質の迄で物足らず、又高價であることを不幸にして認めなければならぬ。そしてこのことは我々自身に割當てられた、工業及び農業の發展の速度と全く矛盾する。

機械は國民經濟の改造の神經である、それは結局、我々の技術的基礎を確固たる水準に引上げ、我々をして「追いつき、追いつき」と云ふ標語を實際に實現することを許すであらう。何故なら、我々は我々の機械の高價なこと、その品質の劣等なことを寛恕すべきではない。健全なヴォルシエヴィキ的速度を得るには、品質の良好な、高價でない機械がなくてはならぬ。

機械建造工業に投ぜられた莫大な支出について云へば、それは一九二九—三〇年に、旋盤及び汽罐製造をも含めて、二億三千七百萬ルーブルに達する。電気技術工業では六千二百萬ルーブル、自動車製造工業では一億九千八百五十萬ルーブル、農業用機械の製造に於ては一億ルーブルで、他の種類の

機械に對しては六億一千七百萬ルーブルである。

國民經濟全體の改造に於て機械建造が演じなければならぬ役割が判つたから、我々は來年に於て十億七千五百萬ルーブル即ち今年の投資の殆ど二倍に達する巨額の投資の増大を豫見する事が出来る。

機械製造に投ぜられる巨額の投資の著しい大きさを惜しむ必要はない。蓋し全工業は機械製造に依存してゐるので、機械製造は我々をしてボルシエヴィキ的速度を發展し得しめるであらう部分だからである。

石炭産業、電化、冶金工業、化學製品、セメント、紙等の製造も亦同様に機械製造の發展に依存する。

機械の製造を最大限度にまで押し進めなければならぬ。何故ならそれは我々が國民經濟の全連鎖を引寄せらるために掴まねばならぬ中心の一環だからである。

新製造工業

私は更に機械建造と國民經濟の他の諸部門との間の關係について數言しよう。吾々がすべての産業部門に於て組織しており、そして現在の時期にとつて特に重要な新製造工業に簡單に觸れよう。戦前の帝政ロシアは、原則的には農業國であり、その技術の發展は極めて遅々たるものであつた。資本主義世界が異常な前進時代にはいつてゐたのに、多年にわたる戦争、革命、封鎖、外國の技術との絶交の結果、吾が國の發展は非常に遅れた。要するにこの領域に於て、資本主義的發展は益々新製造工業

の創建の方向に向つてゐる。しかるに我々は、進歩した技術の點で極めて遅れてゐて、近年に至つてようやくそれを利用し始めたにすぎない。我々は、最近數年來到る處で前進が認められ、そして新しい工場及び新しい企業を建設するために莫大な支出がなされてゐることを認める。それによつて我々は今や、戦前のロシアに於て一般的に無視されてゐた一聯の工場を組織し、發展せしめることができる。我々がかり得た量的な、そして或る程度に於ては質的な進歩を示すところの若干の數字を引用しよう。

未だ會つてなかつた新型の機械の製造は、次のやうな状態で増加してゐる。例へば一九二七—二八年度に於て新機械製造に四千萬ルーブルが支出されたのに、來年度に於ては五億五千二百萬ルーブルが支出されるであらう。換言すれば、この三ヶ年の間に機械の製造は十倍以上増加するであらう。

機械の一般的生産に於ける新工業の割合は七パーセントから二一パーセントにのぼつた。換言すれば三倍の増加である。もしも我々が來年度のために豫定してゐる新製造工業の數字と戦前の機械製造のそれとを比較するならば、この成功はもつと輝きものとして現はれるであらう。戦前に於ては全工業に對して三億ルーブル内外が支出されてゐたのに、來年度に於ては機械製作の新部門だけに五億五千二百萬ルーブルが豫想されてゐるのである。かくて來年度の新しい機械製造業の生産額は戦前の機械製作を四一パーセント凌駕するであらう。

この新しい製造工業のグループへ入るものは次の如きものである、トラクター、自動車、タービン、蒸氣機關、複雑な農業機械、來年に於て五百萬ルーブルの限度まで製造される筈の穿孔機、一種の石

油採掘機械（この製造は本年度に千七百萬ルーブル、來年度に五千萬ルーブルに達するであらう）、化學工業のための設備（この製造は本年度に於て千二百萬ルーブルに達するであらう）、冷却器（この製造は本年度には六百萬ルーブル、來年度には千四百萬ルーブルに達するであらう）、パン製造機械（この製造は本年度は四百萬ルーブル、來年度には千八百萬ルーブルに達するであらう）、煙草製造機械（この製造は、わが煙草工業の需要を十分に満しうるであらう）旋盤及び穿孔機（本年千二百萬ルーブル、來年二千六百萬ルーブル製造されるであらう）全然新しい構造と機能とをもつたダイゼル・モーター（この製造は本年度に千五百萬ルーブル、來年度には四千萬ルーブルに達する）。一聯の重要な品目に關する記述はこれ位にして置こう。製皮及び製靴工業のすべては、國産の機械をもつて設備されてゐる。マッチ工場で使用される機械は殆ど専ら自國で作られてゐる。織維工場で使用される機械、器具、梳毛機、編織機、リボン製造機等々はすべて自國で製作されてゐる。

農業に使用される機械の大部分は、新製造工業である。それにも拘らず、我々は戦前我々によつて作られてゐたよりも多くの機械を農業に供給してゐる。戦前に於ては大半が外國から輸入されてゐたのに、我々は一九三〇—三一年度に於て、農業機械の大部分を自國の工場で製造するであらう。本年度に於て我々は、農業機械の一、二パーセントを外國から輸入したにすぎない。化學製品の領域に於て我々は、戦前ロシアに於て全く無視されてゐた一聯の製造工業をもつてゐる。吾々はレニングラードに人絹製絲工場を作つた。本年及び來年度に於て、モギレフ及びクリンの工場の運轉を始めるであらう。

ろ。

我々は、電氣技術工業及びゴム工業向の特殊な織物を作つた。現在我々は、高壓用の装置、照明用及びT.S.F諸装置に使用されるランプ用に充當されるタンダステン（タングステン）の絲を作つてゐる。いふまでもなく、我々は新製造工業のすべてを枚擧することはできない。しかし我々はまだ充分な段階に達してゐないし、またそれがため今日まで外國から獨立することができなかつたのである。それ故我々はこの問題を急速に解決せねばならぬ。

原料の領域に於てもまた、徐々で且つまだ不充分ではあるが、第一歩が踏出され、その結果原料に關して現在外國に對して置かれてゐる様な從屬状態を減ずるに到つてゐる。今や我々は、今日まで貳千萬ルーブルも外國から輸入してゐた綿絲の問題の解決に根本的に着手するに到つた。今や我々は、サヴェートのヨーロッパ地方に於て棉花の栽培を行ふに到つたのである。今や我々は、ゴム工業に於て外國から獨立することを可能ならしめる原料の基礎を作つたのである。翌年度に於て我々は二千噸のゴムを供給しうるであらう。

我々の需要の點から見れば、これは確かに僅少である。これでは我々は外國から解放されえない。だが同時に、本年度に生産する二百トン（ト）を計算に入れないで、來年度から二千トンのサヴェートのゴムを得ることができよう。現在我々は、未開墾のまよになつてゐるタウサギーズの巨大な地面を發見した。我々はタウサギーズの一萬ヘクタールを開墾することができらう。そこにゴムを移植す

ることによつて五千ヘクタールの土地を耕作しうるであらう。又未開墾のまゝになつてゐるハンドラの廣汎な地面（七十二萬ヘクタール）がある。その中二萬五千ヘクタールは今年から開墾されるであらう。他面我々はヴァトフニークの三千ヘクタールの土地とグヴァイユウラの二百ヘクタールの土地をもつてゐる。タウサギーズからは二千トン以上の收穫が得られるであらう。何故ならば、タウサギーズの根は二〇パーセントものゴムを含んでゐて、他のすべての種類の作物以上の尠大な利益を與へるからである。

この計畫は實現されるか、又今我々はゴムの領域に於て外國への依存から解放さるべき途にはいつたのか？ 私は信ずる、この計畫は實現され得るばかりでなく、凌駕され得るであらう。私自身は、この計畫は擴大され得ると信じてゐる。何故ならばタウサギーズの繁茂してゐる地方への最近の踏査の結果、莫大の量の苗とこの領域での多大の可能性が示されたからである。この故にこの計畫はたゞに遂行されるばかりでなく、また凌駕されるであらう。

工業と我が全經濟

工業に對して新らしく増大せる需要を示してゐるものは農業のみではない。工業並びに農業に於ける全生産額の増大、新工業地域の發生並びに地理的見地からする工業經營の分布等——これらすべては、全國に亘つて諸貨物並びに諸商品の輸送が増大せる爲め必要となつた物品を供給する任務を工業

に課してゐる。五ヶ年計畫中に最初定められた貨物流通の増加が豫定を超過したのに従つて機關車、貨車、並びに軌道の製造について運輸事業の工業に對する需要を増大せしめた。五ヶ年計畫は國內に於ける貨物運輸が二億一千万トンに増大すると豫定してゐる。然しながらこの數は既に今年に於いて到達された。來年、即ち一九三〇—三一年度には、貨物運輸は三億三千五百萬トン、即ち計畫が五年度の終りに對して計上した數の一倍半に迄増大するであらう。従つて我々の鐵道機關車、並びに貨車の製造は運輸事業のこの激増せる需要に適應されねばならないのである。こゝで更に、生産の量的増大のみならず、その質的改善が要求されるのである。これまで我々が製造してゐた貨車は、最早適當ではなくなり、より大なる積載能力を有する貨車が必要となつたのである。我々は運輸事業を技術的に改装しなければならぬ。我々は自動連結器の設備並びに新式ブレーキ装置の使用を學ばねばならぬ。我々はこれまでに製造しないでゐた新型の貨車、即ち自動積載装置の貨車を作らねばならない。一口に云へば、我鐵道は質的にも量的にも激増せる需要を工業の上に課しつゝある。工業機械の大なる改造が必要になつて來る。

都市と農村との關係の性質・條件の變化、國營並びに協同經營農場の増大もまた、工業に對する大きな需要を生ぜしめてゐる。自動車運輸の問題は焦眉の急であり、速かに解決されねばならぬ。私が農業、商業、建築業、工業生産、或は科學的調査等、我經濟のあらゆる部門に於いて、自動車並びに貨物自動車の莫大な需要があると述べても決して過言ではあるまい。改造過程の眞只中にある我國の

經濟は、人間が空気を必要とするが如く自動車を必要としてゐるのである。それ故に、自動車運輸の問題は非常に緊急となり、これがために中央委員會は、我々に最大限の努力を要求するところの自動車運輸の計畫を設定したのである。我々は、ニジニノヴゴロドに、一年十四萬臺——それは主として貨物自動車——の生産能力を有する自動車工場を設立しようとしてゐる。この工場の建築は既に着手されてゐる、そして、それは一九三一年の秋までに完成される筈である。この事業の完成に對して規定されてゐる期間は短い。そして技術上の困難は絶大である。而もこの事業は是非とも遂行されねばならないのだ。ニジニノヴゴロドの工場設立の外に、我々はモスコフに於ける「アモ」自動車工場の改造を計畫してゐる。こゝで工場の再組織はその生産能力を全く變化さすであらう。それは現在二萬五千臺の自動車を製造してゐる。新しい諸建築は設立され、新設備を備へるであらう。「アモ」工場は今秋事業開始の筈である。

我海運業は特別の注意を要求してゐる。公海並びに國內の航行は共に益々工業上に需要の増大を來たしてゐる。我國内船舶が今猶ほ遙か後方に遅々たる歩みをつゞけ、かくして現在に於いて、戦前に運搬せし貨物の僅か六〇パーセントを運搬してゐるにすぎないことを諸君は承知の筈である。我々の船舶運輸の復舊事業も亦主として工業に負ふ處多大であると云ふことは明白である。我々は新しい船舶、即ち技術的に最新式の船舶、急速に戦前水準を回復するのみならず、我國の經濟の諸要求に適應し得る可能性を國內航路に保證するに足る船舶を必要としてゐる。

洋航船舶の領域に於ける我々の必要もまた莫大なものである。同志オルジョニキツゼは既にこゝで、外國船舶の賃借を餘儀なくされるために要した我準備金に非常な枯渴を生じたことに言及してゐる。我々は經濟戦線のこの分野に於いて、如何なる犠牲を拂つても前進しなければならぬ、そして必要な改造を遂行しなければならぬのである。

諸貨物の増大せる流通高は、若干の新しき生産部門の組織を再び工業に要求してゐる。我國は多くの消熱装置、エレベーター、大規模のパン製造所、貯藏並びに罐詰工場、屠殺場、碇泊所等を必要としてゐる。こゝで輸入品に依存することは狂氣の沙汰であらう。如何なる準備金の貯蓄の蓄積も我國の諸貨物の流通に役立つところの巨大な全装置を再設備するには充分でないであらう。この巨大な事業がまた我工業によつて計畫されなければならぬことは明白である。我々はこれらすべてを我々自身で生産することを學び、諸貨物の増大する流通の必要が充分満足される程の量を造り出さねばならぬ。

國民經濟の一般的前進、工業化の益々擴大し深刻化して行く過程、國營並びに協同經營農場の廣汎なる再組織並びに義務教育の一般化への推移の計畫等——すべてこれらは、都市並びに農村の社會的文化的必要に備へるべき責任を工業に課してゐる。然しながら集中化されたる工業の諸部門は非常な低水準にある。五ヶ年計畫が製紙業、復寫器工業、映畫事業、無線電信工業、電話及び電報事業用品の生産、並びに我國の文化的社會的諸必要物を調達すべきその他の諸工業等に於ける巨大なる發展の

方向に従つて修正を加へられねばならないことは自明のことである。國民經濟の増大、並びに廣汎なる層に亘る労働者の文化水準の向上は、我々に偉大な緊切な諸任務を課してゐる。こゝにおいてもまたこれらの諸任務を遂行しなければならぬものは工業である。我々は是非共製紙業、印刷業、並びに文化的諸目的のためのすべての諸産業のより急速な發展を確保しなければならぬ。

社會的諸施設——浴場、洗濯場、食堂並びに中央厨房は魔術的に造り上げられねばならぬ。労働者や、協同經營農場に集中されてゐる農民は、今後益々上述の諸施設に對する需要を増大するであらう。なぜなら、これらの巨大な大衆の文化的水準は、來るべき二三年のうちに凡ゆる想像を超えて昂まるであらうから。これらの需要の充足は、是非共我工業によつて保證されねばならない。工業はすべての端緒であり、我全國民經濟を再建すべきものは工業であると云ふレーニニスト・ボルシェヴィストの公式が、現在までの發展過程に於いて嘗つて見られなかつた程に具體的に適用されつゝあるのを今日我々は見るのである。あらゆるものは我機械工業の發展に集中されてゐる。我々の社會主義的建造物のあらゆる部分が改造され得るのは、國民經濟の凡ゆる部門が要求する必要物を供給するところの機械工業によつてのみである。

科學的調査

科學的調査事業が工業に於て演ずる役割は、我が經濟の發展の速度と關聯して非常に重大になつて

來たが故に、それについて少しく述べて見たい。作業の古き方法、即ちノロマな作業方法は、今日最早適當しなくなつてゐる。新しい作業方法、新しい工藝的方法が創造されねばならない。我々のあらゆる原料の諸源泉は出來得る限、急速に利用されねばならぬ。我が工業のために新しき種類の原料が発見されねばならぬ。これらの諸原料の性質並びに能力は研究されねばならぬ、等々。この廣大な仕事の分野は科學的技術的諸施設並びに調査施設によつて遂行されねばならぬ。

我が諸研究所に對する豫算は年々増加してゐる。一九二七—二八年度には三千二百五十萬ルーブル、一九二八—二九年度には五千八百萬、一九二九—三〇年度には一億八百六十萬ルーブルを計上されてゐる。同時に調査所の網は擴大され、一九二七—二八年度の三十四から現在の五十にまで増加されてゐる。これが決して充分でないことは云ふまでもない。アメリカ合衆國の「ゼネラル・エレクトリック會社」の電球部門がその維持費用が一年に千二百萬ドルに達する實驗室を有してゐることを想起せば、それが如何に不充分であるかが認められるであらう。これはサヴェート同盟に於ける全科學研究所に對する昨年の支出の約半分に等しい。この事業を行つてゐる資本主義者達は、明らかにこの支出は價值がある、即ち購ふとの意見を持つてゐる。この實驗所のお蔭で白熱燈の製造が急速に發展し、生産過程が短縮されたことを我々は知つてゐる。

我が諸研究所は如何なる成功をもたらしめてゐるか？ 我々は既に、彼等の達成を若干記録することが出来た。例へば熱技術研究所はモスコ—石炭の燃燒方法を發見した、それはボイラーの加熱効力を

二七パーセント増大し、年に殆んど百萬ルーブルの節約を齎すことになる。モスコイ石炭は今では粉炭の形で燃料として用ひられてゐる。この方法はモスコイの目下計畫中の結合された化學並びに動力工場に使用されるであらう。

ボイラー技術に於いては、バラフィンを含めるマゾウトの使用方法が発見された。同所は、これによつて年に五百ルーブルの節約が出来ると推算してゐる。泥炭採掘に對して新方法が用ひられてゐる。それは今まで使用されてゐたものに較べて、五〇―六〇パーセント廉い。合理化局がこの研究所に付屬しており、諸種の經濟的諸組織から燃焼の合理化に關して委任されてゐる。熱技術研究所の計畫に従へば、この局は一年に殆んど四百萬ルーブルの節約を可能ならしめるであらうと見積られてゐる。加熱装置に對する新しい諸設計もまたこの研究所の業績に數へられねばならぬ。

泥炭生産研究所は泥炭の採掘並びに乾燥に關する新方法と運輸機械化の新方法を発見し、以つてその生産費を半減し、これまでの總額の三分の一乃至四分の一にまでその投資額を低減した。新方法が泥炭採掘期間を八十日から百二十日に延長し得たことは一大改良である。泥炭層を採掘し去つた後の土地は直ちに農業に利用され得る。

最近、建築業のために組織された研究所はコンクリート建築に關する新計算公式を公表してゐる。それは基礎工事に於ける鐵筋コンクリートの五〇パーセントの節約をもたらしてゐる。機械的撰鑛研究所はクリヴォイローグの石英を豊富にする方法を發見し、これに對應する公式を作成した。この

仕事の結果、クリヴォイローグの鑛石に對する大規模の金屬採集事業の諸計畫が完成された。

ケルツシュ半島から産出される鐵鑛に就いては、五二パーセントの鐵を包含した凝塊を産する富化作用が現はれた。ケルツシュの精煉所設立のための計畫はこれらの調査を基礎としてゐるのである。

應用鑛物學研究所は硫黄を含める瓦斯から硫黄並びに硫酸を得る方法を發見した。この方法によつて、ウラル地方に於いて、一トンにつき六〇―七〇ルーブルの需用を以つて硫黄が生産され得る様になつた、即ち天然硫黄の殆んど半額である。そしてこれは硫黄の輸入に非常な制限を加へる。その他に、同研究所はまた、昆蟲其他農業の有毒物の豫防劑の製造法を發見した。

肥料研究所は、非常に率の高い、經濟價值のあるたくさんの過磷酸鹽の埋藏を發見し、これらは既に採掘されてゐる。

我が研究所はアルミニウム問題の解決に偉大な役割を演じた、なぜなら、今日それは解決されたものとして見做されることが出来るのである。それは多くの研究所の研究對象となつてゐる。國立應用化學研究所はアルミニウムの酸化物を採收するために、その原成生産物の工場生産の問題に非常に多くの努力を拂つてゐる。この研究所、並びに他の諸研究所によつてなされた事業の結果として、實驗的事業が既にレニングラードに設立されてゐる。それは一・二トンの硬質アルミニウムを生産するであらう。このアルミニウムについての諸試験は、それが外國アルミニウムと比較して何等遜色ないことを示してゐる。レニングラード地方で大事業の設立が計畫されてゐる、そしてまた、ド

ニエブルストロイ近傍にもより大きな生産能力を有するも一つの事業が計畫されてゐる。レニングラードの企業は應用化學研究所によつて入念につくられた方法を以て營まれるであらう。そしてドニエプルストロイ近傍の企業は、クスネツォフ・シユコフスキー金屬研究所の方法で營まれるであらう。中央ラヂオ實驗所は強力な陰性ランプの幾多の考案を案出し、それはすべての大送信所に使用されてゐる（「コンメンタルン局」、「新コンメンタルン局」）。

フィルム分野に於ては、技術家シヨールンとラーゲルとが「トーカー」の新装置を發明し、それは既に試験され、工場的規模で製造されてゐる。

物理學及び技術研究所の専門家ヨツフェに依る科學的探究はまた非常に興味あるものである。この仕事は絶縁體の問題に關係してゐる。この仕事はまだ完結されてはゐないが、ヨツフェは一年の中に彼れの仕事を完成するものと期待してゐる。彼れの試験の結果はおそらく、絶縁並びに電氣工藝學の分野に一大變化を招來するであらう。

私はこゝに完成されたる科學的事業のすべてについて述べることは出来ない。然しながらも一つの重大な探究を指摘せねばならぬ、それは人造纖維に關する研究である。これはバッハ研究所の研究對象である。こゝでは既に重要な諸結果が得られてゐる。

然し、諸科學研究所の事業は彼等の實驗室でなされた諸試験をもつて盡きてはゐない。彼等は我が諸産業と密接なる接觸を以つて仕事を遂行しつゝ、それに色々と技術上の助力を與へて居る、例へば

新しい複雑な建築物を建立する場合、大きな事業計畫が遂行される場合、改造、合理化或ひは新技術方法の組織化が行はれる際等々。工業の科學的調査事業の方面ですべてのことが最上の状態にあると云ふことを主張し得ないのは事實である。これらの研究所によつてなされた事業はしばしばその目的の明瞭さを缺き、いかなる犠牲を拂つても我工業に新技術を具へようといふ熱意を缺いて居る。またその仕事の速度も甚だ不満足なものである。そして最後に、妨害事件が我々に示してゐる如く、階級意識あるプロレタリアートの指導が缺除してゐる。すべてこれらのことは、この仕事の分野に對して一般大衆の注意を惹くことを必要とし、眞剣な努力がそれに向つて捧げられることを必要としてゐる。地質學上の調査事業について特記されなければならぬ、それは工業のより以上の發展並びにその改造にとつてこの上もなき重要性をもつてゐる。この分野に於ても亦、我々は進歩を語り得る。然しながら、我々は既に仕遂けられてゐるものをもつて満足すべきではない。では如何なる仕事が必要か？ 地質學的調査のための中央監理局の事業のお蔭に依つて、我々はこの二、三年の間に鐵鑛保有量を十億トン以上増加することが出来た——これはカザツクスタン、ネルチンスク等々で最近發見された鑛床をも含んでゐる。全く新なる銅の鑛床が發見された、就中クーンラドスクで。鉛、亞鉛等々の新鑛床もまた發見された。我石炭保有量は數十億トン増加した。其他。

工業にとつて非常に重大な新しい金屬を試掘するに際して、餘り大したものでもなくとも、いくらかの成功をおさめ得たと云ふことを述べる必要がある。この方面では、更に急速なる活動が望ましい。

さりながら、いくらかの進歩は既になされてゐる。就中、タングステン鋼床はトランスバアイカリ
アで発見され、ウラル等々の地方ではマグネシウム、ニッケル、アルミニウムの鋼床が発見された。
我々は今日自身のタングステンを有するので、サヴェート同盟に於いて膚鍛へした鑄物の生産を組
織することが出来るのである。モスコの電氣製作所は既に「ボベテイト」として知られてゐる特
殊鋼の製造に着手してゐる（ボベデイトは「勝利するであらう」の意）。それはクルツプ鋼鐵と充
分に競争してゐる。

地質學的事業の重要性は行政區畫の制定及び五ヶ年計畫の遂行と共に我が國民經濟の諸事業の地理
的位地が變更されたことによつて高められた。最初の二ヶ年間に、既にサヴェート同盟の諸地方に於
ける工業の地理的分布に非常な變化を生じてゐる。次の二、三年の内には更らに重要な諸變化が起る
であらう。

工業の地理的分布

工業の地理的分布は、我々が資本主義から受け継いだものから既に本質的に異つてゐる。これは主
に、我が改造事業に採用された方針によつて説明される筈である。

例へば、ウクライナ、レニングラード、モスコ、イワノフ等の最も古い諸地方と、他方、ウラル、
シベリア、コーカサス、中央アジア、極東地方とをとり、種々の年度に於けるこれらの地方の二つの

集團への投資總額を比較すれば、我々は次の如き數字を得るのである。即ち一九二七—二八年度には
總資本の五九・五パーセントが古き諸地方に投資され、一九二八—二九年度の投資は五三・〇パーセン
トに低下し、一九二九—三〇年度には僅か四七・二パーセントにすぎない。

他方、ウラル、シベリアを先頭とする諸地方は、年々投資額の増加を示してゐる。即ち一九二七—
二八年度には一二・五五パーセント、一九二八—二九年度には一七・三六パーセント、更に、一九二九—
三〇年度には二七・一三パーセントとなつてゐる。換言すれば、全改造事業によつて定められたこれ
らの地方に對する割當は、三年間に二倍以上となつた。同時に新地方に於ける増大せる割當は古い地
方の極めて高度の發展を伴ふものであることが記憶されねばならぬ。古き諸地方は決して停止しては
居らぬ。ウクライナに於ては、基礎資本投下は一九二七—二八年度の三億二千七百六十萬から一九二
八—二九年度には七億二千二十萬に増加してゐる。モスコ地方に於ては投資は二倍となつてゐる。

基礎資本の投下は確實に増大しつゝある。新地區並に新地方に於ける發達は更に急速である。例へ
ばウラル地方の投資の割當は二倍となり、シベリアはその分前を三倍した。一九二七—二八年度と比
較すれば、ウラルの基礎資本の投下は五倍となり、シベリアのそれは七倍となつてゐる。サヴェート
同盟のすべての新地區に於いて、これらの新地區が古い本來の工業地區を犠牲として、その分前を増
大してゐる事實を見るのである。

この理由の一つは、植民地政策が工業の地理的分布に於て常に特殊な役割を演じてゐるところの

資本主義的政策を我々が打破したことにある。企業の場合を決定する場合に、我々はこれらの地方の生産力が充分に利用される様に、原料の莫大な資源を有する新地區を開発すると云ふ原則に従はなければならぬ。この観点より見れば、工業の舊中心地は工業企業発展にとつて最も便宜な場所を常にあたへられて居るとは限らない。

若干の地區に於いて、我々は現存せる原料諸資源とその發掘との間に次の如き不一致を見出すのである。その一例としてクスネツツ炭坑を挙げよう。一九二七—二八年度の材料によれば、その保有量は三億九千六百萬トン即ち我石炭保有總額の七四・五パーセントとなつてゐる。他方ドン地區に於ける石炭鑛床は六千四百五十萬トン、即ちサヴェート同盟の全石炭保有量の二二・二パーセントと測定されてゐる。然るに、一九二七—二八年度に於けるクスネツツ地區の石炭産出額はサヴェート同盟の全産額の僅か七パーセントにすぎず、ドン地區のそれは七七パーセントである。特に目下の急務はウラルとシベリアに第二次の石炭並びに精鍊の中心地を組織する事である。

●現在、サヴェート同盟の金屬精鍊工業の割當は、西部地方の精鍊工業七三パーセント、ウラル地方二二パーセントとなつてゐる。即ち、先の地方は獨占的地位を占めてゐるに等しい。但し、シベリア、ウラル地方は共に五ヶ年計畫の終了までに、自然鐵の全生産額千七百萬トンの中畧々六百萬トンを供給するであらう。即ち一九二九—三〇年度のサヴェート同盟の全生産額以上となるのである。と同時に我々は西部地方の精鍊工業が決して現状を維持してゐるのではなくして、急速に發展しつゝあること

を忘れてはならない。幾多の諸經營は徹底的に改造されんとしてゐる。ドニエプロフ精鍊コンバインは建設の途上にあり、そしてそれに大冶金工場が附隨するだらう。精鍊事業はまたマリウポリとケルチエンスクに建設中である。この事實にも拘らず、サヴェートの全精鍊工業に於けるウラル及びシベリアの割當は増加し、その三分の一に達するであらう。精鍊業のより以上の發展に對する見透しは次の二、三年の間にウラルに對する割當を必ず増大せしむるだらう。私はニヂニニタギリスクの精鍊所（それは五ヶ年間に一部分設備されるにすぎないだらう）と、そしてバイカル精鍊所（それが作業を始める場合にはウラルとシベリアの割當を更に増大させるだらう）とを指摘するだけで充分である。

一般經濟的及び軍事的・政治的考察から必要とせられたこの分布は、今や極めて重要な事柄となつてゐる。他の工業諸部門に於いても、ウラルやシベリアの前には廣大な前途が展開されてゐる。例へば、五ヶ年計畫の終了までにウラル地方は「A」工業グループ（重工業）の生産を十倍以上に増加し、且つその精鍊業に依つて大規模な機械建造、及び特に重要な化學工業の中心地と成り得るであらう。素晴しく廣大なる土地と豊富なる自然的富を有するシベリアは、將來に於て驚くべき速さを以つて發展する地方である。我が國の全工業に於ける、シベリアの割當は一九二七—二八年度と比較して十四倍となり、「A」グループに於ては二十倍の増大を見るであらうと豫測されてゐる。

將來に於ける非常に重要にして、且つ驚くべき富有なる工業地域は、輕金屬、石炭、ゴムを含める植物及び工業用の作物を有せるカザツクスタンである。統制数字によれば、一九二八—二九年度と比

較して、五ヶ年計畫の終り迄にカザツクスタンの生産は十五倍に増加するはずである。カザツクスタンは、おそらく我が國民經濟にとつて、最も重要な工業地區に發展し、輕金屬及びゴム工業や纖維工業の諸原料の輸入の必要をなからしめるに至るであらう。

この國の經濟に於いてウラル及びシベリアに要求されてゐる益々増大する割當は、例へばレニングラード、モスコ、イバノヴォオスネンスク等々の如き地區の工業の發展速度の減少を伴ふものではないことは勿論である。これらの地區は以前と同じく發展を繼續するであらう。そして、またこれらの地區は機械建造及びエネルギー源泉の經濟的開發等の如き幾多の工業部門に於てはその速度を更に増加するだらう。

最後に中央アジア、ヴォルガの下流地方、中央黒土地方、ニヂニノヴゴロド並びに北部地方等の如き地區は、その森林が有する無盡藏の富によつて急速に發展するだらう。然しながら、我が工業の地理的位置に關する政策を選定するに際して、我々は歴史的な最重要性をもつた主要問題に關して定められたヴォルシエヴィキ的方針——新たな石炭並びに冶金の中心地、ウラルとシベリアに於て第二の石炭及び冶金の根據地を建設すること——を固執する我々はこれ等の諸任務を解決せねばならぬし、また解決するであらう。

生産品の品質

來るべき時期に於ては我々の生産品の質的改善に對して特別の注意があたへられなければならぬ。と云ふのは、現在の質は甚だ不足なるものとして指摘されざるを得ないのである。また或る場合には質が益々低下して行く傾向をさへ我々は是認せざるを得ないのである。

大部分の我企業に於ける生産品の質的水準の不充分は、我國民經濟にとつても、また労働大衆の物質的幸福にとつても有害である。劣悪な生産品質は工業の量的成功を滅殺し、工場設備の經費を増大せしめ、五ヶ年計畫によつて設定されたる投資の有效なる結果を獲得することを妨げ、物資の急速なる消耗に依る物資缺乏を増大し、果ては生産費の増大を生ずるのである、と云ふのは、大多數の工業部門は爾餘のそれと連結せる工業に對して原料となるべき生産物を製造するのであるから。最も重要な幾多の工業に於て——而してこゝに最大の危険が存する——生産品の質的低下の兆候が見られる。

決定的な品質改善のための事業は、主として最も廣汎なる労働者大衆の助力に基づき、而して生産及び労働組織の新様式、社會主義的競争、突撃隊等を利用しなければならぬ。

現在までには、社會主義的競争に参加せる労働者の諸集體及び突撃隊は、例へば量の増大と同程度にその品質の改善をなしてはゐないのである。突撃隊のスローガンは一般に次の如きものである——「金屬の若干量、機械の若干数、石炭の若干量を生産せよ云々」。斯かるスローガンは今や、不可避的に次の如き要求——「灰分の含有最少限度の是々量の石炭」——によつて補足されなければならぬ。生産品質は社會主義的諸競争及び突撃隊の任務の不可欠的要素とされねばならぬ。これなくしては、我

我は何事をも達成し得ぬ。凡ゆる企業の事業はその生産の量に依るのみならず、その品質に依つても判定されねばならぬ。何處此處の團體が石炭産額の豫定計畫は超過してゐるが、十六パーセントの灰分を含む石炭を供給したと云ふ場合、何の役に立つだらうか？、何處此處の工場が要求高だけの器具は供給したが、それが暫時の使用に破損したと云ふ場合、何の役に立つだらうか？ 斯かる「完成」はむしろ計畫の失敗である。即ちそれは自己偽瞞であつて、これに關連せる工業部門の成功の證據とはならない。企業の事業を評價するに際して、量的及び質的改善を觀察しなければならぬ。生産品の量的増大にその質的改善が伴つてゐる企業のみが、眞に模範的企業として認められ、社會主義的競争の勝利者として認められることが出来るのである。

經濟諸機關は生産の量的計畫完成の失敗に對してよりも、もつと質的低下に對して責任を負はさるべきである。若し計畫が廢物の増大を伴ふが如きものであれば、それは完成されたものと認められないのである。生産の質的改善のための闘争は、工業及びそれに従事せる凡てのものに最も重要な任務である。我が國民經濟が最も優秀なる生産品を供給されて後初めて、工業の諸業績は堅實な基礎の上に立ち、必要な速度を保證されるのである。

黨大會は、出來得る限りの短期間にこの方面に決定的な變化を齎らすことを凡ゆる工業機關に對して命令しなければならぬ。また黨大會は、全プロレタリア組織並びに全労働者階級に對して、彼等が生産の量的増加に於いて示せるが如き熱意を戦線のこの部分に於て展開することを要求しなければ

ならぬ。

労働の生産性

工業生産の性質と密接な關聯を有する重要な問題は、労働の生産性である。労働の生産性がわが社會主義的改造の決定的要因であるとは云ひ古るされてゐる。レーニンは幾度かこのことを力説した。一九二六年——二七年、即ち、第十五回黨大會の前年より本年の上半期に至る間に於て、労働の生産性は四十パーセント増大し、現在に於ける生産高は、戦前の労働の生産高を超えること五〇パーセント以上に及んでゐる。而も工業の全般にわたり、平均労働時間が七・二時間に短縮され、企業の大多數が七時間制を採用し、また、銀行或は危険なる職業に従事する労働者に對しては、六時間制が採用されたにも拘らず斯様になつたのである。

しかしながら、わが労働の生産性に就いては、吾々は尙近代的な資本主義諸國に後れてゐる。例へば、サヴェート同盟の炭坑に於て労働者一人當り年産額は、一六四トンであるが、合衆國に於ては七一五トンである。サヴェート同盟に於ける鐵鑛の年産額は、一人當り二一八トンで、合衆國は一、二七〇トン、即ち約六倍の多きを示してゐる。紡績業に於ける吾が年産額は、一人當四、四トンであり合衆國は一五、四トンである。また、製糖業に於ける吾が年産額が労働者一人當り一六、四トンであるに反し、合衆國に於ける數字は一〇〇トン即ち、約七倍の額を示してゐる。(喚聲——彼等の技術は

非常に進歩してゐる。然り、私は丁度その點について述べようとしてゐる。

「追いつき追ひ越せ」のスローガンを實現することの必要性は、労働者の生産力増大のために系統的な決定的努力をなすべき義務を我々に課してゐる。そして第一にそれは、労働者の進歩せる技術的設備によらなければならない。労働者の生産力の増大が、大部分労働者の技術的設備の進歩に、従つて吾國産業に於ける投資の増加に依存してゐるといふことは明白な事實である。一九二七—二八年に於ける労働能率の四一パーセントづゝの増加は、投資の増加に基因してゐる。この期間中に於て、工業に於ける労働者一人當りの平均投資額は、四千二百—五千八百五十ルーブル、即ち三九パーセント増大した。これら二つの數字の相互關係は明白である。

サヴェート同盟に於ける労働者の生産力の増加は、大部分工業の技術的再組織、工業への投資及び最新の生産手段を労働者に與へることに基つてゐる。本年度のみに於ても豫定されてゐる二五パーセントの労働生産性の増加は二二パーセントの投資の増加に附隨してゐる。最初の七ヶ月間に於て、労働者の生産性は事實一七パーセント増大した。投資計畫以上の莫大なる投資があり乍ら、労働の生産性を獲得することに失敗したのは殆んど主觀的性質の理由に基いてゐるといふことは明白である。

労働者の生産性を更に増大せしむる最も根本的な手段は、その増加しつゝある活動性と創意と關聯して現在労働者階級の間に進行しつゝあるこれらの諸過程である。社會主義競走及び突撃隊の一層の發展、労働規律の改善、労働者自身の積極的支持による合理化促進の諸方策の實施、労働者一人づ

つに對する投資及び技術的設備の同時的增加を伴ふ機械的設備及び其他の設備のより良き利用等——すべてこのことは、來るべき時期に於て我が労働者の生産性の非常な増加を保證するであらうから、非常に短時日の中に我々は最も進歩せる資本主義諸國をも壓倒し、凌駕するに至るであらう。

質に關してこの計畫によつて課せられた任務は、まだ決して成就されてはゐない。これはその任務が餘りに困難であるがために、それらの任務の完成が不可能であり、従つてそれは輕減さるべきであることを意味してゐるのか？、否、決してさうではない。

我々は生産の一層の増加、生産費の引下、労働生産性の増大及び質の改善等のために、莫大なる貯藏を自由に用ゐることが出来る。我々にこの質的進歩を可能ならしむる最も重要な手段は、合理化、主として現存せる經營の最も有效なる利用により、また最も新しき近代技術の最新の成果を實施することによつて成就されるべき社會主義的合理化の方法である。合理化は、我々の第一の任務、即ち生産費を引下げ生産物の質を改善する最も有力なる槓杆でなければならぬ。

焦眉の間に、吾々は作業交代率をその最大限度にまで増加すると云ふ實踐的スローガンを實現すると云ふ任務につかねばならぬ。この方法によつて、我々はまだ埋れてゐる豫備を覺醒させることが出来る、またもつと合理的な方法で我が諸經營を利用することが出来るであらう。

作業交代率は極めて除々に増大してゐるにすぎない。即ち。去年の黨大會以來僅か十パーセント増加したにすぎず、現在は、一・六倍となつてゐる。一交代時間の長さを平均すれば七・二時間である

ことを考慮する時、わが機械設備の一日の使用時間が十二時間なることを知るのである。交代率の増大によつて——それが僅二回にすぎない場合にも——わが経営を十五時間の間使用する事が出来、従つてそれは非常なる躍進となるのである。作業交代数、並に連続的生産への推移の一層の促進は、未だ口のつかない貯蔵を動員し、またわが発展の歩調を促進せしめる新しい源泉の開発のための最も重要な横杆である。

規格化の問題は徹底的に究明さるべきだ、なぜならば、規格化の制度は生産の改善並びに全工藝的過程の合理化に對して最も有力な要因の一であるにもかゝらず、猶多くの人々がこの方策の重要性を輕視してゐるからである。規格化は大量生産を可能にし、傳送帶の採用を可能にする。そして最後に、規格化、は規格に當てはまらないすべての生産品が除去されると云ふ事實によつて、この任務を容易にするから、品質改善のための烈しき闘争に大いに貢献するのである。規格化は生産の増大のためのみならず、この最大の有害たる生産品の劣等なる品質に對する斷乎たる闘争のための強力なる武器である。私はこの問題に深く立入らないであらう。只ある程度の成功がをさめられる筈であることが認めらるべきである。全サヴェート同盟に至つて、殆んどすべての工業部門に於いて使用されてゐる規格数は四百以上に上る。然しながらこれらのものは非常に貧弱な成果である。今日では、規格化は工業設備或は建築材料にまで、擴大されてゐないこれらの工業部内に規格を實施することは最も重要な任務である。

我々は今年わが企業の特特殊化についてはある程度の進歩を認め得ようが、生産のも一つの極めて重要な要素、即ち企業の協同についても同様だとは云はれない。企業の一層の特特殊化と協同は、生産物品質の改善並びに生産費の引下に大いに貢献することが出来るが、計畫事業に於ける一大躍進を前提としてゐる。

生産の合理化に於ける最も重要な要素は、生産諸過程を正しく計畫するための闘争であり、今後もなほそうである。そしてこの任務を遂行するためには、諸部門、労働者隊並びに個々の労働者の参加に俟たなければならぬ。生産費の引下のために計畫された數字は、合理化の具體的計畫の結果でなければならぬ。系統的計畫的事業の擴大、並びに生産をよりよく組織するための活動は、工業及び合理化のために働いてゐる總ての機關の緊急な任務である。

經驗の教へるところによれば、傳送帶制度が採用されたあらゆる場合に、なされた仕事の分量並びに企業の生産能力が非常に増大して居り、それと同時に生産の週期の長さの短縮（三分の一乃至十分の一だけ）、面積利用の率の増大（三倍乃至五倍）製造品の價格の引下げ、並びに費用價格の引下げ等が行はれた。我々は労働の分業のための諸方策並びに傳送帶制度の實施等々を促進しつゞけねばならない。

企業の合理化の結果を示してゐる二三の實例を引用することは無駄ではあるまい。斯かる實例の列擧されてゐる諸報告を読むと、我々は、以前にこれらが何故に採用されずにならなかつたか、そしてまた生産

に於けるこれらの顕著な成功が何故に獲得されずになたかが不可解となつてくる。時々、全くの奇蹟が行はれた。かくして、例へばモスコイのある企業で、ボイラー製造に電力溶接法が使用された結果、生産費が二千三百ルーブルから千六十二ルーブルに、即ち三〇パーセント低減された。「クラスニー・ソルモヴェツツ」製作所で仕事場の設備に僅かばかりの新しい合理化の方法が實施された結果、輪轉機及び壓搾器の製造に十四時間が節約された、即ち十九・五時間の代りに僅か五・五時間しか要されなかつたのである。「クラスニー・プロフィンテルン」工場の鑄造場は合理化的方法によつて、その生産額を二三パーセント増加することが出来、同時にその生産費を二一、六パーセントだけ減ずることが出来た。

これらの二三の實例は、我工業に於ける發展の多大な可能性が合理化の進行、並びに工業に於ける無駄に對する闘争を待望して潜在してゐることを示すに充分である。

合理化が常にかゝる驚くべき成功をもたらすものでないことは本當である。けれども、勞働の結果改善に於て獲られたすべてのパーセントは、全工業に應用される場合にはそれが益々増大しつゝ生産の莫大な増加を吾々に保證するものであることはすべての人々に明らかでなければならぬ。一パーセントが、百八十億の價值を代表するところの、最高國民經濟會議によつて統制されてゐる諸工業の總生産額の應用された一億八千萬ルーブルを生じ、又一〇パーセントならば十八億ルーブルを生じるのである。それ故、我々はこの任務に全勢力を注がねばならぬ。若し我々が諸種の企業に於て一、二ある

るひは十パーセントの改善を獲ることが出来れば、わが發展の速度は非常に増大され得るのである。我生産諸装置の多くは、今猶、合理的組織の不足の結果空轉をつゞけてゐる。燃料問題に従事してゐる同志等によつてなされた計算によれば、専門的に必要とされる以上に、少くとも三倍の價值の燃料が我が工業に於て費消されてゐるのである。

我々がなすべきすべてのことは、實驗され、試験された合理化の諸方法をわが全工業に應用することである。さうすれば我々は、我が國民經濟にとつて非常に貴重な燃料を三億ルーブルまで節約することが出来るであらう。また計算のなされた所によれば、建築事業に於いて、我々が必要以上に二十萬トンも金屬を使用してゐることを示してゐる。私の考へるところでは、この數字は餘りに低く見積られてゐる。猶、それは中位の企業の年産額である。建築には非經濟的な、合理的な方法が用ひられてゐるので、この金屬は徒費されてゐるのである。鍊瓦の浪費は年に十五倍と計上されてゐる。すべてこれらは我々が我が工業に於ける我々が機械の無駄な運轉及び原料の浪費に對する闘争を最も緊急な任務として日程に上せねばならぬことを示してゐる。それは我々がこの目的で合理化を極度に押進め、且つ生産自體で活動してゐる合理化の諸機關及びトラストに屬してゐる合理化局とを發展させねばならないことを示してゐる。

幹部の問題

同志諸君、私は工業の躍進に於ける極めて重大な要素について簡単に觀察しよう。私は幹部について述べる。我々が五ヶ年計畫の下に想定した速度を以つてする國家工業の發展、より高級な技術的基礎への工業の推移、生産の新様式並びに新手段の實施等——すべてこのことは新らしき幹部を創設すること並びに古き幹部の再養成とを要求してゐる。

全勞働者階級の技術的並びに一般的文化的教育の水準は昂められねばならぬ。この問題は最も重要な緊切なもの一つで、且つ決定的な遠大なる諸問題の一つである。今日の我が幹部の状態は、勿論工業をも含めて全國民經濟の發展の速度を甚しく制限してゐる。多くの場合、多くの産業部門及び多くの地方では、發展途上の障礙をなすものは、金でも、また建築物でもなく、幹部、即ち熟練並に有資格勞働者の状態である。

例へば、我々は人絹工業を發展させるのにもつと増大な進歩をなすことが出來た。然しながらその他の諸障礙の外に、こゝで我々はまた生産過程についての無智、工藝上の過程を進行させ、必要な經營を計畫することの無能等によつて妨げられてゐるのである。我々はたゞ外國からの技術的援助によつてのみこのことをなし得るであらう。若し我々によく訓練された幹部があるならば、今後大抵の場合に我々は急速なる進歩をなすことが出來るであらう。

最初、私は勞働の問題をとらう。

現在我が勞働の訓練がなされてゐる速度は不充分である。時間がないので、私は遂にこの問題を述

べることは出來ない。だから、私はたゞ、中央委員會によつて確認された私の報告に關するテーゼの中で云はれてゐることをいま一度強調することとせよ。即ちそれに定められてゐる計畫は是非とも必要なものであるから、如何なる犠牲を拂つても遂行されねばならないのである。

我々は今や強制的な速度を以つて熟練勞働者を養成しなければならぬ。今年中は二十萬の勞働者が新たに我産業に従事した。來年には、更に三十五萬人の勞働者の就業を見らるであらう。然しながら徒弟學校の在學生は僅かに十七萬人にすぎない。この人數以外の必要勞働者の全部が、例へば「中央勞働學院」の各部門の講習會と云ふ様な、短期講習會で急ごしらへに養成された勞働者から構成されざるを得ないことは明らかである。

勞働者が資格を與へられる主なる形式となつてゐる徒弟職業學校は、更にもつと發展させられねばならぬ。次の時期には十三萬五千人がそこには收容されるであらう。然しながらこれは充分ではないし、決して今日の我々の要求を充たさないのである。生産過程並びに建築事業に對して勞働者を準備する、あらゆる形の簡単な教育課程は出來るだけ速かに發展されねばならない。

我々は技師及び技手の幹部の養成に際して非常に大きな任務に直面する。工業だけに十七萬六千人の技師が必要とされる。我々は二十五萬九千人の技術者團を必要としてゐる。五ヶ年間に四十三萬五千の技師と技手が養成されなければならない。現在我々は實際には、大學教育をうけた約二萬四千の技師と、工業學校に學んだ二萬七千五百人と、四萬八千五百人の技手を有してゐる。だから我々はな

は四十三萬五千人を養成しなければならぬのである。

すべてこのことが、全國並に全經濟機構の異常なる努力、全プロレタリアートの動員を要求してゐることは瞭かである。専門學校は急速に増加して來てゐる、去年中に十一の新しい工業専門學校並びに多くの新職業學校が授業を開始した。二十の新工業専門學校の設立が開始された。しかし、これでもまだ充分とは云へない。將來に於てはこの速度を更に凌駕しなければならぬ。

我々の任務が専ら新しい専門家の養成のみではなく、同時に既に働いてゐる専門家を再養成し、更により良くこれらを利用することには明らかである。特に弱い點は科學的調査事業である。そこには専門科學者の二パーセントに足りない人員が従事してゐるのみである。これらの間に於ける××主義者の割合は八パーセントにすぎない。この状態は如何なる犠牲を拂つても根本的に變革されねばならぬ。

技師及び中級並びに高級の資格を有する専門的熟練労働者に對する我々の必要は、我が諸工業に於て行はれて來た妨害(これについて同志オルジヨニキツゼが詳細に述べてゐる)によつて益々大きくなつてくる。如何なる犠牲を拂つても、我々は吾々自身のプロレタリア専門家幹部を創り出さなければならぬことは全く明瞭なことである。我々自身のプロレタリア専門家幹部を持つことなくしては、我々はサポタージユを又又再發させるといふ危険におちゐるのである。故意に我々に損害を加へてゐるこれらの技師達の間には、猶よく何もかも心得てゐて、やらうとさへ思へば我が工業に多大の貢獻を

與へることが出來た多くの人々があるのである。

猶舊社會秩序との接觸を維持、その復歸を夢想してゐるこれらの幾多の専門家が今日そのサポターヂユを打切るであらう。或は又、例へ彼等が實際的な損害を與へないにせよ、尙、彼等の持つてゐる技術的智識を充分利用せず、かくして工業の技術的再裝備を遅延せしめるであらうといふことについては、何かそれを保證するものでもあるのか？、我々はさういふ證據を何一つ持つてはゐない、そこにはプロレタリア國家並びに労働者階級と協働し、社會主義的改造にその全努力を捧げてゐる幾千幾萬の技師があり、また、そこには社會主義的改造のこの力強い計畫の一部であることを既に感じてゐる幾千幾萬の技師がある。だが其れにも拘らず、プロレタリア國家は、それ自身の技術的幹部を養成し、而して經濟學者の一般的指導を経て、それ自身を武装させるべき技術的知識に基づいた明細な技術的指導にまで前進した時に初めて、工業の技術的再裝備の過程を労働者階級の利害に従屬させることが出來ると云ふことは明らかでないことだ。

眞剣に活動してゐる凡ての専門家を最大限に利用せねばならぬし、彼等の活動のために最高の同志的な有利な諸條件を創り出さねばならぬことは云ふまでもない。但し、我々は下級幹部を創り出さぬ限り、また労働階級自身に依つて構成された赤色技師の幹部養成の方向へ決定的に踏み出さぬ限り、工業の改造が來るべき二三年間に於いて社會主義の終局的建設への途上を辿るものであると云ふことは決定的には何ら保證されてゐないのである。

労働大衆の活動性

三四四

我が工業發展の凄まじい足取は、工業に於ける就業労働者数の増大並びに彼等の物質的地位、文化的水準の國際的向上を伴つてゐる。一九二六—二七年以後の期間に於いて労働者数は三十九萬四千の増加を示し、今年の上半期のみにて、二十五萬人の労働者の増加が記録されてゐる。實質賃銀並びに社會保險の水準は戦前水準を六十七パーセントだけ超過してゐる。若し七時間制を實施し（今年は七時間制の下に働いてゐる労働者が四七パーセントに達するであらう）二週五日制を組織し、新住宅の建築や労働者保護の擴張に對して巨額を費しつゝあるその同じ時に、我々はこれらの成果を達成したのだと云ふことを想起するならば、我々が如何に労働者の物質的地位の向上のために系統的努力を拂つたかについて、まざまざとした觀念を得ることが出來よう。

工業中心地の住宅建築に費される總額だけでも、過去三年間に殆んど三倍し、今年度には三億四千百萬ルーブルに達してゐる。

工業の成長、五ヶ年計畫の凌駕、労働者の物質的地位の向上並びに文化的、その他の便益の増大、自己批判の展開——等すべて之等は、嘗つてみられなかつた程の活動性を労働者の間に呼び起してゐる。

吾々は社會主義競走の廣汎に擴がつて行く波を見る。そして、一般に殆んど例外なく、これらの社

會主義競走や突撃隊が、生産の激増、生産費の低減並びに生産に於ける労働者の技術的活動の巨大な増加を齎らしてゐるのを見るのである。技術の改良や生産の組織のために、益々多くの提案が労働者の側から提出されてゐる。そして労働者の側からのこれらの提案が、生産過程を極度に加速度化せると云ふ事實を物語る所の多くの興味ある證據がある。生産會議の活動は社會主義競走や突撃隊運動によつて促進されつゝある。この領域では我々はまだなし得られるすべてのことを遂行してゐなかつた。この事は工業上の損失を排除するための努力と關聯して、最近多くの場合に特に著るしかつた。生産會議は労働者大衆の活動力を動員することにまだ充分に成功してゐない。例へばエレクトロシラ工場に於いては一九二八—二九年の全期間に唯九三〇の提案が採用されたにすぎない。然し、工業上の損失を征服するための二週間カンパニーが組織されて後は、約四千以上の新提案が採用されたのである。モスコーの電氣工場で組織された損失排除の十日間カンパニーは二千五百の提案をもたらしした。

私は、労働者の創り出した經濟的に有利であり、且つ利潤の多い提案の採用といふ點に關しては、今日も猶、これといふ程の成果のない状態であることを述べておかねばならぬ。然しながら根本的改善の方に向つて既に一步が踏み出されてゐる。私は生産會議の議長を生産會議の諸提案の遂行をもその任務とする補助指導者の地位に任命するといふ事から得た經驗を言つてゐるのである。この方法は提案の遂行を著るしく増大させるといふ結果を齎した。明らかに、吾々は事業の大多數にこれらの組

織形態を實施しなければならぬ。

發明の點でも、労働者の活動性は非常に増大してゐる。不幸にも之等の發明は未だ充分に利用されてゐない。多くの特許權が請願されてゐる。一九二九—三〇年の間に於て、労働者の出願した特許權數は、一九二八—二九年の間に於けるその數の十二倍に増加した。そしてこれらの發明は最早やあれこれの機械の少しばかりの單なる變更ではない。現在示されてゐる發明的才能は國民經濟的な廣大な重要性を持つてゐる。我々は労働者の發明能力の利用に對して、もつと多くの注意を拂ひ、もつと多くの資本を投ぜねばならぬ。

概 括

工業の力強い發展の主なる原因は何であるか、工業の發展を動かすつゝある主なる根源は何であるか？ 我々は何の躊躇もなしに、社會主義競走突撃隊運動がこの運動を前進せしめた主なる要因であつたと云ふことを述べ得るのである。それは専ら労働者階級の政治的活動の増大に依るものであり、また、労働者階級が、彼等の利益は社會主義的改造の利益に一致してゐるものであると云ふことを充分把握したことに依るものであり、労働者階級が工業の發展を促進し、今日資本主義諸國が到達し得た最高の速度に到達し、これを凌駕するために及ぶ限りの努力を行つたことによるものである——我々がこれらの成功を勝ち得ることの出來たのはすべてこれらに依つてである。

労働者のこの政治的活動性、即ち労働者階級によつて示されたこの熱意は、本質に於て社會主義建設の事業に於いて黨が取つた正しき政策の結果である。若し我々が五ヶ年計畫の實施の結果を概括するならば、我々は工業に於ける五ヶ年計畫が四年間に遂行されるであらうと云ふことを確信を以つて述べることが出来る。このスローガンはあらゆる労働者の口へのぼり、勝利の最善の豫兆である。もう一つの勝利の保證は、レーニン黨が社會主義的改造の過程を指導しつゝあると云ふ事實である。審議期間中に黨の中央委員會は各産業部門に於ける發展を注意深く、周到に探究した。一つとして重要な産業部門で中央委員會が注意を拂はなかつたものはなかつた。中央委員會が統制委員會並びに、經濟機關の援助をかりて、社會主義的改造のテンポをより以上に促進し、以つてその過程を早めるための諸資源を開發することが出来なかつた場合は一度もなかつたのである。

私はこゝに、中央委員會の政治局によつて取り扱はれた問題の中、最も重大なものと考へられるものを選んで附け加へよう。それは即ち國民經濟の發展に關する五ヶ年計畫である。

纖維工業の現状と前途に關して、黨の中央委員會は吾が原料貯藏物の經濟的利用に關する問題並びにケンデールやラミーの如き新しい纖維植物の利用に際してなされた諸實驗に關して非常に重大な決定を採用した。

最高綿花委員會に就いて中央委員會の採用した決定は五ヶ年計畫がたてたものよりも實際上はもつと廣汎な範圍に亘る綿花生産計畫をたてゝゐる。造船トラストに關して更に廣汎な建設の計畫の決定

がある。

中央委員会は次の諸問題を取り扱つた、即ちレーニングラードの機械トラスト事業、製鐵金屬工業の發達に關する見透し、南方鋼鐵トラスト事業トラクター、農業機械の製造（それに就て私が報告したすばらしきプログラムが採用された時）、木材輸出、兵器工業、一九二九—三〇年の最初の三ヶ月に於ける工業統制數字の實現等。（一九二九—三〇年のプログラムの量的成果、實現に於ける成功の可能性を吾々に與へてゐる一つの非常に重大な決定が採用された。）

黨の中央委員会は電氣工業事業、製煉工業の費用の増大、南部金屬トラストの活動、金屬工業の狀態に關する報告に照しての企業の監理（すべての工場組織間の正しき相互關係を規定してゐる非常に重大な歴史的意義を有する決定）ドニエブルの發電所に於ける工場、群の組織、ウラルの金屬トラストの事業、煉鐵工業の企業の改造等々をも取り扱つてゐる。

私は經濟的改造に關する最も重大な諸問題を列挙してゐるにすぎないことを繰返して置く。中央委員会は、ボルシエヴィキ的レーニン主義者の決斷を以つて、社會主義建設の過程、即ち工業の社會主義的改造の過程を指導してゐる。

現在、鬭争は工業財政計畫のために、五ヶ年計畫を四ヶ年間の遂行のために行はれてゐる。我々は既に勝利を獲得しつゝあり、そして、明らかに我々の任務の量的方面に就いては完全に勝利するだらう。然し我々は今までよりも、一層偉大な鬭争に面してゐる。そしてこれらの諸鬭争は、我建設的活動

の戦線に於いて重に戦はれるであらう。こゝで我々は、如何なる犠牲を拂つてもボルシエヴィキ的精神を以つて前進しなければならぬ。

我々の目前には生産物の品質改良の戦線並びに生産費の低減の戦線に於ける鬭争が横つてゐる。工業計畫並びに「五ヶ年計畫の四ヶ年遂行」は巨大な鬭争並びに大規模の鬭争の結果としてのみ實現され得るのである。

レーニン黨並びにその中央委員会はこれらのすばらしき鬭争を指導しつゝある。我々はレーニン黨が鬭争を指導してゐるが故に、鬭争に身を捧げてゐる軍隊が我が光輝ある労働者階級であるが故に、我々のXXを確信するのである。（熱狂的な漙てしなき喝采）

昭和六年四月十日印刷
昭和六年四月十五日發行

著 作 權



所 有

【定價壹圓參拾錢】

譯 者 産業勞働調査所

發行者 東京市神田區今川小路三ノ六 市 川 義 雄

印刷者 東京市京橋區築地二丁目三十番地 川 崎 佐 一

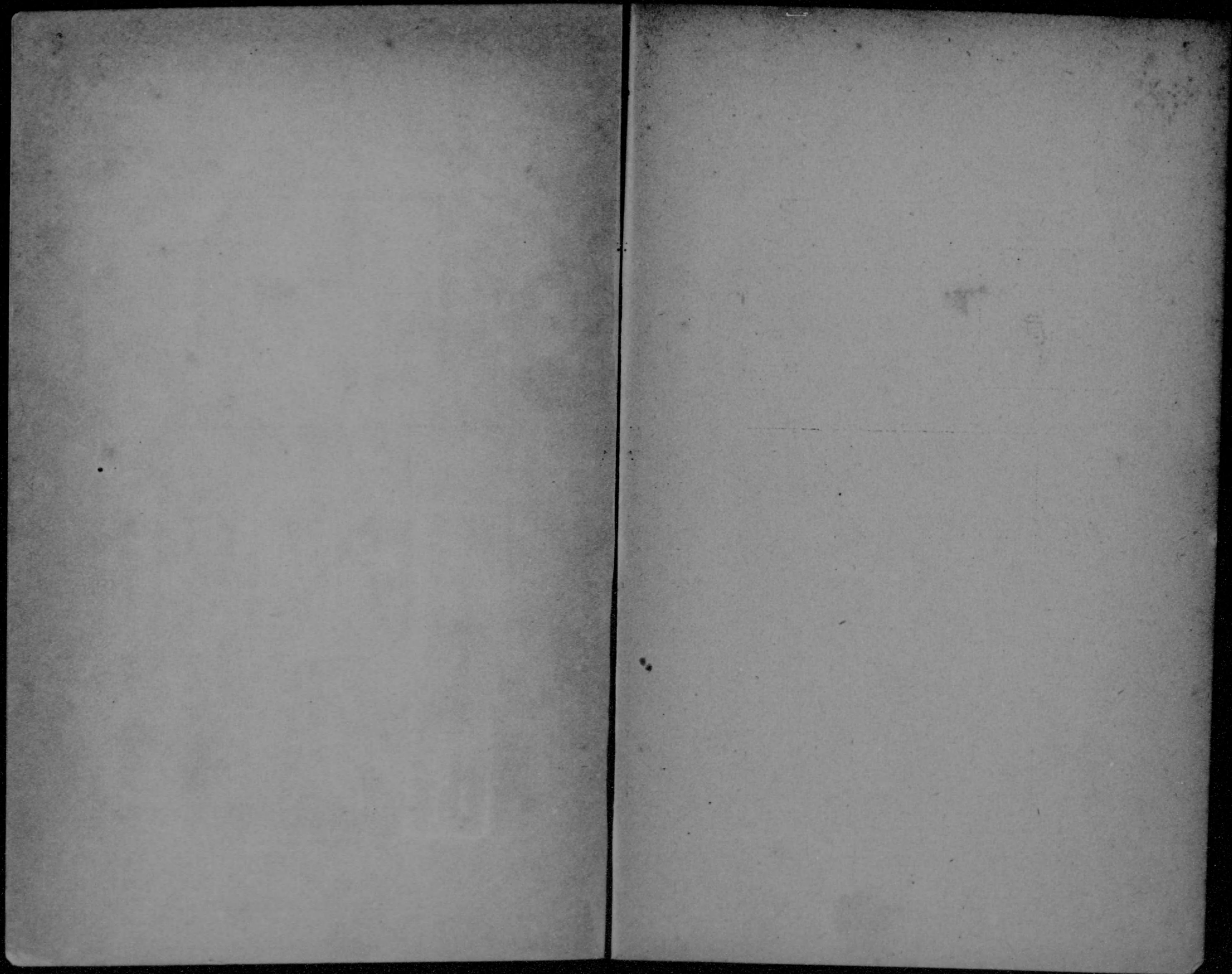
發行所

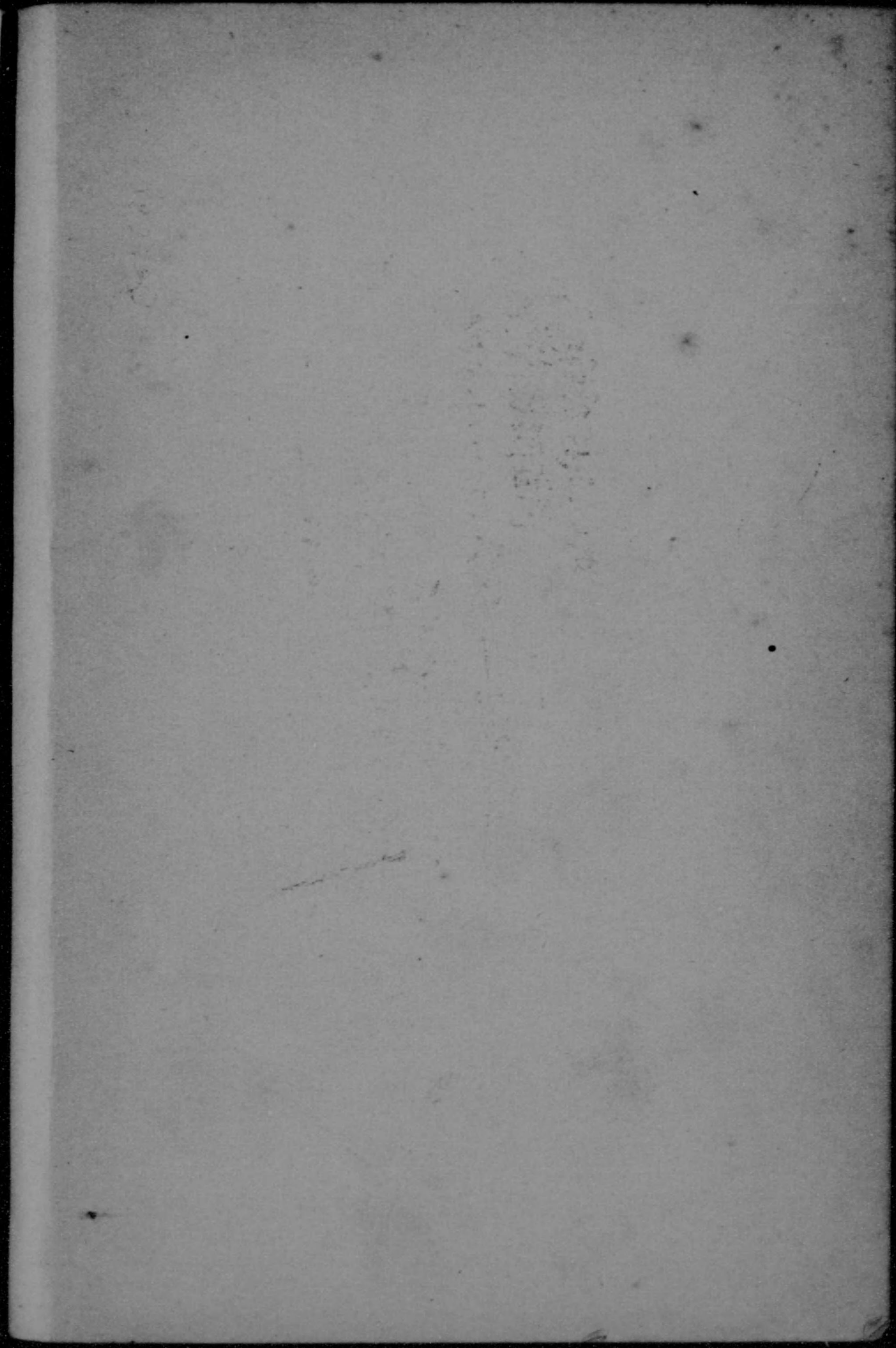
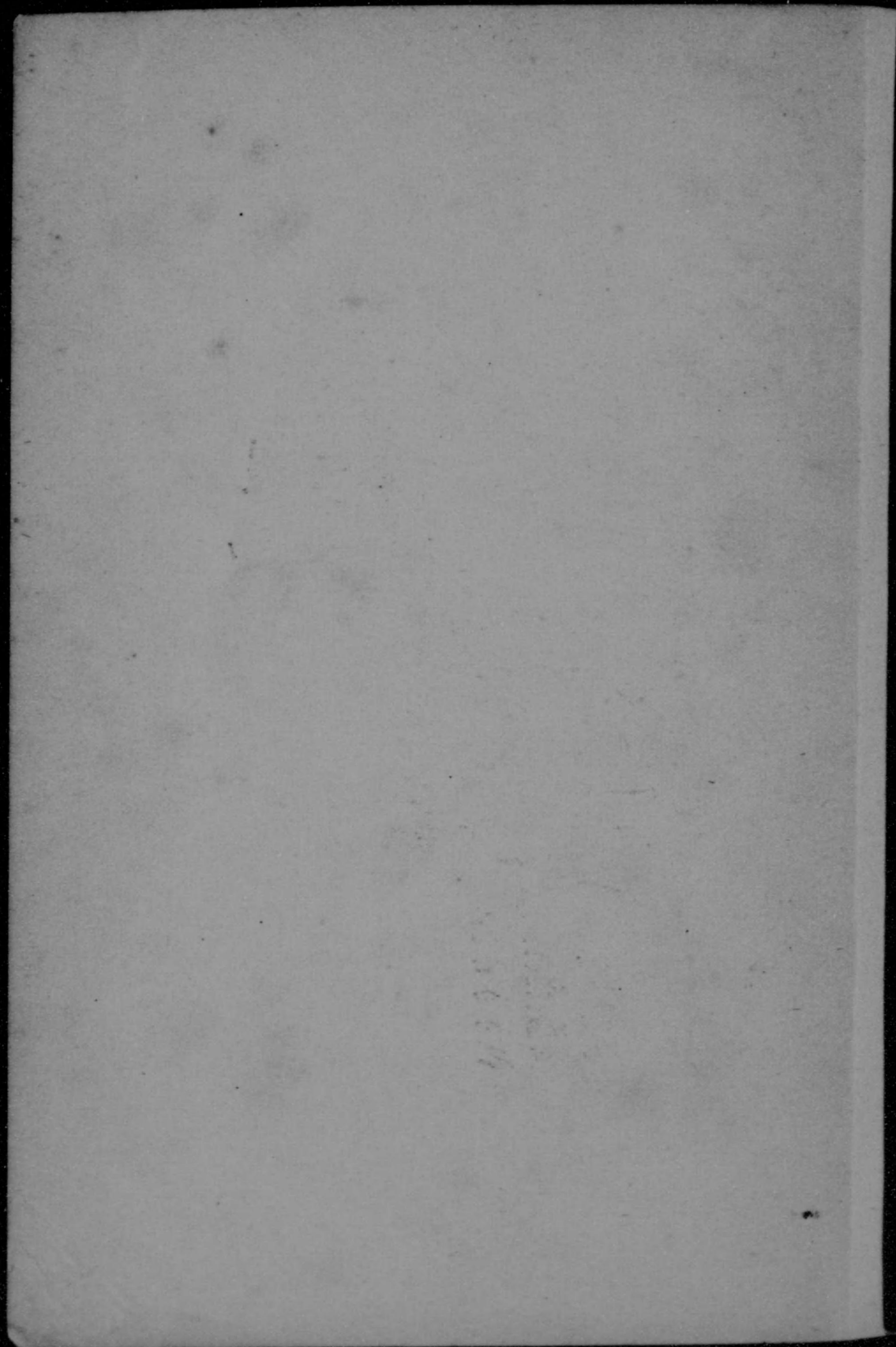
東京市神田區今川小路三ノ六
振替東京六七五一九番

希 望 閣

〔川崎印刷所印行〕

日日文庫





¥1.30